

立科町

町勢要覧 2025





立科町長 両角 正芳

合併70周年にあたり

この70年間、立科町は時代の変化とともに様々な課題に直面しながらも、町民の皆さまの英知と努力によって発展を遂げてきました。特に近年は、人口減少や少子高齢化が急速に進む中で、地域の活力をいかに維持するかが重要な課題となっています。行政サービスのニーズは多様化し、医療・介護の充実、移動手段の確保、空き家対策など、きめ細かな対応が求められています。

当町は目指す将来像を「人と自然が輝く町」と定めています。この町の豊かな自然環境を守りながら、持続可能な地域づくりを行うには、町民の皆さま一人ひとりと行政とが力を合わせていくことが不可欠です。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、この冊子が、町の現状を知り、未来を考える一助となることを願っています。これからも、町民の皆様と共に、立科町のさらなる発展に向けて努力してまいります。

70th Anniversary of the Merger

Over the past 70 years, even as it has faced up to changing times and a range of issues, Tateshina Town has continued to develop thanks to the wisdom and hard work of its people. In particular, in recent years the question of how to maintain the vitality of the region is an important issue as the population continues to rapidly decrease and the decline in the birthrate and aging of that population accelerates. The demands on administrative services are diversifying, and meticulous responses are called for to address such matters as improving medical and nursing care, securing ways of getting around, and measures for dealing with vacant houses.

Our town has established as its vision for the future being “a town where both people and nature shine.” To protect this town’s rich natural environment while carrying out sustainable community development, it is essential that each and every resident and the town government join forces. I ask for your understanding and cooperation.

Finally, I hope that this pamphlet will help you to understand the present state of the town and to think about the future. I will continue to work hard together with all the residents toward the further development of Tateshina Town.

Masayoshi Morozumi, Mayor of Tateshina Town

Contents

蓼科山の麓に広がる町 —

立科町の四季	2
歴史が息づくふたつの道	10
心をつなぐ、祭りと文化	12
とっておきスポット	14
自然の恵み、おいしい立科	16
歴史を刻む水の遺産「堰」	18

人と自然が輝く町 —

〈こども・子育て〉安心して子育てができ、こどもが健やかに育つまちづくり ...	22
〈教育・文化・人権〉生涯にわたって学び成長できるまちづくり	24
〈健康・福祉〉誰もが健康で生きがいを感じて暮らせるまちづくり	26
〈産業振興〉地域資源と人材が価値を生み出す産業のまちづくり	28
〈建設・環境〉快適で暮らしやすい生活環境を整えるまちづくり	30
〈コミュニティ・防災〉コミュニティが支える安心感と魅力のあるまちづくり	32
〈行財政〉未来につなぐ効果的・効率的な行政運営	34
地域とつながり、世界とつながる。	36
立科町イラストマップ	38
移住のススメ	40

資料編2025 —

立科町のあゆみ	42
立科町の概要・統計資料	64
施設一覧	75

表紙の言葉

『初夏の女神湖』

漫画家・イラストレーター わたせせいぞう

ボクは万緑を感じるこの季節の蓼科山が好きです。

ダボス会議で有名な、ダボスはスイスのアルプス山岳リゾート地にあり、蓼科山中腹の白樺高原と同じ標高というのが、ボクの密かな自慢です。

今回のイラストは、美しい蓼科の山々に囲まれた「女神湖」と、初夏の緑の向こうに望む遥かな北アルプス、そして広大な空が広がる開放感抜群な「女神のテラス1830」を作画の舞台に選ばせていただきました。蓼科牧場ゴンドラリフト山頂駅のすぐ横です。

恋人やご家族ご友人と、この雄大な「万緑」を身体いっぱいハートいっぱい感じてみませんか。



蓼科山の麓に広がる町

春

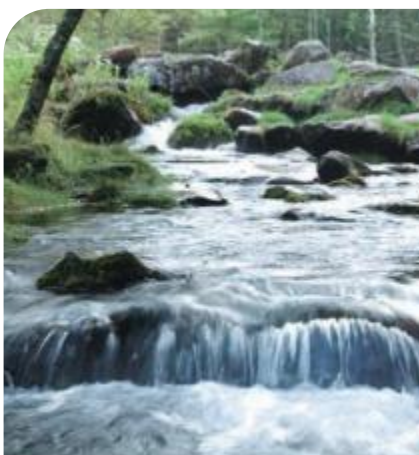




花咲き誇る、うらかな季節

春の訪れを告げる無量寺の桜、陽だまりの温もり。

おだやかな風景に、ふと笑みもこぼれます。



夏





天空の涼風、光あふれる季節

涼やかな白樺林を抜けると広がる高原牧場。
雄大な風景が、開放感と癒しを与えてくれます。



秋





錦秋の彩り、恵み豊かな季節

たわわに実った真っ赤なりんご、津金寺の紅葉。

自然が織り成す風景が心に深く刻まれます。



冬





白銀のしじま、凜と輝く季節

凜とそびえる蓼科山。

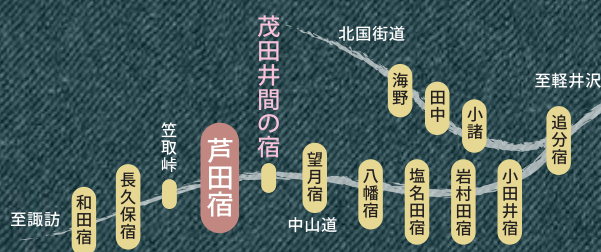
果てなく広がる青と白の風景が、時を忘れるほどの静寂へと誘います。



歴史が息づくふたつの道

中山道と古東山道

古くから東西を結ぶ要衝の地として栄えた立科町。豊かな自然に抱かれた中山道や古東山道沿いには、今も歴史を物語る風景が広がります。多くの旅人が行き交った古道を進めば、かつての面影がそっと姿を現し、かの絵師歌川広重が描いた世界と重なる瞬間があるかもしれません。



中山道

かさとりとうげ

【長野県天然記念物】

笠取峠のマツ並木

The line of pines in Kasatori Pass

中山道芦田宿の西側から笠取峠にかけて、約2kmにわたり続くマツ並木。この並木は、徳川幕府が街道を改修する際に、旅人が暑さや風雪をしのげるように植えられました。当時、笠取峠にはアカマツの苗753本が植えられ、その美しい風景は歌川広重の浮世絵にも描かれました。

長い年月のなかで風雪や台風の影響を受け、本数は減ってしまいましたが、現在も約150本の松が残り、長野県内に現存する唯一の街道並木として大切に保存されています。この貴重な歴史遺産を未来へ受け継ぐため、現在は苗圃を設け、古木から採取した種を育て、新たな苗木を植栽する活動を続けています。



もたいあいのしゆく

中山道

茂田井間の宿

Motai Ainoshuku

茂田井は、中山道望月宿と芦田宿の間に位置する『間の宿』として栄え、旅籠を持たない休憩処ながら、多くの旅人でにぎわいました。現在も風情ある白壁土蔵造りの町並みが残り、2軒の酒蔵がその歴史を刻んでいます。石割坂を登ると、江戸から42番目の一里塚跡が静かに佇み、往時の旅の名残が感じられます。



一里塚跡

古東山道

あまざかいとうげ

雨境峠

Amazakai Pass



4～5世紀頃、大和朝廷が東国支配のために開いた官道・東山道。大宝2年(702)の令制施行を境に「古東山道」と呼ばれるようになったこの道は、大和を出発し、美濃から信濃へ入り、毛野・武蔵・陸奥へと続く、東国統治の重要な道でした。

蓼科山北麓、標高1,580mに位置する雨境峠は、古東山道上にあり、周辺には鳴石・勾玉原・赤沼平・鳴石原・鍵引石など、旅の安全を祈るための祭祀遺跡が数多く残っています。これらの遺跡からは、旅人が無事を願い捧げたとされる、勾玉をはじめとする滑石製の模造品が多数発見されており、当時の信仰のようすを今に伝えています。



与惣塚・中与惣塚【町指定文化財】

蓼科第二牧場を望む雨境峠の頂に位置し、蓼科山の雄大な姿に畏敬の念を抱いた旅人が、峠越えの安全を祈った祭祀遺跡です。古代から近世初頭まで社が建てられ、信仰の場として守られてきました。

鳴石【町指定文化財】

蓼科第二牧場駐車場のほど近くにあり、2つの石が鏡餅状に重なりあう鳴石。風が強く吹けば鳴ったため「鳴る石」と呼ばれ、この石が鳴るときは必ず天気が悪くなると言われてきました。雨境峠を中心とした祭祀遺跡群の一つで、東西の交流が盛んになった6～7世紀頃、蓼科の神を祀る祭祀の場として、通行人が旅の安全を祈ったとされています。



中山道

あしたしゆく

芦田宿

Ashita shuku

芦田宿は、中山道69次の26番目の宿場町。慶長2年(1597)、芦田氏の浪人だった岩間忠助と土屋京左衛門が、新たな宿場の設立を願い出たことで誕生しました。笠取峠を控えた交通の要衝として発展し、文久元年(1861)には、皇女和宮が江戸へ向かう際、本陣で昼食をとった記録が残っています。江戸後期の浮世絵師・歌川広重が描いた「木曾海道六拾九次」の中にも芦田宿の笠取峠付近の景色が描かれ、当時の旅の風情が今に伝えられています。



旧芦田宿本陣土屋家住宅

旧芦田宿本陣土屋家住宅【長野県宝】

本陣は、岩間氏とともに芦田宿の開設に従事した土屋家が代々受け継ぎ、明治時代まで宿場を利用する大名や公家などの要人をもてなしました。寛政12年(1800)に建て替えられた旧芦田宿本陣は、当時の面影を色濃く残して今なお現存しており、昭和63年(1988)に長野県宝に指定され、京風づくりの貴重な座敷棟として大切に保存されています。



未来に残したい、伝えたい、地域の宝

立科町文化財保護委員会会長 瀧澤 隆さん

笠取峠のマツ並木や津金寺の宝塔、旧芦田宿本陣など、町に残る貴重な宝を守るため、草刈りや補修といった地道な作業を含めて、その保護、普及活動が続けています。これからは若い世代にもっと歴史や文化財に興味を持ってもらい、守り伝えていく役割を担ってほしいと思います。町内の小中高校生が行うマツ並木での植樹活動や、獅子舞など伝統芸能への参加がその第一歩になれば嬉しいですね。



心をつなぐ、祭りと文化



祭りの熱気、歴史を刻む寺社や偉人の足跡。
立科町に脈々と受け継がれる伝統文化は、故郷を愛する心を育み、未来へとつなぐかけがえのない宝です。

伝統芸能

『獅子舞』

立科町の外倉、古町、桐原、藤沢の4地区に受け継がれる獅子舞は、地域の神社で春と秋に奉納されます。雌獅子1頭、雄獅子2頭からなる「三頭獅子」が、歌や笛、太鼓、三味線、鼓の囃子に合わせて舞い、五穀豊穡や無病息災を祈ります。各地区独自の舞が神楽に乗せて演じられ、地域の心と願いが込められた伝統芸能です。



外倉獅子舞(駒形神社)4月



古町獅子舞(蓼科神社里宮)9月



桐原獅子舞(神明社)9月



藤沢獅子舞(駒形神社)9月

町民まつり

『立科えんでこ』

平成2年から始まった、地域一体となって盛り上がる祭り。「歩いて行く」ことを意味する方言「えんでいく」から生まれた親しみやすい名には、祭りの躍動感が込められています。たてしな音頭や御泉水太鼓、元気いっぱいの子どもみこし、気迫あふれる大人みこしと、世代を超えた町民が熱気に包まれる様子は圧巻です。フィナーレを飾る華やかな花火が夜空を焦がし、祭りは最高潮へ。地域が誇る夏の風物詩として、毎年8月の第一土曜日に開催されます。



【町指定文化財】

『古町区蓼科神社秋祭用 奉納屋台及び雅楽器一式』

蓼科神社秋祭りで奉納される豪華絢爛な屋台。総檜造り、黒漆塗り、金銀刺繍の緞帳。柱が伸縮する中二階構造は珍しく、町指定文化財。雅楽器一式と共に、祭りを華やかに彩ります。



明るく楽しく元気よく!まもなく結成40周年

御泉水太鼓保存会会長 今井 敏夫さん

1988年の発足以来、「明るく楽しく元気よく」をモットーに、地域の祭りを熱く盛り上げてきました。レパートリーはオリジナル曲を含め、17曲に増え、小学生時代から太鼓を叩き続けるメンバーがチームの要として活躍しています。2028年には結成40周年を迎えます。記念演奏会を盛大に催し、世代を超えた交流を育み、地域の文化として末永く継続していったほしいです。





光徳寺 不開門 (あかずのもん)

宝徳3年(1451)、芦田城二代城主・芦田光玄が父・光徳の冥福を祈り建立したと伝わる古刹。江戸末期に建てられた不開門は、諏訪の宮大工・立川流の技が光る唐破風造りで、見事な彫刻が施されています。



津金寺 観音堂【町指定文化財】

元禄15年(1702)再建、江戸中期の特徴を持つ入母屋造の仏堂。内部は格天井に松本藩絵師の花鳥画、漆塗りの宮殿には諏訪の工匠による繊細な彫刻が施され、中世様式を残しつつ、近世の美を融合した文化財です。



津金寺 宝塔 (滋野氏の墳墓) 【長野県宝】

大宝2年(702)に行基が開山し、東信濃の学問拠点、天台宗最古の談義所として栄えた由緒ある寺。裏山にある宝塔は、東信を治めた鎌倉武士、滋野一族の供養塔で、時代的特色を表す貴重な石造文化財として県宝に指定されています。



無量寺 六地藏

無量寺は、長保5年(1003)に、「おみくじ」の祖、延暦寺の良源が創建したと伝わる歴史ある寺。境内には、それぞれ表情の異なる六地藏が鎮座し、参拝者や道ゆく人を優しく見守っています。



【町天然記念物】

『神代杉』

蓼科神社の御神木。3度の火災によって梢を消失しながら、今なお枝の一部が青々と茂り、樹高20m、幹周り約10m、樹齢は1,500年を超えられています。



大庭遺跡

縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡。平成元年の発掘調査後、遺跡の保護・保存のために高床式倉庫が復元され、史跡公園となっています。



【参考資料】
紀伊國屋書店ビデオ
評伝シリーズ (1999年)

『学問と情熱 第13巻
保科五無齋』紀伊國屋書店、
平沢信康 (2001年)
『五無齋と信州教育』学文社

信州地質学の原点 保科五無齋 (1868~1911)

保科五無齋(本名・保科百助)は、明治元年(1868)、立科町山部の農家に生まれました。彼の人生は、常に真の教育を追求し、情熱を注いだものです。長野県師範学校を卒業後、教育の現場に身を投じ、特に実物教育に力を入れました。休日には鉱物や岩石の採集に没頭し、その熱心な姿勢は周囲を驚かせました。

五無齋は、1年半にわたる放浪の末、5トンもの石を集め、地学の標本を作成。その中で「緑廉石」「玄能石」といった貴重な鉱物を発見し、地質学の分野で名を馳せました。教育者としても優れた業績を残し、蓼科高校の初代校長として、同和教育の先駆けとなる活動を行いました。また、教職を引退後は「保科塾」を開塾し、全国各地で講演を行い、地学や教育に関する知識を広めました。

さらに、現在の長野県立図書館の設立に尽力し、地域社会の発展にも貢献しました。五無齋の一貫した教育と学問への情熱は、周囲から「奇人」とも評されましたが、彼の残した功績と精神は、今なお立科町の人々の誇りとして語り継がれています。



保科百助が“五無齋”と号するようになったのは、明治29年の鉱石採集旅行中に草履が破れ、新しい草履を買おうとしたものの、お金が1厘(現在の5円くらい)足りず、負けてくれるように頼んだものの、聞き入れてもらえず読んだ狂歌からと言われています。

おあしなし 草履なしには あるけなし おまけなしとは おなさけもなし



絶景と出会う、癒やしの高原散歩

蓼科山麓、標高1,500mに広がる白樺高原は、四季折々の絶景と清らかな空気に包まれた癒やしの地。湖畔の風景、山頂からの眺望、高原の牧場—心身を解放する、至福の時を過ごせる場所です。



女神湖

女の神山こと蓼科山の優美な姿を水面に映す、高原の小さな湖。春はザゼンソウやミズバショウ、初夏にはレンゲツツジやスズラン、秋には鮮やかな紅葉が楽しめます。ボートやサップ、氷上ドライブなど四季のアクティビティも充実。湖周約1.8kmの遊歩道は気軽に散策でき、朝夕はひととき自然の心地良さを感じられます。



白樺湖

信州を代表するドライブロード、ビーナスライン観光の拠点となる白樺湖。湖畔にはレストランやショップ、美術館が点在し、多彩な楽しみ方ができます。湖上ではボート遊びが楽しめ、スポーツ施設や温泉も充実。美しい自然の中で、一年を通して多彩なアクティビティを満喫できる観光スポットです。



成熟した観光地として、将来を見据えた戦略を

一般社団法人 信州たてしな観光協会会長 中村 直貴さん

女神湖でペンションを始めたのは1989年。ペンションブームもあり、多くの若者でにぎわっていましたが、今は当時30~40代だったオーナーも60代となり、観光地としても成熟した魅力が感じられるようになりました。最近、SNS世代の若いオーナーも加わり、新たな発信で幅広い世代を引き付けています。それぞれの感性が生きる今こそ、町として観光のこれからを考える時期だと思います。





御泉水自然園



ゴンドラリフトで標高1,830mへ。そこは、蓼科山の懷に抱かれた天空の樂園。苔むす原生林が広がり、数百種の高山植物、愛らしい野鳥、神秘的な滝が織りなす絶景が待っています。約40分の散策路が整備され、清らかな空気と木漏れ日の中、森林浴を楽しめます。



女神のテラス1830



ゴンドラリフト山頂駅にある、標高1,830mの絶景スポット「女神のテラス1830」。女神湖や北アルプスを一望できるテラスには、ゆったりとくつろげるソファやハンモックも備えられ、日常を忘れ、空と一体になるような開放感に包まれます。



表紙のわたせせいぞう氏のイラストの場所です



蓼科 クロスカントリーコース



蓼科第二牧場内に設けられた全長1,500mのランナー専用コース。足腰に優しいクレイ舗装で、平地と傾斜地が選べる本格的な設計。箱根駅伝常連校も利用する準高地トレーニングの場で、雄大な景色を背景に思う存分走れます。

夕陽の丘公園



信州のサンセットポイント100選に認定された絶景スポット。標高1,660mからの眺望は、白樺湖、車山、北アルプスまで広がり、夕陽に染まる山々の稜線が、まるで絵画のように美しく広がります。



蓼科第二牧場



女神湖から2kmほど北にあり、雄大な蓼科山と浅間山を背景に、馬や牛がのんびりと草を食むのどかな牧場。一角には「朝日の丘公園」があり、あずまやで休んだり、新鮮な牛乳やソフトクリームも楽しめます。





高品質な良食味米

立科産コシヒカリ

米作りに適した重粘土の土壌と蓼科山からの湧き水に恵まれたコシヒカリ。立科産のブランド米として、販売されています。



ふるさとのぬくもりが育んだ大地のご馳走

自然の恵み、 おいしい立科

清らかな水と肥沃な大地、降り注ぐ太陽の光、土を耕し、丹精込めて作物を育てる人々の手。

そのすべてが結集した「立科ブランド」は、滋味深い味わい。

里山の恵みに触れ、自然と人が共に育む、ありのままのおいしさを感じてください。



美上下地区の高原野菜

レタス・白菜

清らかな水、冷涼な気候、長い日照時間などを活かして、高品質で低農薬な高原野菜が作られ県内外で販売されています。標高が高いため、病害虫が発生しにくく、粘土質の土壌により、葉のやわらかさとほのかな甘み、水分をしっかり含んだ瑞々しさが特徴です。





ふれあい市 菜ないろ畑

地元で採れた新鮮な作物が並ぶ直売所。春の山菜や夏野菜、秋はぶどうやりんごなど、四季折々の恵みが大人気。生産者との会話を楽しみながら、安心・安全な旬の味覚を見つけることができます。

蓼科農ん喜村

「道の駅 女神の里たてしな」内にあり、地元の新鮮な農産物や特産品が並ぶ活気ある直売所。立科産コシヒカリや蓼科牛、地元野菜をふんだんに使った料理が自慢の食事処もあり、立科町の恵みを満喫できます。

クラインガルテン

ドイツ語で「小さな庭」を意味する滞在型市民農園。農機具の無料貸出や栽培指導も受けられるため、初心者でも安心して農業を楽しめ、週末利用はもちろん、長期滞在も可能で、都市部から二拠点生活を楽しむ利用者也増えています。



蜜のたっぷり入った りんご

栽培されているりんごの種類はいくつかありますが、その代表格は、果実に袋をかけずに育てる「サンふじ」です。しゃきっとジューシーな果肉で蜜が入ったその味は格別です。



ふじ 11月上旬～11月下旬
ジューシーで甘みが多く、蜜が入りやすいのが特徴。

【りんご三兄弟】



秋映(あきばえ) 10月上旬～
濃い赤色と酸味の強さ、パリッとした歯ごたえが特徴。



シナノスイート 10月上旬～
甘みたっぷり、酸味が少なめで果汁もたっぷり。



シナノゴールド 10月中旬～
酸味と甘みのバランスが良い、濃厚な味が人気。



安心・安全で味が自慢 信州蓼科牛

蓼科山の裾野で清涼な環境に恵まれ、のびのびと育てられた蓼科牛。肉の柔らかさと脂の甘みが特徴です。



芳醇で濃厚な甘さ ぶどう (食用・ワイン用)

雨が少なく日照に恵まれ、寒暖差の大きい立科町は、高糖度のワイン用ぶどうの栽培に最適。県の広域ワイン特区に認定され、ワインの産地としてますます注目を集めています。



浅間山を望む最高の環境で、自然農法の黒ゴマ栽培

野菜農家 潮 貴洋さん

農業高校を卒業後、研修を経て新規就農し、現在は、国内自給率わずか0.1%の黒ゴマをメインに、お米や野菜を作っています。晴天率80%以上の立科町は、水分を嫌うゴマの適地。毎日すすく育つので気持ちいいですね。こだわりは、子どもたちが安心して食べられる自然農法です。立科町から見る美しい浅間山に疲れも吹き飛び、この地で仕事や子育てができることに喜びを感じています。



塩沢堰・宇山堰・八丁地堰

歴史を刻む水の遺産

『堰』せげ



疎水百選『塩沢堰』

農林水産省が選定する日本の農業を支えてきた代表的な用水「疎水百選」の一つが塩沢堰。蓼科山の湧水を源泉とする堰が開削されたことにより、それまで未開だった大地は美田地帯へと生まれ変わり、集落が形成され、良質な米やりんごの栽培の規模拡大など立科町の農業振興に大きく貢献しました。水道水源や親水公園などにも広く活用され、塩沢堰なくしてこの地域の発展はなかったとも言われています。

立科町の水と六川長三郎

初代六川長三郎勝家は、江戸初期に塩沢堰を開削し、塩沢・細谷・観音寺の三新田を開発した立科の水の開拓者です。私財を投じ、6年かけて全長55kmの塩沢堰を完成させ、荒地だった塩沢原を豊かな水田へと変えました。その功績から「新田大将」と称えられ、米を作りたいという農民には、快く土地の権利を分け与えるなど、地域の人々への思いやりにあふれた人でした。その志は子孫に受け継がれ、六川家は代々「長三郎」を襲名し、平成22年に12代目が亡くなるまで350年以上にわたり立科の水の管理に努めました。



弁天神の出水

地域を潤す約55kmの水路 塩沢堰の開削

塩沢堰は、「長三郎堰」「塩沢新田堰」とも呼ばれ、本堰と和見堰の2つの筋からなります。「本堰」の源となる弁天神の出水と、「和見堰」の源となる水出の出水を発見した初代六川長三郎勝家が、寛永18年(1641)に堰の開削に着手。私財を投げ打って里まで堰を掘り進め、正保3年(1646)に塩沢本堰(約40.8km)、和見堰(約13.9km)、総延長約55kmに及ぶ塩沢堰が完成しました。塩沢堰の完成後、新田開発や堰の拡張が急速に進み、塩沢原全域を潤す水田地帯が形成されました。



宇山堰石礎

苦難の連続を乗り越えた 宇山堰の開削

宇山堰は、土屋正蔵と遠山長作が蓼科山麓の湧水を見つけ、慶安年中(1648~1651)に、宇山開拓のために用水路(宇山古堰)を完成させたことに始まります。その後、黒沢嘉兵衛が八重原新田の開発を進め、立科大滝に水源を求めて2筋の堰の開削に成功し、このうち、上堰と言われる全長39.3kmを宇山堰と呼ぶようになりました。堰筋は急傾斜地や岩場など難所が多く維持管理は困難を極めました。昭和35年の県営事業で一部変更されるまで、地域を潤す重要な役割を果たしました。

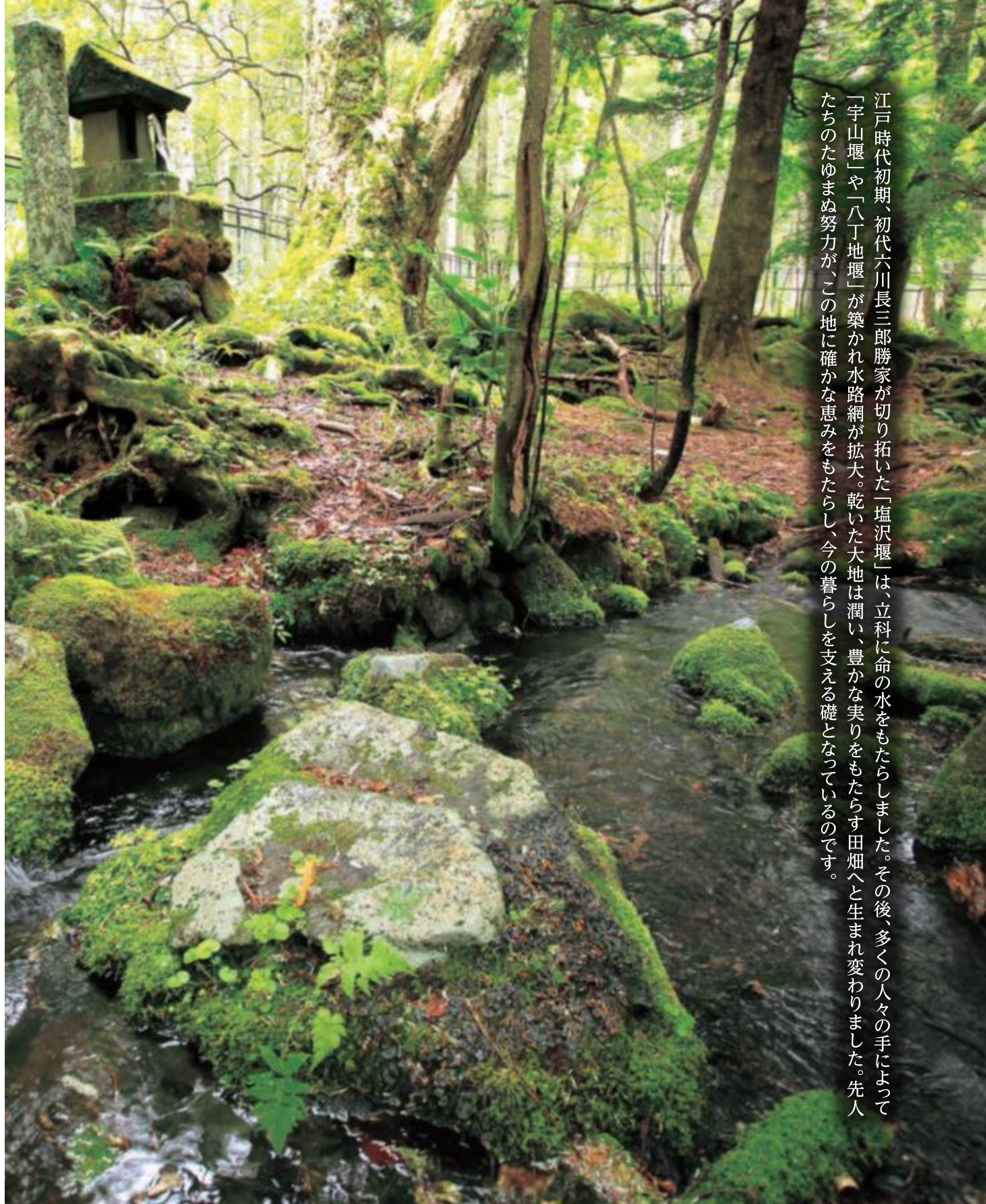


八丁地堰

茂右衛門の人柄と度胸で乗り切った 八丁地堰の開削

八丁地堰は、正保2年(1645)、茂田井村の名主・茂右衛門が中心となり、八丁地川から取水する用水路として開削が始まりました。幕府領からの取水であったため、無許可の工事(内証普請)でしたが、2年後には約5.2kmの水路が完成。この成果を受け、小諸藩が支援に動き、芦田村、山部村も開削工事に加わったことで、慶安2年(1649)には全長約12.7kmの用水路が完成しました。完成後は、三村で維持管理が行われ、当時の記録には水配分などの取り決めが残されています。

江戸時代初期、初代六川長三郎勝家が切り拓いた「塩沢堰」は、立科に命の水をもたらしました。その後、多くの人々の手によって「宇山堰」や「八丁地堰」が築かれ水路網が拡大。乾いた大地は潤い、豊かな実りをもたらす田畑へと生まれ変わりました。先人たちのためまぬ努力が、この地に確かな恵みをもたらし、今の暮らしを支える礎となっているのです。



江戸時代から続く貴重な農業用水を後世へ

立科土地改良区副理事長 鷹野 守雄さん

町内のかんがい用水の一括管理を担い、水路の泥上げや草刈り、上流から下流まで田畑にまんべんなく水が行き渡るよう、日々水量調整などを行っています。立科町のかんがい用水は、県内でも珍しく山の湧水を主な水源としており、江戸時代から枯れることなく田畑を潤し、町の発展を支えてきました。このかけがえのない水資源の尊さを子どもたちに伝え、ともに未来へ守り継いでいきたいと考えています。



人と自然が輝く町

「住んで良かった」、「訪れて良かった」と幸せを感じられるまちづくりを目指します

A Town of Thriving People and Resplendent Nature



1

<こども・子育て>

安心して子育てができ こどもが健やかに育つまちづくり

- 妊娠・出産・子育てに応じた切れ目のない支援
- 出産・子育てに関して家庭における負担の軽減
- 誰もが必要な保育サービスを受けられる

2

<教育・文化・人権>

生涯にわたって学び成長できるまちづくり

- こどもの知・徳・体を育む立科教育の推進
- 時代変化に対応した学校運営の推進
- 歴史文化遺産の活用

3

<健康・福祉>

誰もが健康で生きがいを感じて暮らせるまちづくり

- 全世代における健康づくりの推進
- 介護予防と生きがいづくりの促進
- 誰も取り残さない地域共生社会の構築

4

<産業振興>

地域資源と人材が価値を生み出す産業のまちづくり

- 農地・森林を有効活用した経済の活性化
- 地域を支える持続可能な商工業の振興
- 多様な働き方を生み出すテレワークの推進
- 安定した経済効果を生み出す観光の推進

5

<建設・環境>

快適で暮らしやすい生活環境を整えるまちづくり

- おいしい水の安定供給と上下水道の健全経営
- 住宅環境の整備
- 公共交通の再編と利用促進
- ゼロカーボンの推進

6

<コミュニティ・防災>

コミュニティが支える安心感と魅力のあるまちづくり

- 「住みたい・住み続けたい」まちづくりの推進
- 時代変化に対応した地域コミュニティ活動の推進
- 全世代が集える複合施設の整備
- 地域の連携による災害に強いまちづくりの推進

7

<行財政>

未来につなぐ効果的・効率的な行政運営

- 計画的で効果的な行政運営
- DX推進による行政と地域活動の効率化
- 健全財政の維持



地域食材の日(保育園)

<こども・子育て>

安心して子育てができ こどもが健やかに育つまちづくり

立科町で出産・育児・子育てをして良かったと思える環境づくりを進めます。

環境づくりと支援の充実を図ることで、保護者が安心してこどもを育て、こどもが健やかに育つまちづくりを目指します。

We will push forward with creating an environment such that people will be happy that they had children, nursed, and raised them in Tateshina Town. By working on creating that environment and improving support, we aim to develop a town where caregivers can raise their children with peace of mind and where children can grow up in good health.



ちびっこ広場

妊娠・出産・子育てに応じた 切れ目のない支援

子育てを取り巻く環境が大きく変化する中で、こどもと保護者が健康で安心して生活ができるように、妊娠から出産・育児まで切れ目のないきめ細やかな支援が必要とされています。

母子保健や児童福祉、子育て支援が連携して、子育てに関する相談や情報提供などに一体的に取り組み、切れ目のない支援体制を強化します。

出産・子育てに関して 家庭における負担の軽減

子育てに関する家庭の負担を軽減し、子育てへの不安や孤立感を抱える保護者への支援と合わせて、地域全体で子育てを支える環境づくりが必要とされています。

子育て家庭の実情を踏まえたさまざまな負担の軽減や子育て家庭支援サービスの充実に取り組みます。

誰もが必要な 保育サービスを受けられる

核家族化に加えて、共働き世帯が増加しており、平日や長期休暇の際の保育の必要性が増えています。また、保育サービスを提供するために必要な人材不足も課題になっています。

少子化の中で0～2歳児の利用率が高まるなどの傾向を踏まえて、必要な保育サービス量を見込み、人材確保も含めた環境整備を講じることで、質の高い保育サービスを提供します。



幼年消防隊



こども未来館



ふれあい読書



乳幼児・救急救命講習会



保育園運動会



児玉由紀さん 伊藤優さん

充実した施設が整う自然豊かなまちで、のびのび子育て

【児玉さん】17歳から1歳半まで男の子5人なので、毎日が嵐のようで、寿命が縮まる思いです(笑)。移住して10年になりますが、立科町は3人目以降は、保育料が無料になるので、とてもありがたいです。自然が豊かで公園や児童館も広く、子どもたちを安心して遊ばせられるのも嬉しいです。

【伊藤さん】夫の地元、立科町で3歳と1歳の姉弟の育児に奮闘中です。上の子の翌年から始まった出産祝い金制度のおかげで、2人目の出産時には30万円をいただくことができ、家計の大きな助けになりました。先生もお母さん方も話しやすい児童館は、日々頼れる大切な場所。ほぼ毎日通っています(笑)。





ブラリ中山道歴史散歩

<教育・文化・人権> 生涯にわたって 学び成長できるまちづくり

変化が急激で先を見通すことが難しい時代に
対応するため、個性や能力を伸ばす教育を行う
とともに、時代に即した学校運営を推進します。
また、全世代を対象に、町民の心のよりどころに
なる歴史文化財を保全しながら、社会教育に活
用します。

To cope with an era in which the changes are sudden and it
is difficult to predict what lays ahead, we will provide an
education that cultivates individuality and ability and
promote school administration that suits the times.
Furthermore, for all generations, we will preserve the
historic and cultural assets that are a support for the hearts of
our residents as we also make active use of them for social
education.



地域食材の日(小学校)



小学生りんご学習

こどもの知・徳・体を育む 立科教育の推進

社会環境が変化し、知識・スキルに偏重した教育では
なく、新しい価値を創造する資質が求められています。
学校にも、きめ細かな対応が求められています。

30人規模学級を維持し、個々の児童に丁寧に向き
合う質の高い教育を目指します。また、ICT・探求・英語
などの現代社会の要請に対応した学習活動を推進し
ます。

時代変化に対応した 学校運営の推進

少子化により、児童・生徒数の減少が続いていますが、規模が縮小しても、児童生徒が個別に最適な学びや体験の機会が得られる学校運営に対する支援が求められます。

少子化に対応するため、保育園・小・中・高・教育委員会の連携により時代の変化に応じた教育のあり方について検討します。また、地域高校である「蓼科高等学校」の存続は、地域活性化のためにも不可欠であり、学校存続に向けた支援を行っていきます。

歴史文化遺産の活用

当町には、江戸五街道である中山道、多くの遺産が発掘された古東山道などに関連するさまざまな歴史・文化財があります。こうした歴史的資産を社会教育に活用していく必要があります。

当町の歴史文化遺産に、幅広い年代の町民が親しみ、学べるよう、学校教育・生涯学習などで歴史文化に触れる機会として、郷土の歴史の価値を再認識できる事業を推進します。



御泉水太鼓



田植え(小学校)



小・中・高3校による笠取峠のマツ並木清掃



小学校音楽会



蓼秋祭(中学校)



『やらず』の精神で、豊かなまちづくりに貢献

やらず会 今井 博之さん

「やらず」はこのあたりの方言で、「何かやりましょう」という気軽な呼びかけです。やらず会は、わたしの先輩が立ち上げたもので、声をかけてもらって参加し始めて、30年ほどになります。昔は落語家や音楽家を呼んで公演などしていましたが、最近はものまねショーなども開催しています。現在12名ほどのメンバーは70代が多く高齢化してきましたが、町に愛着を持ち、豊かな生活を送ってもらいたいという想いで活動しています。同じ目的を持つ仲間との絆を大切にしつつ、この活動が町の活性化につながることを願っています。ぜひ若い方にも加わっていただき、一緒に「やらず」の輪を広げていきたいです。





ストレッチ教室

<健康・福祉>

誰もが健康で生きがいを感じて 暮らせるまちづくり

健康で生きがいを感じて暮らすことは、町民共通の願いです。町民誰もができるだけ長い期間、心身が健康な状態で、希望をもって暮らすことができるよう、健康増進、介護予防、生きがいづくりなどを支援します。また、さまざまな困難をかかえても、行政や町民によるセーフティネットによって取り残されることのない環境を地域につくることを支援します。

It is the shared wish of all our residents to lead healthy lives with a sense of purpose. We support the promotion of health, care prevention, creating a sense of purpose in life, and the like so that all of the residents can live as long as possible, be healthy in mind and body, and have hope. Furthermore, we support creating an environment in the community where no one slips through the safety net provided by the government and the residents regardless of whatever difficulties they may face.



ふらばーるバレー大会



元気塾

全世代における 健康づくりの推進

食生活・運動習慣・生きがいを感じているかなどが疾病の罹患や健康寿命に影響を与えています。ライフステージごとに自らの健康課題を把握し、健康づくりに取り組める環境を整えることが必要です。

生活習慣病や疾病のリスクが高まる中高年の健診・保健指導の受診率を高め、早期対策につなげます。また、かかりつけ医を持つことによる継続的な健康管理を促進します。医療介護体制は広域連携を中心に確保します。

介護予防と 生きがいの促進

高齢によって活動量が低下しても、状態を維持できるよう、介護予防の機会を提供し、町民自らが継続していく事が重要です。

また、社会活動など、役割を担うことで生きがいに繋がることも重要です。

健康・生きがいをづくり、フレイル予防、介護予防や重度化抑止など、継続して支援します。町民が相互に支え合う場、高齢者の出番や居場所を創出し、生きがいを支援します。

誰も取り残さない 地域共生社会の構築

生活様式が多様化し、近隣同士の関係も希薄化しているといわれています。ゆるやかな見守り、声かけを促進し、誰も取り残さない環境をつくる必要があります。

地域のサロン活動や居場所づくりなど、外出や交流の機会創出を支援します。生活課題を抱える世帯が孤立しないよう相談しやすい体制を充実させます。



立科すずらん学級 双子山・双子池トレッキング



体育センター



ストレッチ教室



骨密度測定



在宅介護をする家族同士の交流でリフレッシュ！

ひまわりの会 池田 昌夫さん

立科町には、介護に関するさまざまな公的支援がありますが、そのひとつが、在宅介護をする家族の集まり「ひまわりの会」です。母の介護のために東京から戻って4年になりますが、いまだに分からないことも多く、同じ立場の皆さんとつながれることは、日々の大きな助けになっています。年に数回、お茶会や女神湖の散策、クリスマスコンサートなど、季節ごとの活動を通じて気分転換ができますし、何より、介護の悩みや情報を共有できることもありがたく、とても心強いです。介護をしていると家にこもりがちになるので、外に出て人とつながる時間の大切さをあらためて感じています。





りんご畑

<産業振興>

地域資源と人材が 価値を生み出す産業のまちづくり

人口と地域経済とは密接に関わっています。人口減少が経済縮小に連鎖しないよう、他地域に比べて優位な地域資源や人材を時代変化に対応しながら有効に活用していく産業活動を支援します。

また、インターネットを介した仕事を受注する民間の体制を構築することで、地域に雇用を創出し多様な働き方を支援します。

Population and the regional economy are closely related. To keep population decline from setting off a chain reaction that leads to economic contraction, we support industrial activities that make effective use of the local resources and human talent that are superior compared to other regions while responding to changing times. Furthermore, by building a private system for receiving orders for work through the internet, we are creating employment in the region and providing support for diverse work styles.



農地・森林を有効活用した 経済の活性化

担い手が高齢化し、農地の継承・集落機能の低下が課題となっており、生産性と付加価値の高い農業を促進し、農地を保全する必要があります。森林は多面的な機能を有する町の財産です。適切な管理と活用の好循環を創出する必要があります。

農業の担い手の確保と育成に注力します。また、農家の所得増加のための経営支援を行います。地域の共同活動を支援し、農用地・水路などの保全活動を推進します。森林を適切かつ効率的に管理し、木材・水資源の活用など、さまざまな形で活用を促進します。

地域を支える持続可能な 商工業の振興

経営者の高齢化、後継者不足などにより経営の継続に向け、商工会をはじめとする関係機関と連携し、後継者の育成などの経営支援が求められます。

商工業に活気が出るよう、後継者の育成に努め、観光業も含め商工業の振興を図ります。県・商工会と連携し、事業の継続に向け、事業継承や後継者のマッチングなどの支援を行います。

多様な働き方を生み出す テレワークの推進

町内で働ける職種の選択肢が少なく、人材流出につながっていました。そこで、社会福祉型テレワークを推進し、町外で働いていた方や子育てなどで働けなかった方の雇用を生み出しています。

テレワーク推進事業の運営を振興公社へ移行し、運営体制を確立・強化します。より多くの町民が多様な働き方を通して社会貢献を果たすことができる体制を構築します。

安定した経済効果を 生み出す観光の推進

人口減少・高齢化により、国内需要が縮小していくなかで、町の観光地も時代や市場の変化に対応する必要があります。

また、施設の老朽化、経営者の高齢化などが進行しており、それらの新陳代謝の促進が求められます。

従来の国内客に加えて、外国人観光客を受け入れられるよう、中長期滞在プログラムの造成、誘客プロモーションを進めるため、県や近隣市町村と広域観光を推進します。また、スキー場も含む、観光施設の整備・維持管理に注力します。



地域資源を活かした連携で、立科町にぎわいを

立科町商工会長 浦野 喜芳さん

立科町は農業と観光の町です。これらの地域資源を最大限に活かし、町全体を元気にしていくためには、商工業もまた深く連携していくことが大切だと思っています。現在、商工会では、特産品振興部会を立ち上げ、農業と観光をつなぐ6次産業化の取り組みを進めています。また、商業部会では、高齢化が進む商店の継続支援と並行して、中山道を観光資源として見直し、インバウンドやまち歩きの観光客を呼び込むことで商店街を活性化したいと考えています。女神湖商店街も、かつての賑わいを取り戻すべく、町と連携しながら体験型観光や準高地トレーニングなどを活かして、若い世代や学生の誘客につなげていきたいですね。





菜の花(ひまわりの里)

<建設・環境>

快適で暮らしやすい生活環境を整えるまちづくり

安全で便利な暮らしの実現は、町民の共通の願いです。生活基盤である上水道の安定供給、汚水の適正処理、公共交通の充実により、町民の暮らしを支えます。さらに、町営住宅の建設などにより、住宅を確保します。また、温暖化を抑止するために、ゼロカーボン(脱炭素化)を推進します。

It is the shared wish of the residents to achieve lifestyles that are safe and convenient. We support the lifestyles of the residents through the stable supply of waterworks, proper treatment of sewage, and improved public transportation, which jointly comprise the local infrastructure for living. Furthermore, we ensure housing through the construction of town-managed housing and other measures. We also promote going zero-carbon (decarbonization) in order to stave off global warming.



水遊び



水源巡り

おいしい水の安定供給と 上下水道の健全経営

湧水による立科町の水は、清く澄んだ「おいしい水」です。しかし、町の上下水道施設は設置から年月を重ねており、この水を利用していくためには、適時の更新・修繕と適切な管理が必要です。

温井配水池の更新をはじめ、上下水道施設の老朽化に伴う大規模な修繕や更新を行うことで、施設の健全化を図り「おいしい水」の供給と、環境に負荷をかけない排水処理を行います。また、収入確保と経費節減により、事業の健全性を確保します。

住宅環境の整備

町の人口が減少していますが、若者の定住や移住者の受入に利用できる物件は限られており、人口減少の抑制には、住宅ストックの形成が必要です。

既存の町営住宅を適正に維持管理し、町営住宅や宅地分譲を推進し、住宅のストックの形成に努めます。

公共交通の再編と利用促進

地域公共交通の運営は、利用者の減少など厳しい状況ではありますが、高齢者などの交通弱者の交通手段の確保のため、運営、維持をしていく必要があります。

運行方式を「定時定路型」から「デマンド型」へ、転換可能な路線から、予約による乗合方式とすることで効率的かつ利便性の高い移送手段を提供します。

ゼロカーボンの推進

わが国では2050（令和32）年までに、段階的に脱炭素社会を実現することを目指しており、当町においては、ゼロカーボン宣言をし、CO₂削減に取り組んでいますが、更なる削減が必要です。

町の温室効果ガスの排出量を計画的に抑制するとともに、家庭・産業での排出量を抑制するための再エネ利用、廃棄物抑制、省エネなどを推進します。



マツ並木での植樹



白樺高原のヒメボタル
(第1回信州たてしなフォトコンテスト優秀作品)



風の子広場



子育て支援住宅 サンコーポ「芦田宿南」



秋の全国交通安全運動



たてしなスマイル交通



子どもたちに、立科町の水の素晴らしさを伝え続ける

立科の水を守る会会長 寺島 繁さん

立科町の水道水は、山からの湧水を水源としていて、超軟水でとても清らかです。町外から移住してきたわたしには、そのおいしさ、きれいさがよく分かります。でも、地元で育つと、それが当たり前になってしまうんですね。だからこそ、地域の子どもたちに水の大切さを伝える活動をしています。夏休みには、源流を見る体験学習を行っています。澄んだ水にしか生息しない水生生物を通して、この地域の水がいかにきれいか実感してもらっています。蛇口から直接水が飲める国は、世界中でわずか1%と言われるなか、立科町の水はまさに宝です。貴重な水資源を保護して、乱開発を防ぐ条例の必要性も感じています。





秋の交通安全

<コミュニティ・防災> コミュニティが支える 安心感と魅力のあるまちづくり

地域コミュニティに対する町民の関心が低下傾向にありますが、町の安心感と魅力づくりを高める上で、自治・協働は重要な基盤となるものです。高齢化や関係の希薄化などの現実を踏まえながら、町民が一体感を持てる機会や場を創出するとともに、地域コミュニティ活動の継続・継承を支援します。これらの再構築にあわせて、移住・定住の促進を図り、町の次世代の担い手を確保します。

While the interest of the residents in the local community is trending downward, self-governance and cooperation lay important foundations for improving a sense of security in the town and making it attractive. While taking into account such realities as an aging population and the fading of relationships, we will create opportunities and venues for the residents to have a sense of unity as we support the continuity and succession of local community activities. Combined with these restructurings, we will work to promote relocations and settlement and secure the next generation of the town's leaders.



がんばる地域応援事業「景観作り」

「住みたい・住み続けたい」 まちづくりの推進

【立科町がんばる地域応援事業交付金で支援した活動】



「白樺樹皮細工」の担い手育成事業

町の社会動態は、過去5年間を見ると、転出超過となっており、目標の転出入の均衡状態には到っておりません。移住相談体制を構築したことで、移住希望者は増加したものの、移住者からのニーズが多い賃貸住宅が少ないことが課題です。

新たな移住者を受け入れるため、移住促進住宅を建設する他、住環境の整備を進めます。新たな移住者を呼び込むため、関係機関と連携して移住相談会等を実施し、移住希望者への情報提供を行います。



芦田城址の景観保全・歴史継承プロジェクト

時代変化に対応した 地域コミュニティ活動の推進

高齢化に加え、価値観の変化などにより、地域の行事や交流が減少しています。町からの依頼事項、地域の自治活動のあり方などを再検討すべき時期を迎えています。

地域として一体感を感じられる活動や行事が継続できるよう支援し、活性化を図るとともに、協働のまちづくりを推進します。また、行政から地域への依頼事項や地域の活動への支援方法の検討を進めます。

全世代が集える 複合施設の整備

中央公民館などの更新にあわせ、複合施設の整備が予定されています。多機能で居心地の良い施設の整備が求められます。

当町に見合うコミュニティのコア(核)となる交流拠点施設を整備することにより、全世代が利用できる空間とサービスを目指します。

地域の連携による 災害に強いまちづくりの推進

自然災害が多発化・激甚化しており、当町もいつ被災するかわからない状況にあります。万一の災害に備えて、防災・減災の準備と想定を強化する必要があります。

消防団活動の支援に引き続き取り組みます。また、情報提供、避難訓練などにより町民の防災意識の高揚を図り、地域で防災活動を展開できるよう自主防災組織の設立と活動支援を行います。



ふるさと交流館



権現の湯



防災訓練



消防団出初式



新規就農3年目! ~りんごとともに、家族との新たな暮らし~

りんご農家 服部 貴之さん

立科町でりんご農家になって3年目。3か所の畑を借りて、フジとシナノスイートを中心に計6品種のりんごを育てています。新規就農はお金がかかるものですが、中古資材が調達できたり、りんごの木が植わった畑をそのまま借りられたりと、本当にラッキーでした。収穫期以外の収入も見込んで、ジュースやジャムなどの加工品づくりにも挑戦しています。わたしは家族より1年早く移り住み、農業研修を受けてから独立しましたが、東京で仕事を続けている妻にとっても、新幹線が使えて環境も良い立科町は“ちょうどいい田舎”だったようです。移住して農業を考えている方は、ぜひ早めに現地を訪れて情報収集することをおすすめします!





<行財政> 未来につなぐ 効果的・効率的な行政運営

町の人口と行財政は縮小していく見通しにあります。縮小期に適した行政経営を行うため、計画行政を一層進めるとともに、財政の健全性を維持し、人口減少下でも持続可能で質の高い暮らしができるまちづくりを進めます。

また、DXを推進し、行政の効率化と町民の利便性向上を両立させていきます。

The town's population and its administration are expected to continue to contract. In order to manage that administration in ways suited to this era of contraction, we will further encourage planned administration as we advance town planning that will maintain the health of the administration and make possible sustainable, high-quality lifestyles even in the face of population decline. We will also promote Digital Transformation to both make governance more efficient and improve convenience for the residents.

情報配信システム「たてしなび」



スマホ版アプリ



専用タブレット端末



庁舎行政資料コーナー

計画的で効果的な 行政運営

現代は先行きが見えない時代であり、行政の資源も潤沢ではありません。より効果的・効率的に行政を経営することが求められており、一層の戦略性・計画性が求められる状況にあります。

行政の資産を有効活用するとともに、庁内及び関係機関との連携を図り、重要な施策に資源を集中させることで、成果を生み出していきます。

DX推進による行政と 地域活動の効率化

行政ニーズの多様化や職員のなり手不足に対応するため、生産性や効率性を高める手法として DX が注目されています。

行政手続きのオンライン化、キャッシュレス決済など、町民の利便性向上と省力化を図ります。また、行政事務や情報発信において、デジタル技術を活用し、効率化と町民の利便性向上を図ります。

健全財政の維持

町の財政運営は、令和5(2023)年度決算において、地方債の現在高、公営企業債などの繰入見込額といった、将来負担額に対し、基金などの充当可能財源などが上回るとともに、健全化判断比率では、実質公債費比率*が 8.0% となり、健全な財政運営を維持しているものの、今後、公共施設の老朽化に伴う更新などにより増加する可能性があります。

自主財源及び新たな財源確保に向けた施策を積極的に講じるとともに、国県補助金の活用や有利な地方債の借入れを検討するなど、将来を見据えた財源確保に努めます。

※実質公債費比率：自治体が負担する地方債の元利償還金及び準元利償還金、標準財政規模から元利償還金等に係る基準財政需要額算入額を控除した額に対する比率です。借入金（地方債）の返済額及びこれに準じる額の大きさを表す指標で、資金繰りの程度を示すものであり、実質公債費比率が 18%以上の団体は、起債に一定制限を受けることになります。



町長 両角正芳

副町長 小平春幸

教育長 塩澤勝巳



議長 今井英昭

副議長 村松浩喜



立科町議会

世代を超え、地域を越え、育む絆

地域とつながり、 世界とつながる。



中学生オレゴン市派遣事業



姉妹都市提携50周年歓迎式典

[姉妹都市] アメリカ **オレゴン市**

オレゴン市は、アメリカ西海岸のオレゴン州に位置する歴史ある都市で、日本との時差はマイナス17時間。立科町で開催していた国際学級が縁で昭和49年に姉妹都市提携を結びました。以来、お互いの理解と発展、永久の友情を誓い合い、中学生のオレゴン市派遣をはじめ、スポーツ・文化など異文化交流事業を行っています。

The City of Oregon is a city with the history. Located in Oregon state on the West Coast of the US, the time difference with Japan is -17 hours. In 1974, Oregon city and Tateshina became sister-cities, occasioned by an international classroom hosted in Tateshina. Since that time, along with a shared commitment to mutual understanding, development, and lasting friendship, a lively international exchange in areas such as sports and culture including visit by a delegation of junior high school students to Oregon have took place.

[友好都市] 神奈川県 愛甲郡 **愛川町**

愛川町は、神奈川県中央北部に位置し、水と緑に囲まれた自然豊かな町です。昭和62年に友好都市提携を結んで以来、「愛川町一周駅伝競走大会」「愛川町ふるさとまつり」「立科えんでこ」への相互参加などスポーツ、文化、教育、産業など各分野で交流を深めています。



[友好交流都市] 東京都 **清瀬市**

清瀬市は東京都多摩地域東北部に位置し、およそ半分が緑地という自然に恵まれたまちです。昭和45年、清瀬市が白樺高原に山荘を建てたのを機に交流が始まり、東日本大震災の発生後には災害時相互応援に関する協定を締結。平成27年、友好関係をさらに促進するため、友好交流都市協定を締結しました。



都市・農村交流

交流促進センター「耕福館」を拠点に、自然豊かな農村環境や伝統文化を生かした農作業や調理・工作体験などを提供。地域住民とのふれあいを通じた「ふるさと体験」には、学校の体験学習を中心に年間約3,000人が訪れています。



世代間交流

児童館で実施する「放課後子ども教室」では、地域の方を講師に迎え、ものづくりや囲碁・将棋・茶道などの体験を通じた多世代交流を展開。地域への愛着やつながりを育み、町の活性化にもつながっています。



スポーツ交流

白樺高原歩け歩け大会

毎年10月、白樺湖畔から蓼科第二牧場まで紅葉の高原を歩く秋のウォーキングイベント。町内外から多くの参加者が集まり、澄んだ空気の中、健康づくりと参加者同士のふれあいを楽しみます。



経済・観光交流

神奈川県相模原市／相模原商工会議所

白樺高原にあった相模原市の保養施設を通じて民間交流が続いていたことから、平成19年(2007)、立科町・立科町商工会と相模原市・相模原商工会議所は「経済・観光に係る交流協定」を締結しました。現在は、物産販売や観光PRを通じて地域経済の活性化に取り組んでいます。



森林の里親協定

埼玉県 川口市

令和6年(2024)、川口市と「森林(もり)の里親協定」を締結しました。町有林「西ノ沢団地」のうち651haを「かわぐち・たてしなの森」と命名。川口市からの森林環境譲与税で森林整備を進め、そのCO2吸収量は同市のカーボンオフセットに役立てられます。



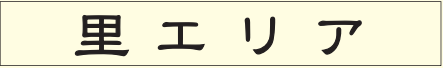
立科町出身者との交流

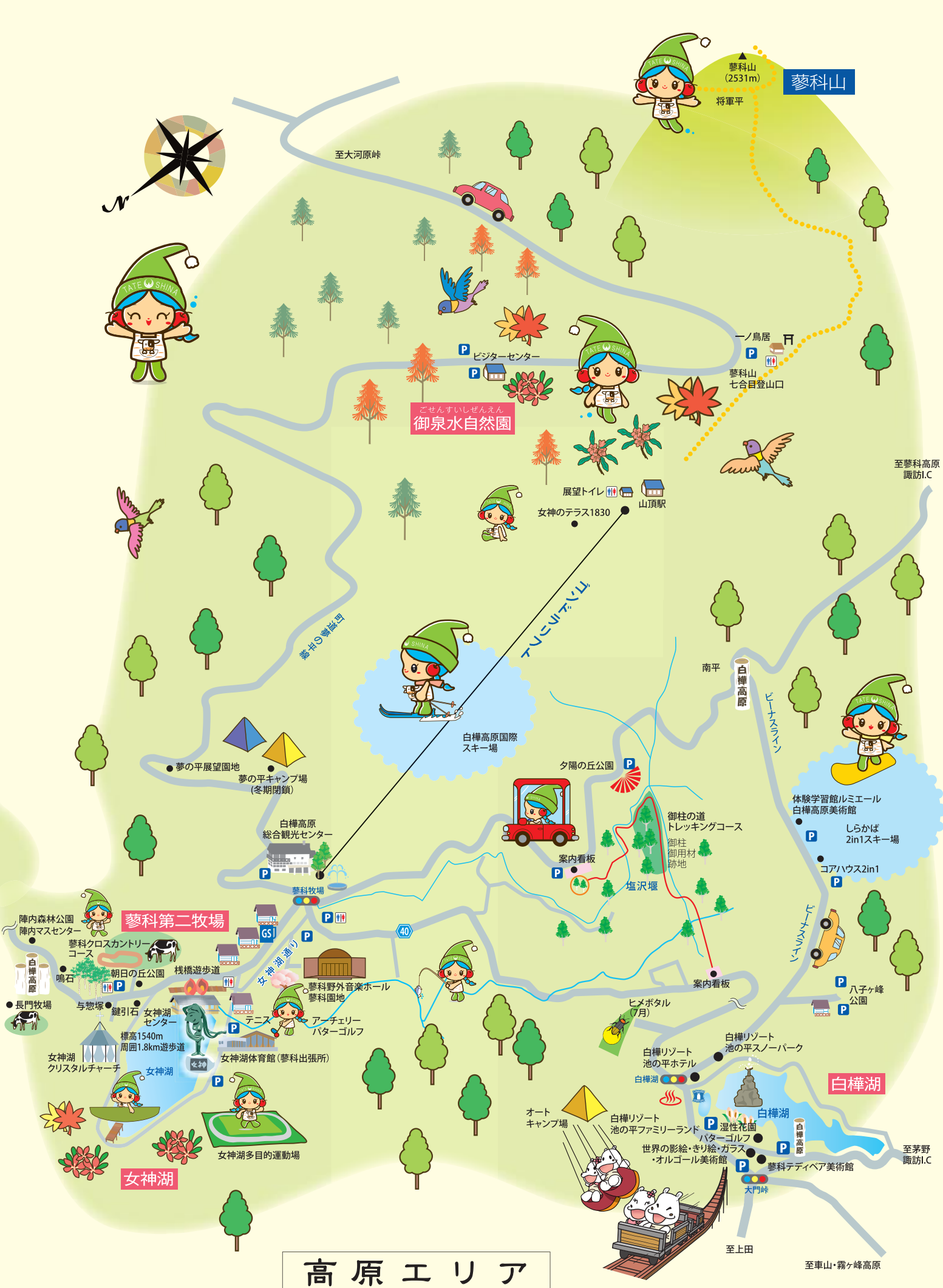
蓼科すずらん会

平成3年(1991)、東京近郊在住の立科町出身者を中心に結成。山菜採りや町民ゴルフ大会など故郷とのつながりを大切に交流を深めながら、首都圏での物産展や観光PRなどに参加し、立科町への誘客や魅力発信に取り組んでいます。



立科町 イラストマップ。





高原エリア

移住のことなら、ここをチェック。➤

■ 移住サポートサイト『旅する移住』

立科町への移住に役立つ情報をまとめて、みなさまの新しい暮らしのお手伝いをしています。
<https://www.tateshina-iju.jp>



■ 移住サポートセンター

移住に関するご相談を承っています。
 移住関連イベントも実施しています。

TEL 0267-78-5645

mail: t-iju2@sas.janis.or.jp

おためし移住してみよう。➤

■ 移住体験住宅

立科町への移住・二地域居住を検討中で、町外に住所のある方は無料で利用できます(観光・レジャー・避暑など移住以外の目的でないこと)。利用には「立科町空き家バンク」への登録が必要です。お問い合わせは、移住サポートセンターへ。

(1)利用日数／1泊2日から6泊7日まで(初日は平日とすること)

(2)利用人数／1部屋4名まで(未就学児は含みません)



■ 立科町移住促進住宅

空き家の活用やDIYに関心のある仲間とともに、町有施設を改修した移住者向けの賃貸住宅です。

住宅番号	建設年度	構造	間取り/広さ	家賃月額	敷金
1号室/ 2号室	昭和60年 ※令和4年改修	木造 平屋建	3K / 60.29㎡	35,000円	3か月分 (105,000円)

空室が出た際は、町ホームページでお知らせします。入居ご希望の方は、募集期間内に「立科町移住促進住宅入居申込書」をご記入のうえ必要書類を添えてお申し込みください。

移住定住者の新築住宅に、 最大150万円を補助

移住者および一定の要件を満たす町内在住者の新築住宅建設に補助金を交付します。おすめは、蓼科山と浅間山を望む閑静な「西塩沢三葉団地」。ゆとりある区画で家庭菜園も楽しめます。

交付条件

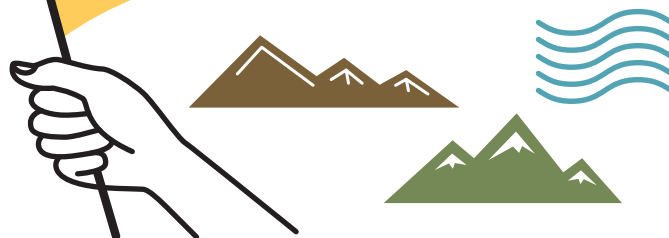
- ① 移住者：50万円
- ② 40歳未満または15歳未満の子どもを扶養：50万円
- ③ 町内事業所就業者または個人事業主：50万円

※ 補助対象者の区分ごとに、それぞれ50万円の範囲内で交付。

※ ①②③の要件をいずれも満たす場合の補助金額は150万円となります。

移住のススメ

蓼科山と共に、
スローに暮らす。
立科町では、みなさまの移住の
お手伝いをしています。



特別なものはなくとも、
心地よさが広がる暮らし



幸島 愛さん

【神奈川県 ⇒ 立科町】

映像・デザインスタジオ「fabrica」運営

自然豊かな暮らしを求めて海か、山か…悩んでいましたが、松本市や佐久市の知人を訪ねるうちに、長野に親しみを感じるようになり、山のある生活を選び立科町へ移住しました。実際に暮らしてみて心地よさを感じています。畑やガーデニング、DIYで家のリノベーションを楽しみながら、映像やデザインの仕事も続けています。山が近く、気軽に自然を楽しめる環境が魅力です。小さな町の繋がりと都会との良い距離感の立科町、ぜひ一度訪れてほしいです。

充実した時間を 過ごせる場所



永田賢一郎さん/愛さん夫妻

【神奈川県 ⇒ 立科町】

合同会社T.A.R.P./アツマルセンター立科/
bake & soup yum-yum 経営

子どもの頃よく遊びに来ていた蓼科山の思い出から、立科町の地域おこし協力隊に応募しました。現在は町内で会社を立ち上げ、交流拠点「アツマルセンター立科」の運営や設計デザインを手がけ、妻はカフェを経営しています。日々、地域の人たちと触れ合う中で、仕事も暮らしも一体となった充実した時間を過ごしています。のどかな田園風景や美しい高原の景色に加えて、温かい人たちも多く、とにかく環境の良さに惹かれました。足を運べば、この心地よさがきっと伝わります。

立科町勢要覧

資料編

2025



Contents

立科町のあゆみ	42
立科町の概要・気象	64
人口	65
保健	66
福祉	67
教育・文化	68
建設	69
生活環境	70
産業	71
財政	74
施設一覧	75
アクセス	76

立科町のあゆみ

1955【昭和30年】

- 4月 1日 芦田村、横鳥村、三都和村の三村を合併し立科村発足
国民健康保険事業、5割の給付割合を以って開始
立科村遺族会結成
- 4月15日 村長、議会議員、教育委員選挙執行
初代村長、土屋傳氏、無投票当選
村会議員定数22名(旧村ごとに選挙区を設けて執行)
教育委員会、定数4名、無投票選挙
- 4月18日 農業委員会委員選挙執行、定数15名
(旧村ごとに選挙区を設けて行い無投票選挙)
- 4月20日 初議会招集、議長に遠山忠雄氏、副議長に小林孝太郎氏選出
- 4月23日 県知事、県議会議員、県教育委員選挙執行
- 4月25日 初農業委員会招集、会長に中沢善豊氏選出
- 5月 1日 初教育委員会招集、委員長に池田長田氏選任
- 5月 9日 助役に宮下精一郎氏、収入役に今井克己氏選任
- 5月21日 合併祝賀会開催
立科村消防団結団式開催、旧村単位に分団を置く
- 5月26日 芦田財産区議会議員選挙執行、定数16名、無投票選挙
- 7月 5日 白樺湖一樽ヶ沢間に諏訪バス運行開始
- 7月23日 池ノ平分村対策委員会設置
- 8月 2日 立科統合中学校敷地調査委員会設置
- 8月16日 北部蓼科観光協会設立
- 8月20日 立科村納税組合設立
- 9月13日 蓼北地帯立科水系総合開発期成同盟会発足
- 10月 1日 国勢調査実施、人口8,887人 1,739戸
- 10月18日 第1回村民運動会開催
- 12月12日 わみ山分割研究委員会開催

1956【昭和31年】

- 4月 1日 課設置条例の制定により、総務課、財務課、社会課、
産業課の4課設置
立科村共済組合設立
- 4月12日 立科村酪農組合結成
- 5月 7日 立科村農業共済組合発足
- 5月14日 西部地区青年団、児童補導優良団体として総理大臣表彰受賞
- 5月24日 蓼科牧場にバンガロー建設
- 6月17日 蓼科牧場開設25周年記念式を牧場開場にあわせ開催
- 7月 1日 池ノ平地区境界変更、立科村より1.02km茅野市へ分村し、
蓼科出張所閉鎖

- 7月14日 芦田郵便局開設80周年記念式典開催
- 7月15日 立科統合中学校敷地、中原地籍に決定、土地買収契約成立
6,350坪、買収額7,500千円
- 11月30日 村議会茂田井合併促進委員会設置

1957【昭和32年】

- 3月 1日 立科一小諸間に国鉄バス開通合同祝賀会開催
- 4月 1日 西部、東部の役場出張所廃止
- 4月16日 結核健康診断及び結核予防策優良村として
結核予防協会より表彰を受ける
- 6月 4日 望月-白樺湖間に千曲バス開通
- 7月16日 農業委員会法の改正により委員総辞職し、
全村一選挙区で選挙執行、定数18名、無投票選挙
- 10月13日 立科統合中学校第1期工事着工、
請負業者北野建設(株)、普通教室479坪、工費15,057千円
- 11月14日 赤沼池ボーリング調査開始
- 12月 5日 立科村部落解放審議会設置

1958【昭和33年】

- 1月 8日 水道委員会設置
- 4月 1日 新村建設審議会設置
部落解放専門主事が設置され高瀬朋義氏に委託
- 5月 1日 立科南・西・東中学校を統合し、立科中学校となる
立科村海外移住促進協議会発足
- 5月 3日 立科南小学校に集団赤痢発生
- 5月22日 衆議院議員選挙執行
- 6月 1日 若山牧水歌碑、蓼科牧場に建立、除幕式開催
- 7月 5日 立科中学校第2期工事に着工、
特別管理校舎552坪、工費18,857千円
- 8月 2日 第4回県平和友好祭、蓼科牧場において開催
- 9月17日 台風21号襲来
182mmの降雨により、未曾有の大災害をもたらす
- 9月26日 台風22号襲来
- 10月 1日 町制施行され、立科町となる
- 11月29日 蓼科高等学校創立60周年記念式典開催
立科町外一町上水道組合設立認可
- 12月18日 立科町外一町上水道事業経営認可

立科町のあゆみ

1959【昭和34年】

- 2月28日 立科町外一町上水道事業、
広域簡易水道として国庫補助対策事業に決定
- 3月10日 立科町外一町上水道第1期工事着工、工費18,000千円
請負者岡谷水道(株)
- 3月12日 立科中学校開校式開催
- 3月25日 町制施行及び中学校落成並びに町地区国道舗装完成
祝賀会開催
- 4月 1日 立科町保育所(のちの千草保育園)竣工、入園式開催
84坪、工費1,880千円、定員60名
- 4月14日 部落解放専門主事を同和教育主事に改め教育委員会に配属
- 4月23日 県知事、県議会議員選挙執行
- 4月30日 町長・町議会議員(定数22)選挙執行され、
町長に土屋傳氏当選
- 5月 8日 町議会議員に小宮山蔵司氏、副議長に橋本幸雄氏選出
- 6月 2日 参議院議員選挙執行
- 8月14日 台風7号襲来し、統合中学校、千草保育所の屋根をはじめ
一般家屋、財産組合林に多大な被害を受ける
- 9月11日 降ひょうにより水稻に脱粒被害を受ける
- 9月26日 台風15号襲来し台風7号に続き大きな被害を受ける
- 11月 5日 立科町、町づくりに自治庁表彰を受賞
- 11月26日 消防自動車1台を購入し、町分団に配属

1960【昭和35年】

- 3月19日 川西土地改良区連合会が設立され、立科町に事務所設置
- 4月 4日 立科町千草保育所、定員70名となる
- 4月 6日 望月町茂田井で立科町への境界変更について住民投票執行
- 4月10日 芦田郵便局舎新築移転
- 4月11日 望月町茂田井の児童生徒、立科小中学校へ転入
(小学生161人南小へ、中学生72人中学校へ)
- 4月15日 望月町茂田井の大部分が、住民投票の結果
立科町に境界変更、面積3.34km²
- 4月23日 茂田井地区編入に伴う町議会議員増員選挙執行、
定数3名、無投票選挙
- 4月25日 茂田井地区で初めて移動役場設置
- 5月16日 立科町軍人恩給連盟、身体障害者協会、傷痍軍人会、
母子会がそれぞれ結成
- 7月15日 立科町農業委員会委員選挙執行、定数18名
- 7月20日 農業委員会初会議、会長に今井鶴二氏選出

- 8月 1日 全町水道通水式を温井水源地で開催
- 8月 2日 第1回公民館分館対抗野球大会実施
- 8月19日 立科町商工会設立
- 8月22日 蓼科高等学校全面改築期成同盟会結成
- 8月29日 立科町消防団茂田井分団結団式開催
- 10月 1日 国勢調査実施、人口9,756人 2,022戸
拠出制国民年金の受付開始
- 10月14日 役場庁舎建設委員会設置
- 10月25日 合併5周年・茂田井合併記念祝賀式典開催
- 10月31日 若草保育園竣工 91坪、工費1,318千円
- 11月20日 衆議院議員選挙執行

1961【昭和36年】

- 3月31日 上水道事業工事竣工
- 4月 1日 上水道給水開始
立科町消防団蓼科分団結団
- 4月 8日 上水道事業竣工祝賀式開催
- 4月16日 立科町老人クラブ結成
- 4月18日 農業構造改善事業計画策定地域に指定
- 5月 1日 芦田村外三ヶ村財産組合を蓼科財産組合、
芦田村外四ヶ村財産組合をわみ山蓼科財産組合と改称
- 7月10日 白樺湖畔別荘地造成開始
- 8月18日 第2室戸台風襲来
- 9月18日 蓼科高等学校全面改築工事起工式開催
- 10月 1日 心配ごと相談所開設
工場誘致による月産業(株)業務を開始
- 10月16日 町議会に総合開発委員会設置
- 11月 7日 県営農業水利改良事業起工式開催
- 11月15日 中学校校歌制定、発表会開催
- 12月10日 県観光開発公社による北蓼科白樺高原開発起工式開催
- 12月23日 役場庁舎建設工事竣工
- 12月29日 役場事務新庁舎に移転

1962【昭和37年】

- 1月 4日 事務改善を行い、総務課・町民課・振興課の3課と
会計室・教育委員会事務局を設置し、
新組織により事務を開始

立科町のあゆみ

- 3月20日 農協合併促進委員会設置
- 3月28日 茂田井保育所竣工、94坪、工費3,200千円
三葉保育所、旧東部出張所を改築し竣工、60坪、工費500千円
- 4月 1日 三葉保育所開所、定員70名
茂田井保育所開所、定員70名
立科町農業共済組合を解散し農業共済事業を町に移管
- 4月 8日 役場庁舎落成祝賀式開催
- 7月 1日 参議院議員選挙執行
- 7月10日 県営事業赤沼溜池(現女神湖)・
立科第1号幹線水路工事着手
- 8月 1日 蓼科牧場の電気・水道設備事業が完成
- 8月 3日 農業構造改善推進協議会発足
蓼科牧場周辺の別荘地造成開始
- 8月10日 南小学校プール竣工、工費3,860千円
- 8月13日 ヘリコプターによるいもち病空中防除初めて実施
- 10月 1日 土地改良区合併し立科町土地改良区発足。
第1回総代会開催
- 10月11日 林道樽ヶ沢線開通
蓼科地区の上水道施設・電気導入事業完成祝賀会を開催
- 10月12日 消防自動車1台購入、茂田井分団に配置
- 11月23日 東小学校創立70周年記念式典開催
記念事業として資料館設置
- 12月 8日 西小学校創立70周年記念式典開催
記念事業として資料館設置
- 12月10日 南小学校創立70周年記念式典開催
記念事業として視聴覚備品を整備
立科町母親クラブ連合結成
- 12月18日 農業構造改善事業実施地域に指定され、
3ヵ年計画・事業費1億3,000万円で実施することを決定

1963【昭和38年】

- 4月 1日 南小学校に特別指導学級開設、学校プール建設のため、
3ヵ年計画で年間約300万円の増税を決定
- 4月23日 県知事、県議会議員選挙執行
- 4月25日 姥・中尾簡易水道給水開始
- 4月30日 町長・町議会議員(定数22)選挙執行
初めて町長選挙に記号式投票採用と立会演説会の実施
三代目町長に宮下精一郎氏当選
- 5月 8日 町議会議長に寺島父養氏、副議長に伊藤好一氏選出
- 5月20日 助役に今井克巳氏、収入役に瀬下洋氏選任

- 7月 5日 東小学校にプール完成、工費3,500千円
- 7月15日 農業委員会選挙執行、定数18名
- 7月17日 中学校プール完成、工費4,297千円
- 7月20日 西小学校にプール完成、工費3,500千円
- 9月 1日 立科町農業協同組合が発足し、組合長に小宮山蔵司氏就任
- 9月21日 公民館建設促進委員会結成
- 10月27日 奥地林道夢の平線完成、国鉄バス運行開始
- 11月 8日 奥地林道夢の平線、竣工祝賀式開催
- 11月16日 農協合併祝賀式開催
- 11月21日 衆議院議員選挙執行
- 12月12日 同和地区集会所完成、45坪、工費1,688千円
- 12月16日 同和地区集会所竣工式開催
- 12月20日 沖縄に建立する「信濃の塔」の添石を夢の平地籍から搬出

1964【昭和39年】

- 1月31日 農業共済組合解散
- 2月 8日 蓼北衛生施設組合設立
- 4月 1日 北部蓼科観光協会を北蓼科白樺高原観光協会に改称
- 5月 1日 夢の平に国鉄キャンプ村設置
- 5月 2日 工場誘致による立科金属(株)業務を開始
- 5月13日 ハ子ヶ峰において全国植樹祭が
天皇・皇后両陛下の来臨の中に開催
- 5月15日 88歳以上高齢者、上田山本記念館で天皇陛下に拝謁
- 5月21日 赤沼溜池築造定礎式開催
- 6月 1日 ハヶ岳中信高原国定公園に指定され、
横堰より南側の地籍が指定地となる
国鉄バス夢の平線開通
- 7月18日 蓼科高等学校で同和教育研究会開催
- 7月20日 西小学校、校庭拡張工事着工、工費897千円
- 10月16日 蓼科高等学校、全面改築落成祝賀式開催
「白樺高原音頭」、「ああ女神湖で逢った人」発表会開催
- 10月28日 戸籍改製事務優良町として法務大臣表彰受賞
- 11月 9日 南小学校で同和教育研究集会開催

1965【昭和40年】

- 3月31日 3ヵ年計画による第1次農業構造改善事業完了
- 4月 1日 教育委員会に文化財保護委員会設置

立科町のあゆみ

4月 7日 有線放送事業起工
4月16日 町議会議長に森沢逸三氏、副議長に今井清次郎氏選出
4月22日 南部、東部地区に集団赤痢発生
6月 1日 夢の平線及び白樺湖－蓼科温泉間に
国鉄バス・千曲バス・諏訪バス運行開始
7月 1日 観光課を新設
7月 4日 参議院議員選挙執行
7月16日 宇山堰記念碑除幕式開催
7月24日 観光課事業所落成
8月 1日 有線放送開始
8月10日 北佐久老人福祉施設組合設立
8月18日 農村青年建設班開班式開催、班員25名
8月21日 蓼北衛生施設組合の施設完成、投入式開催
8月27日 公民館敷地選定委員会設置
9月17日 台風24号襲来
10月 1日 国勢調査実施、人口8,876人 2,025戸
10月19日 北佐久老人福祉施設組合による老人ホーム、
望月町に建設が決定し工事に着工
11月11日 有線放送、公社電話に接続され
一中継局までの管外通話可能に
12月14日 蓼北衛生施設組合竣工

1966【昭和41年】

3月 県営水利事業立科第1号幹線水路、
樽ヶ沢から大葉研まで完成3,705m
3月23日 新農村事業で建設した南部稚蚕共同飼育所が火災により半焼
4月 1日 立科町外一町上水道組合解散し水道課を新設、
望月町水道事業は事務委託により立科町で処理
4月14日 蓼科牧場夏冬兼用リフトの起工式開催
4月25日 わみ山分割(立科町76.8%・協和20%・望月茂田井3.2%)し、
調印解散式開催
4月30日 わみ山財産組合解散
5月17日 老人ホーム落成開所式開催
7月 1日 夏期学生村開設
7月15日 農業委員会委員選挙執行、定数12名、無投票選挙
9月10日 蓼科牧場リフト、女神湖センター、
雨境監視所落成祝賀式開催
10月20日 川西傾斜地区農業機械化ステーション落成及び
機械入魂祝賀会開催
11月15日 女神湖(赤沼ため池)築造工事完成、

有効貯水量26万m³、1億382万円

11月19日 合併10周年・財産組合65周年記念行事、記念式典開催
自治功労者表彰、財産組合の功労者顕彰及び表彰、
記念誌の発行(全戸配布)

1967【昭和42年】

1月29日 衆議院議員選挙執行
4月15日 県知事、県議会議員選挙執行
4月30日 町長・町議会議員(定数22)選挙執行
町長に宮下精一郎氏、無投票で再選
5月 6日 芦田千草線消火栓新設工事竣工
5月 8日 町議会議長に森沢逸三氏、副議長に今井清次郎氏再選
5月20日 助役に今井克己氏、収入役に瀬下洋氏再任
5月23日 赤沼ため池竣工式典開催
6月 1日 女神湖ボート操業開始
6月30日 女神湖畔水道幹線布設工事竣工
7月 1日 蓼科牧場第3次別荘造成開始
7月25日 牧場－白樺湖間樽ヶ沢有料道路開通(県企業局施工)
8月 1日 南部地区上水道量水器取替実施
9月10日 埼玉県国体リレー中山道通過
9月20日 県の成人病調査モデル地区に山部部落が指定され、
5ヵ年の継続事業として実施
9月30日 国道142号線(中山道)全面舗装工事竣工
10月 1日 住民基本台帳法施行、住民基本台帳作成
林道蓼科線開通
12月12日 東小学校校歌制定

1968【昭和43年】

1月23日 移動福祉事業所開設、
初の試みとして厚生全般の相談を受ける
4月 1日 老人医療費10割給付実施
地方公営企業法適用(水道)
5月 1日 南平別荘造成開始、貸付開始
6月22日 全町的に降ヒョウ被害1億7,800万円
6月30日 牧場周辺水道配管整備
7月 7日 衆議院議員選挙執行
7月21日 霧ヶ峰有料道路ビーナスライン開通(8月1日開通式)

立科町のあゆみ

7月24日 白樺高原防犯組合設立
8月12日 台風10号により公共土木、農地、農業用施設で
約60,000千円の被害を受ける
10月 8日 美上下水道第1期送水管布設工事竣工
11月 1日 第1次農業構造改善土地基盤整備事業野方地区
ほ場整備工事始まる
12月10日 中学校創立10周年記念・技術科棟完成竣工祝賀式開催

1969【昭和44年】

3月20日 西小学校に保科五無斎資料館竣工
4月 1日 南小学校、中学校が同和教育指定校となる
4月15日 町議会議長に今井久芳氏、副議長に笹井優氏選出
助役に瀬下洋氏、収入役に高橋敏行氏選任
6月27日 公害対策委員会が設置され問題化してきた公害について
審議を行う
7月 1日 小諸―白樺湖線で国鉄バス、千曲バスの相互乗り入れ開始
7月10日 同和対策事業特別措置法公布、
目標達成のため長期計画を策定
7月15日 農業委員会委員選挙執行
7月28日 農業委員会初会議、会長に片桐博氏再任
9月 1日 女神湖のシンボル女神像建立
9月 2日 蓼科総合案内所完成
10月 1日 山部小樋沢川が砂防指定地になる
10月 8日 立科町社会福祉協議会が法人認可
10月10日 佐久地域が「広域市町村圏」に指定
11月 1日 上田地区地方生活圏振興整備計画の指定を受ける
11月 3日 福祉センター竣工祝賀式開催
11月10日 蓼科御泉水自然園完成、西沢知事来町され開園式開催
11月11日 団体営土地改良事業始まる
立科第3号幹線水路改修工事始まる
11月30日 竜ヶ峰配水池(150m³)築造
12月 4日 国道254号線に指定される
12月27日 衆議院議員選挙執行

1970【昭和45年】

1月20日 成人病予防のため、町独自で検診を実施する
40歳以上を対象とし毎年継続して行うことを決定

4月 1日 家庭奉仕員(ホームヘルパー)派遣事業開始
5月 1日 蓼科牧場事務所移転
5月11日 白樺湖浄化対策協議会設立
6月 1日 小学校、中学校 児童生徒用机・椅子総入替
小学校にデスクオルガンを生徒数にあわせ購入
6月10日 蓼科総合案内所竣工
7月 1日 女神湖畔防犯灯設置
8月30日 牧野改良事業完了
8月31日 蓼科財産組合解散、林務課設置
町有林野の森林関係を蓼科森林組合に全面委託
9月 1日 茂田井地区分収林100分の3.8相当の135町歩を分割する
調印成立
9月30日 県道芦田―大屋線全面舗装完了
10月 1日 白樺高原を守る会設立、牧場前駐車場の建設
国勢調査実施、人口8,301人 2,009戸
10月10日 美上下水道第2期送水管布設工事竣工
10月20日 第2女神湖(ハヶ野溜池)調査開始
10月25日 西小学校に岩石園築造
11月 1日 佐久地域広域行政事務組合発足
11月30日 同和対策事業として南部飼育所線を舗装
12月 1日 収入役に塩沢方氏選任
12月11日 中学校音楽室竣工記念式典開催
12月22日 川西騒動の義民の碑除幕式開催

1971【昭和46年】

3月 1日 寝たきり老人対策として特殊ベッド10台購入し、
寝たきり老人へ貸与
3月31日 蓼科森林組合と芦田森林組合が合併し、
立科町森林組合発足
4月 1日 立科町商工業振興審議会発足
4月 8日 桐原に農業生活共同館竣工
4月10日 国道142号線バイパス調査測量開始
4月11日 県知事、県議会議員選挙執行
4月25日 町長・町議会議員(定数22)選挙執行。町長に片桐博氏当選
5月 6日 町議会議長に小林満正氏、副議長に笹井優氏選出
5月 8日 ボーイスカウト結団式開催
6月 8日 助役に奥屋義広氏、収入役に宮下秋男氏選任
6月14日 同和対策事業推進委員会設置
6月30日 女神湖橋・道路舗装工事完了
8月 1日 温井配水池拡張工事着工、工費12,760千円、有効容量550m³

立科町のあゆみ

8月12日 小学校全教室にテレビ配置
中学校給食室、視聴覚室、放送施設改修、VTR導入
8月20日 振興山村農林漁業特別開発事業姥地区ほ場整備工事起工
9月 1日 林道西峰線、長門町と開発委員会を設立し着工
9月 4日 小諸、北御牧、立科3市町村による県道立科小諸線改良
舗装促進期成同盟会発足
9月13日 勤労青少年夜間照明施設完成記念式典開催
(南小学校グラウンド)
9月27日 立科町中小企業振興資金制度創設
10月 1日 川西消防署開署式開催
11月 5日 中学校石垣改修工事、ロータリー池完成
11月10日 林道夢の平線付替工事竣工
11月30日 石川地区に隣保館完成、工費7,556千円

1972【昭和47年】

3月 9日 農業振興地域整備計画策定
3月26日 1日町民室開かれる
4月 1日 国土調査(地籍調査)事業開始
7月10日 国道142号バイパス茂田井地区用地買収開始
7月14日 農業委員会委員選挙執行、定数12名、無投票選挙
7月18日 芦田川水系ダム調査開始
7月24日 農業委員会初会議、会長に両角英夫氏選出
8月 3日 国民宿舎蓼泉閣建設工事起工式開催
8月16日 須沢用水雨境まで引水
10月20日 公民館発明展開催
10月21日 ユースホステル起工
10月25日 中尾・姥簡易水道拡張工事、美上下統合工事実施、
工費4,450千円
11月13日 3小学校耐力度調査の結果老朽化目立つ
12月 1日 中学校に岩石園完成、小中学校に低学年から
石油ストーブを導入
12月10日 衆議院議員選挙執行
12月16日 林道西峰線第2期分、林道万仁田線第1期分竣工

1973【昭和48年】

2月 6日 小学校統合懇談会を町内役職者約200名により組織
2月19日 30部落に対し小学校統合部落懇談会開始

3月 9日 美上下林道竣工
4月 1日 立科中学校、県の道德教育研究指定校となる
果樹共済事業発足
4月10日 町議会議長に小林満正氏、副議長に角田徳市氏選出
4月25日 議会、3小学校を統合し、立科小学校建設を議決
5月 4日 小袋畜産団地事業起工
5月25日 大字塩沢地域を県圃調査地区に採択申請
6月15日 広報たてしな第1号発行
(当時は毎月発行、1部10円としていた)
国民宿舎「蓼泉閣」竣工
6月18日 八子ヶ峰(鹿山)境界確認
6月25日 林道万仁田線第2期工事着手
6月30日 立科町土地開発公社設立
7月 1日 麦作付面積減少により共済事業から除外
7月 6日 林道横堰線舗装完了
7月11日 有料道路料金徴収所落成
7月25日 芦田川水系ダム期成同盟会結成
8月 1日 小・中学校無人化
8月17日 統合小学校の用地買収交渉開始
8月19日 第1回佐久ブロック競技大会、小諸市で開催、70名参加
8月20日 白樺高原ユースホステル竣工
9月26日 望月町協和地区との境界確認
10月18日 八子ヶ峰(鹿山)境界確認
11月15日 49年度より佐久一円一学区となり
上小方面の普通科高校へ進学できなくなる
11月20日 町内芸能文化祭開催
11月30日 麦草の治山工事竣工
12月 4日 町道細丸前沢線、山村振興事業により完成、
事業費16,200千円
12月14日 林道万仁田線第2期工事竣工
12月22日 西峰林道第3期工事竣工

1974【昭和49年】

3月31日 女神湖畔に歴史民俗資料館竣工
4月 1日 西小学校、東小学校に町費で専科教師を増員
4月10日 中学校体育館天井張替工事竣工
4月22日 有料道路料金徴収事務委託
6月 アメリカシロヒトリ集団発生
6月 4日 深久保水源ボーリング完成
6月13日 夢の平線、展望台―御泉水間の舗装完了

立科町のあゆみ

6月16日 女神湖に野球場竣工
7月 2日 土地を守る町民運動推進委員会発足
7月 7日 参議院議員選挙執行
8月20日 夢の平配水池完成、工費44,000千円
9月 2日 統合小学校校舎一括入札、工費5億490千円
オレゴン市(アメリカ)と姉妹都市提携に調印
9月25日 南平林道開設 960m
10月 3日 統合小学校着工
10月 4日 麦草治山工事竣工
10月17日 統合小学校起工式開催
11月22日 林道長峰線(丸子町)開設
11月27日 上水道第3次拡張工事完成、工費1億1,338万円
12月12日 牧場一箕輪平間自転車道完成

1975【昭和50年】

2月25日 小袋畜産団地事業竣工
3月20日 鳴石牧区環境整備事業竣工
4月13日 県知事、県議会議員選挙執行
4月27日 町長・町議会議員(定数22)選挙執行
町長に上原正三氏当選
5月 8日 議長に橋詰隆文氏、副議長に宮下隆幸氏選出
5月20日 白樺高原下水処理施設起工
5月30日 統合小学校低学年棟完成
6月 1日 助役に高橋雅夫氏、収入役に小林敦男氏選任
6月 9日 降雹により農作物に被害。
5月の降雹と合わせ被害総額1億9,000万円
6月28日 塩沢地区県営ほ場整備事業として採択される
7月15日 農業委員会選挙執行、定数12名、無投票選挙
7月29日 農業委員会初会議、会長に今井今朝禰氏選出
8月10日 中学校給食雑排水処理施設完了、牛乳保冷库を設置
10月 1日 国勢調査実施、人口8,425人 2,110戸
10月25日 女神湖下水道事業竣工
10月28日 塩沢地区県営ほ場整備事業起工
11月16日 合併20周年記念式典開催
自治功労者表彰、記念誌発行(全戸配布)

1976【昭和51年】

5月25日 立科土地改良区 全国土地改良事業団体連合会金賞受賞
6月 8日 国民宿舎ケビン起工
6月20日 女神湖テニスコート竣工
7月 8日 統合小学校体育館、食堂棟建設工事入札、工費1億7,155万円
国民宿舎ケビン竣工
7月25日 東京電力送電線に伴う町有地貸与調印式
8月 6日 統合小学校体育館、食堂棟起工
10月10日 同和对策農業基盤整備事業として、
石川地区がほ場整備国庫補助事業に採択、面積30ha
10月21日 立科土地改良区設立15周年記念式典開催
沿革誌(蓼科の水)発刊
11月 2日 しらかばスキー場起工
12月24日 しらかばスキー場竣工

1977【昭和52年】

3月19日 3小学校閉校式、明治以来約100年の歴史を閉じる
3月31日 団体営水路改修事業全幹線完了
4月 1日 家庭雑排水浄化槽導入事業開始
果実共済にぶどう引受が加わる
家畜共済に肉豚引受が加わる
4月 2日 立科小学校開校、入学式開催
丸山寛夫氏が初代校長となる
4月 8日 町議会議員に橋詰隆文氏、副議長に青木辰男氏選出
4月16日 茂田井地区が県営ほ場整備事業として採択、面積191ha
5月14日 立科小学校竣工祝賀式開催
7月 5日 商工会事務所移転
7月10日 参議院議員通常選挙執行
7月20日 小学校プール竣工
7月21日 消防可搬積載水槽車、蓼科分団へ配置
8月10日 美上下ため池起工
10月27日 茂田井地区県営ほ場整備事業起工
11月 2日 同和对策農業基盤整備事業石川地区ほ場整備事業起工
11月 4日 蓼科分団消防庫竣工
11月 7日 姉妹都市オレゴン市民30名が来町
11月23日 竹熊線起工
12月17日 美上下ため池竣工、貯水量40,000m³

立科町のあゆみ

1978【昭和53年】

- 3月20日 林道南平線開通、
総工費59,283千円、延長3,181m、幅員4.0m
- 4月 4日 番屋地区が県営ほ場整備事業に採択、面積510ha
- 4月25日 公民館婦人部設立、第1回大会を福祉センターで開催
- 6月 8日 竹熊線竣工、延長1,600m、幅員6.0m
- 7月 7日 三葉保育園起工、中学校第2体育館起工
- 7月14日 農業委員会委員選挙執行、定数12名、無投票当選
- 7月25日 農業委員会初会議、会長に市川喜樹氏選出
- 8月15日 成人式、蓼科牧場にて開催
- 9月30日 同和対策事業量調査実施
- 10月 9日 国体長野大会の炬火リレーが立科町を通過
- 10月20日 同和対策事業特別措置法3ヵ年延長決定
- 10月31日 三葉保育園竣工、地域森林計画を再編成
- 11月10日 間伐林道押出線開通
総延長1,600m、幅員2.8m、総工費22,798千円
- 11月14日 番屋地区県営ほ場整備事業起工
- 11月25日 立科中学校創立20周年記念式典開催、第2体育館竣工
- 12月20日 自動車ポンプ購入、茂田井分団へ配置

1979【昭和54年】

- 1月23日 第1回部落解放町民大会開催（以降毎年開催）
- 2月26日 同和対策事業矢原畜産団地起工
- 3月20日 林道箕輪平線建設事業着工
- 3月30日 マル横共撰所建設、冷蔵庫を設置
- 4月 2日 畑作共済・園芸施設共済事業発足
- 4月 8日 県知事、県議会議員選挙執行
- 4月22日 町長・町議会議員（定数20）選挙執行
町長に上原正三氏再選
- 5月 4日 町議会議員に黒沢茂平氏、副議長に角田徳市氏選出
- 5月14日 立科小学校校歌制定、発表
- 6月 ブランコケムシ（マイマイガ）大発生
- 7月23日 若草保育園起工
- 8月 3日 権現山運動公園用地買収に着手
- 12月27日 若草保育園竣工

1980【昭和55年】

- 5月 8日 石川地区同和教育集会所竣工祝賀式開催
- 6月22日 衆議院・参議院ダブル選挙
- 6月29日 姉妹都市オレゴン市を町民代表3名が訪問
- 8月 冷夏により農作物（特に水稻）大災害被る
- 8月 4日 県営ほ場整備事業茂田井・牛鹿工区夏期施工始まる
- 8月12日 権現山運動公園建設事業入札、工費1億3,400万円
- 9月 5日 千草保育園起工
- 9月20日 塩沢肉牛団地竣工
蓼科牧場第3リフト起工
女神湖団地町営住宅起工
- 9月30日 農協東部支所ライスセンター竣工
- 10月 1日 国勢調査実施、人口8,347人 2,229戸
- 10月26日 県知事選挙執行
- 10月30日 古町・山の神地区ほ場整備事業起工
- 11月18日 合併25周年記念式典開催、記念誌発行（全戸配布）

1981【昭和56年】

- 1月 9日 林道箕輪平線第2期工事703m竣工
- 2月 9日 千草保育園竣工、工費1億3,600万円
- 3月20日 町地区同和教育集会所竣工、工費12,200千円
- 3月25日 同和対策事業矢原共同畜産団地竣工、工費2億5,491万5千円
- 4月22日 町議会議員に角田徳市氏、副議長に高橋忠幸氏選出
- 6月 1日 川西清掃センター操業開始
- 6月 2日 蓼科地区出張診療開始
- 6月28日 権現山運動公園、野球場、多目的運動場、ゲートボール場、
クラブハウス、駐車場等竣工
- 6月29日 台風10号による被害を受ける
- 7月17日 農業委員会委員選挙執行、定数12名、無投票当選
- 7月20日 農業委員会初会議、会長に鷹野利信氏選出
- 8月21~24日 台風15号により2億8,000万円の被害を受ける
- 10月 6日 役場庁舎新築工事起工式開催

1982【昭和57年】

- 3月 8日 茂田井保育園竣工、工費84,000千円
- 3月15日 林道箕輪平線第3期工事806m、

立科町のあゆみ

樽ヶ沢線第1期工事 532m竣工

3月24日 畑かん用、池ノ平ため池完成、工費1億4,200万円

4月 1日 「同和对策事業特別措置法」が「地域改善対策特別措置法」となり5ヵ年間の時限立法として施行

6月29日 古町・山の神地区は場整備事業竣工、工費38,480千円

7月31日 台風10号による被害を受ける

9月 1日 国道142号線茂田井バイパス供用開始

9月 7日 役場庁舎落成、工費7億3,893万円

9月28日 同和对策農業基盤整備事業石川地区は場整備事業竣工
工費2億7,913万6千円

10月12日 第6回全国育樹祭が皇太子殿下、同妃殿下のご臨席を仰ぎ、
南平地籍において開催

11月24日 土地改良総合整備事業(畑かん)起工

11月25日 白樺高原国際スキー場にスノーマシン設置

1983【昭和58年】

2月 1日 老人保健法施行

2月 8日 林道箕輪平線第4期工事 219m竣工、総延長2,129m

4月10日 長野県議会議員一般選挙執行

4月11日 権現山運動公園、勤労者体育センター、テニスコート竣工
工費3億1,933万2千円

4月24日 町長・町議会議員(定数20)選挙執行
町長に高橋雅夫氏無投票当選

5月 6日 町議会議長に角田徳市氏、副議長に芝間初太郎氏選出

6月 1日 助役に小林敦男氏、収入役に小池宗一郎氏選任

6月26日 参議院議員通常選挙執行

9月24~30日 台風10号による被害を受ける

12月 8日 蓼科牧場ペアリフト運行開始、403m
衆議院議員選挙執行

1984【昭和59年】

3月30日 権現山配水池竣工、工費73,569千円

7月11~18日 姉妹都市オレゴン市を高橋町長他11名訪問

7月15日 農業委員会委員選挙執行、定数12名、無投票当選

7月20日 農業委員会初会議、会長に関正登氏選出

9月17日 芦田郵便局を立科郵便局に改称し、局舎を新築移転

10月 9日 川西衛生センター竣工

10月21日 県知事選挙執行

11月15日 弁天神取水施設竣工、工費13,340千円

11月20日 白樺高原下水処理場増設工事竣工

12月 8日 白樺高原国際スキー場に圧雪車導入

12月25日 芦田字上青木に教員住宅建設

1985【昭和60年】

4月1~7日 姉妹都市オレゴン市よりオレゴン高校レスリングチーム
35名来町

4月11日 老人福祉センター・保健センター竣工式開催、
工費2億8,966万5千円

4月18日 議長に今井一雄氏、副議長に中島輝男氏選出

5月23日 助役に永井英雄氏選任

7月 1日 蓼科牧場ゴンドラリフト運行開始
延長1,260m、工費6億1,500万円

7月29日 権現山運動公園に青少年の森完成、工費9,500千円

8月 8日 合併30周年記念夏期巡回ラジオ体操会を
権現山運動公園で開催、3,500名参加

9月 1日 合併30周年記念町民大運動会開催

10月 1日 国勢調査実施、人口8,455人 2,373戸

10月15日 中央公民館1階全面改修工事完成、工費52,617千円

11月16日 タイムカプセル埋設

1986【昭和61年】

2月15日 第1回綱引き大会開催

4月 1日 社会教育委員制度発足、蓼科有料道路、一般県道となる

5月11日 公民館図書室蔵書2万冊で開室

5月27日 凍霜害発生、果樹を中心に被害を受ける

7月 6日 衆議院参議院ダブル選挙執行

8月 2日 NHKカラオケ歌謡大会を体育センターで開催

9月18日 国庫補助特殊改良第1種町道改良事業、野方中居線竣工、
工費90,882千円

9月20日 西部ライスセンター竣工、工費85,595千円

10月18日 立科小学校開校10周年記念式典開催
記念として校歌石碑及び西門建立

11月21日 藤沢・塩沢の特別農村生活改善施設竣工

12月 広域林道構造改善事業により拡張された

立科町のあゆみ

「しらかばスキー場」が「しらかば2in1スキー場」に名称変更

12月15日 消防団本部の消防自動車を更新

1987【昭和62年】

- 1月26日 主要地方道諏訪白樺湖小諸線赤沢地区
交通安全対策事業着手
- 2月 5日 神奈川県愛川町と友好都市提携を締結
- 4月 水田農業確立対策事業(前期対策)始まる
- 4月 1日 「地域改善対策特別措置法」が「地域改善対策特定事業に
係る国の財政上の特別措置に関する法律」となり5ヵ年間の
時限立法として施行(平成14年3月31日まで延長)
- 4月12日 長野県議会議員一般選挙執行
- 4月26日 町長・町議会議員(定数20)選挙執行
町長に高橋雅夫氏再選、議会議員無投票当選
- 5月 7日 町議会議長に田中賢一氏、副議長に中沢保氏選出
- 5月18日 国道142号線笠取バイパス供用開始
- 6月 議会に立科中学校全面改築特別小委員会設置
- 6月16日 町議会副議長に斉藤武氏選出
- 7月 1日 中学校全面改築特別小委員会始まる
農村総合整備モデル事業始まる。
予定事業費13億1,000万円
- 7月12日 農業委員会委員選挙執行、定員12名無投票当選
- 7月23日 農業委員会初会議、会長に高橋要次郎氏選出
- 7月29日 姉妹都市オレゴン市へ29名親善訪問
- 8月 1日 第3期山村振興農林漁業対策事業始まる。
予定事業費2億5,200万円
- 8月12日 権現山運動公園野球場夜間照明設置、総工費46,000千円
- 9月13日 第15回佐久ブロック大会ソフトボール、軟式庭球、
立科会場で開催
- 10月 8日 1級河川赤沢川藤沢地区改修事業開始
- 10月12日 主要地方道路諏訪白樺湖小諸線藤沢バイパス事業着手
- 10月31日 国道254号線蟹窪バイパス事業着手
- 11月25日 塩沢地区県営ほ場整備事業竣工式開催
総工費13億8,807万8千円
- 12月25日 西の沢砂防ダム竣工、工費6億3,600万円

1988【昭和63年】

- 2月24日 班別同和教育開始
- 3月14日 長野県早起き野球連盟主催、冬季オリンピック招致のための
炬火リレーが立科町を経由し長門町から望月町へ通過
- 3月23日 町営住宅真蒲団地建設第1期工事竣工(10戸)
- 6月 9日 消防ポンプ操法大会が水出し操法に要綱改正される
- 7月 1日 ボランティア振興センター設立
- 7月 2日 中学校全面改築工事始まる
- 8月 冷夏により農作物(水稻)に被害を受ける
- 8月 1日 御泉水太鼓の披露会開催
- 8月18日 芦田宿本陣客殿、県宝指定受ける
- 10月16日 県知事選挙執行
- 11月30日 町営住宅真蒲団地建設第2期工事竣工(10戸)
総工費2億4,172万3千円
- 12月 刀匠宮入清平氏より、立科町へ日本刀寄贈
道具の疎開先が立科町だったことが縁となる

1989【昭和64年・平成元年】

- 1月31日 第3期山村振興事業野菜予冷庫竣工
- 2月 6日 中学校体育館建設工事始まる
- 2月28日 県営ほ場整備事業塩沢地区工事完了
- 3月25日 1級河川番屋川山部地区改修事業竣工
工費3億2,750万円
- 4月 1日 特別養護老人ホーム徳花苑開所、
事業費5億6,882万7千円(佐久地域広域行政事務組合が
建設し、立科町が管理運営する)
- 4月10日 大庭遺跡発掘調査着手
- 4月24日 塩沢地区草地造成事業竣工
町議会議長に両角順一氏、副議長に今井今朝禮氏選出
- 7月 3日 助役に田中恒幸氏選任
- 7月18日 中学校旧校舍お別れ式開催
- 7月19日 中学校旧校舍取り壊し始まる
- 7月23日 参議院議員通常選挙執行
- 7月30日 中学校校舎棟竣工
- 8月5~9日 姉妹都市オレゴン市より18名来町
- 8月10日 中学校体育館竣工
- 11月30日 中学校プール竣工

立科町のあゆみ

1990【平成2年】

- 2月 6日 千曲川高原リゾート構想「女神湖地区」認定
- 2月 8日 りんごジュース加工施設竣工、工費16,480千円
- 2月14日 日本消防協会表彰旗受賞
- 2月18日 衆議院議員選挙執行
- 2月28日 地籍調査事業が、茂田井地区の登記を終え、全町の調査を完了
- 3月20日 土地改良総合整備事業(畑かん施設)竣工
工費5億3,589万円
- 3月24日 中学校全面改築竣工及び開校30周年記念式典開催
- 3月28日 外倉防霜ファン施設竣工、工費73,191千円
- 3月31日 町内文化財案内板新設(案内板21ヶ所、標識4ヶ所)
- 4月 1日 町誌編纂着手
- 5月 3日 第1回駅伝大会開催、優勝茂田井チーム
- 7月15日 農業委員会委員選挙執行、12名無投票当選
- 7月30日 中学校校庭及び部室竣工
- 8月 4日 白樺湖自然散策路整備事業竣工
- 8月 5日 第1回町民まつり「立科えんでこ」を運動公園にて開催
- 10月 外倉地区で、農業集落排水事業の立科第1号として
下水道工事始まる
- 10月 1日 国勢調査実施、人口8,680人 2,537戸
- 11月 8日 合併35周年記念式典開催
- 11月30日 蓼科園地(野外音楽堂外)竣工、工費2億2,686万8千円
- 12月10日 デイサービスセンター竣工、工費1億345万9千円
南平クワッドリフト竣工、工費4億8,410万円
しらかば2in1スキー場に人口降雪システム、
ゲレンデ整備工事竣工

1991【平成3年】

- 1月10日 松並木公園整備事業着工
- 1月18日 デイサービスセンター開所
- 3月26日 地籍調査事業完成記念式典開催
(18年の歳月と4億5,964万円余りの費用を要して完了)
- 4月 7日 長野県議会議員一般選挙執行
- 4月21日 町長・町議会議員(定数18)選挙執行
町長に高橋雅夫氏再選
- 5月 8日 町議会議長に岩下功氏、副議長に今井一成氏選出
- 5月16日 収入役に小池宗一郎氏再任(3期目)
- 8月 1日 蓼科地区で戸籍・住民票の交付事務を始める

- 9月17日 福祉バス運行開始
- 11月 ふる里カルチャー事業開始
- 11月23日 蓼科すずらん会設立、会長に片桐長治氏選出
- 12月20日 コミュニティ・プラント整備事業藤沢処理区水道工事始まる

1992【平成4年】

- 2月 1日 茂田井特定環境保全公共下水道事業着工
- 2月 8日 立科中学校にパソコン22台導入
- 3月 3日 立科中学校に学校目標にちなんで「心の太陽」の
女神像建立
- 3月10日 県営茂田井地区は場整備事業工事竣工
- 3月20日 蓼科遊歩道着工、工費89,198千円
- 4月 1日 千曲バス中仙道線(上田～芦田)が廃止、
東信観光バスによる芦田～大屋間運行始まる
- 5月20日 農業集落排水事業野方・塩沢処理区着工
- 5月28日～6月7日 姉妹都市オレゴン市ジャパンウィークへ参加
御泉水太鼓チームと町民31名が訪問する
- 7月26日 参議院議員通常選挙執行
- 9月12日 学校で月1回(第2土曜日)週休2日制始まる
- 9月30日 牛鹿・柳沢生活改善施設完成
- 10月18日 長野県知事選挙執行
- 10月25日 立石生活改善施設完成
- 10月26日 教育長に中島正恵氏就任
- 11月 1日 白樺高原国際スキー場スノーマシン増設・ゲレンデ整備工事、
しらかば2in1スキー場ゲレンデ改修工事完成
- 12月10日 白樺高原国際スキー場クワッドリフト新設・
第3ペアリフト移設工事完成
- 12月22日 屋内多目的運動場竣工、工費85,370千円
中央公民館改修工事竣工、工費1億206万3千円

1993【平成5年】

- 3月 3日 特定環境保全公共下水道事業立科処理区着工
- 3月27日 上信越自動車道「佐久インター」開通
- 3月31日 コミュニティ・プラント整備事業藤沢処理区完了
事業費4億3,025万円
松並木公園竣工
日向生活改善施設完成

立科町のあゆみ

農村総合整備事業完了

4月 役場完全週休2日制を実施

4月 1日 川西保健衛生施設組合粗大ごみ最終処分場供用開始

4月28日 町議会議長に市川元将氏、副議長に今井一成氏選出

4月30日 高齢者生きがいセンター竣工

5月 1日 美谷沢産業廃棄物処理場供用開始

6月~平成6年3月 雨境峠祭祀遺跡群発掘調査実施される

6月25日 蓼科ふれあいセンター竣工、工費3億1,720万9千円

7月11日 第15回農業委員統一選挙

7月18日 衆議院議員総選挙、最高裁判官国民審査執行

8月 1日 農業集落排水事業外倉処理区、
コミュニティ・プラント藤沢処理区供用開始

8月10日 信州博覧会川西催事参加

8月30日 農業集落排水事業山部・牛鹿地区着工

9月 1日 川西地区4農協が合併し「佐久しらかば農業協同組合」が発足

10月25日 蟹窪生活改善施設完成

4月 8日 学校が月2回(第2・4土曜日)週休2日制始まる

4月 9日 長野県議会議員一般選挙執行

4月23日 町長・町議会議員(定数18)選挙執行
町長に遠山順孝氏初当選

5月 8日 町議会議長に大森春雄氏、副議長に宮下正一氏選出

5月16日 助役に宮沢政恒氏、収入役に宮下武浩氏選任

7月 7日 立科町・浅間・佐久市・望月町4森林組合、
浅科村・北御牧村により佐久森林組合成立

7月18日 デイサービスセンター・介護支援センター起工式開催

7月20日 女神湖周遊散策路整備工事竣工、工費1億4,232万1千円

7月23日 参議院議員通常選挙執行

7月27日 白樺高原下水処理場第4期増設工事竣工
工費2億5,310万3千円

8月 8日 国道142号線立科町全線改良完了

9月19日 権現山運動公園にマレットゴルフ場竣工

10月 1日 国勢調査実施、人口8,712人 2,681戸
教育相談員設置・中間教室開設

10月16日 蓼科遊歩道、親水ミニパーク整備事業竣工、
工費1億8,183万9千円

10月19日 合併40周年記念式典開催、町誌(自然編)発刊

12月 1日 農業集落排水事業野方塩沢処理区供用開始

12月28日 町誌(民俗編)発刊

1994【平成6年】

3月15日 農業集落排水事業外倉処理区竣工式開催、
事業費9億4,610万円

3月25日 女神湖センター竣工、工費1億4,659万6千円

6月 4日 姉妹都市提携20周年、町議会オレゴン市訪問

6月19日 白樺高原ビーナスマラソン大会in女神湖開催

7月 1日 立科町における部落差別撤廃とあらゆる差別を無くすことを
めざす条例施行

7月30日~8月8日 姉妹都市提携20周年オレゴン市民15名来町

9月 5日 大城住宅団地造成始まる

9月 9日 県営ほ場整備事業番屋地区竣工式開催。記念碑建立

11月23日 西塩沢農村整備促進委員会、豊かな村づくり部門で
内閣総理大臣賞受賞

12月10日 白樺高原総合観光センター竣工、工費5億9,602万6千円

1995【平成7年】

2月 大城団地分譲始まる

3月28日 第3次長期振興計画策定。テーマ「人と自然が輝く町」

4月 千草保育園で延長保育開始

4月 5日 権現山運動公園地籍にて温泉の掘削始める

1996【平成8年】

3月23~30日 姉妹都市オレゴン市へ6名ホームステイ(中学校)

3月27日 心かよう館竣工

4月 1日 デイサービスセンターやすらぎ事業開始
特定環境保全公共下水道事業茂田井処理区供用開始

5月 1日 茂田井町営住宅竣工

5月~ 松くい虫異常発生

7月 7日 第16回農業委員会統一選挙

7月14日 権現山運動公園にて温泉湧出

7月24日 農業委員会初会議、会長に遠山達雄氏選出

8月 1日 住民情報システム(住民票)OA化スタート

10月 1日 デジタル有線放送を活用した水道・ガスの自動検針運用開始
いじめ・非行対策本部設置

10月 6日 立科小学校開校20周年記念式典

10月20日 衆議院議員総選挙、最高裁判所裁判官国民審査、
長野県知事選挙

10月26日 教育長に中島正恵氏再任

立科町のあゆみ

- 11月 1日 全国優良公民館表彰受賞
- 11月15日 白樺高原国際スキー場ゲレンデ整備工事竣工
工費1億506万円
- 11月29日 水道夢の平〜万仁田間導水施設竣工

1997【平成9年】

- 2月26日 大深山集会施設建設
- 3月10日 町誌(歴史年表)発刊
町誌(歴史編)発刊
- 3月26日 滝神農村公園竣工
- 3月31日 大城教員住宅竣工
風の子広場水路(用水路改修工事)、ふるさと水と土ふれあい事業竣工
西塩沢水辺公園竣工
- 4月 1日 印鑑登録事務OA化スタート
大城団地が立科町の16番目、大城区となる
愛称「スターヒルズ大城」
- 5月 8日 町議会議長に永井宗夫氏、副議長に金子忠一氏選出
- 6月 1日 立科町「部落差別撤廃とあらゆる差別をなくすことをめざす」
推進本部設置
- 7月11日 さんまのからくりテレビ「ご長寿早押しクイズ」収録
伊藤龍雄氏、成沢基美氏、小宮山時男氏出場
- 8月 1日 姉妹都市オレゴン市より中学校へ親善大使兼英語指導
助手(AET)を招致
クリスティン・ノリコ・パスチャイルド氏就任
- 9月 5日 茂田井農村公園竣工
- 10月 1日 大城ふれあい農園開園
- 11月28日 しらかば2in1スキー場ゲレンデ整備竣工、工費87,675千円
- 12月 1日 農業集落排水事業山部・牛鹿処理区供用開始

1998【平成10年】

- 1月 9日 雪害発生(パイプハウス・人参小屋・農機具倉庫等)
- 1月27日 長野オリンピック聖火リレー通過
- 2月27日 児童館竣工
- 3月 1日 八子ヶ峰及び東白樺湖地区の一部が県の景観形成重点
地域に指定される
- 3月25日 立科町「部落差別撤廃とあらゆる差別をなくすことをめざす」
総合計画策定

- 3月27日 平林集会施設竣工
- 4月 1日 特定環境保全公共下水道事業立科処理区供用開始
- 4月23日 立科温泉たてしなの里「権現の湯」竣工、24日オープン
- 4月29日 白樺植樹祭(15,000本)
- 5月20日 アクティブ権現の杜公園竣工
- 6月 5日 立科町ホームページ開設。観光・イベントを中心に情報提供
- 7月 1日 立科町「人権教育のための国連10年」推進本部設置
- 7月12日 参議院議員通常選挙執行
- 8月 小・中学校大規模改修工事(下水道接続)
- 8月10日 へい獣処理一時保管施設設置
- 8月21~25日 姉妹都市提携25周年、
町長、議長、姉妹都市委員長、オレゴン市を訪問
- 9月 5日 立科中学校創立40周年記念式典
- 9月15~16日 台風5号災害発生
- 9月28日 水道中央監視システム・自動検針竣工式
- 10月 1日 24時間巡回型ホームヘルプサービス開始

1999【平成11年】

- 3月12日 「人権教育のための国連10年」推進立科町行動計画策定
- 3月16日 立科町地域振興券の交付開始
- 3月31日 有害動植物防除対策美上下地区シカ防護柵設置
- 4月 1日 農業集落排水事業宇山処理区供用開始し、
全処理区供用開始となる
- 4月11日 長野県議会議員一般選挙執行
- 4月25日 町長・町議会議員(定数16)選挙執行
町長に遠山順孝氏再選
- 4月30日 凍霜害発生(雨量97mm) 被害額27,000千円
- 5月 2日 白樺湖植樹祭(15,000本)
- 5月 7日 町議会議長に小池守一氏、副議長に山越敏子氏選出
- 6月 1日 廃プラ・不要農業回収
- 6月29~30日 豪雨災害
- 8月14~16日 豪雨災害
- 7月11日 第17回農業委員統一選挙
- 7月22日 農業委員会初会議、会長に羽田袈裟巳氏選出
- 8月 1日 オレゴン市姉妹都市親善大使兼英語指導助手(AET)に
クリスティン・イングルブレッツン氏就任
- 9月 小・中学校コンピュータ導入・インターネット接続
- 9月10日 細谷定住促進住宅竣工
- 10月1日 一般廃棄物の18分別回収始まる
- 10月17日 参議院議員長野県選出議員補欠選挙執行

立科町のあゆみ

11月22日 白樺高原国際スキー場パトロール室建設工事竣工、工費9,554千円
11月23日 SBCカラオケのど自慢「権現の湯」大会開催

2000【平成12年】

2月 1日 高齢者生活支援共同住宅「あんしん」及び、
短期入所生活介護施設開所
2月 4日 全国町村議会議長会より優良議会表彰を受ける
2月 9日 県営ほ場整備丸山地区竣工
3月 1日 佐久浅間農協合併
3月10日 蟹原集会施設竣工
3月30日 第三次長期振興計画「後期基本計画
(平成12年度～平成16年度)」策定
4月 1日 佐久広域連合発足(16市町村)
立科町公文書公開条例施行
立科町介護事業所を介護保険施行にあわせ、
「ハートフルケアたてしな」として介護サービス事業を開始
4月18日 精神障害者共同作業所(どんぐりの家)竣工
4月29日 白樺植樹祭(15,000本)
5月13日 「権現の湯」来館者50万人突破
6月25日 衆議院議員総選挙、最高裁判所裁判官国民審査執行
7月12日 芦田宿街路灯整備工事竣工、工費22,575千円
8月 6日 町道芦田大通り線供用開始、芦田宿に灯籠型街路灯設置
8月 7日 陣内森林公園オープン
8月31日 青少年交流センター竣工
9月20日 SBC「はっとスタジオSBC」立科町から生中継
10月 1日 国勢調査実施、人口8,609人 2,813戸
10月15日 長野県知事選挙執行
10月22日 蓼科高等学校創立100周年記念式典開催
10月26日 教育長に相澤利朗氏就任
11月 9日 立科町合併45周年記念式典開催、記念誌全戸配布
11月28日 蓼科高等学校にて地歴・公民科公開授業開催
(長野県平成12年度個性のある高校づくり推進事業)
12月 桐の杜公園にあずまやとベンチを設置
(平成12年度宝くじ普及事業)
12月12日 立科町名誉町民条例制定

2001【平成13年】

1月18日 町区コミュニティセンター竣工
2月 9日 たてしな人権センター竣工(4月1日開館)
3月30日 サンセットポイント竣工、工費7,686千円
4月 1日 家電リサイクル法施行
立科町個人情報保護条例施行
役場時間外窓口業務開始(毎週月曜午後7時まで)
4月24日 町議会議長に荻原正義氏、副議長に今井昇一氏選出
4月29日 白樺の道植樹祭、三矢工業(株)より白樺の苗木1,000本寄附
6月18日 戸籍事務コンピュータ化スタート
7月23日 蓼科分団、牛鹿分団に消防積載車を配備
7月29日 参議院議員選挙執行
(議員定数削減、非拘束名簿式比例代表制適用)
8月 オレゴン市姉妹都市親善大使兼英語指導助手(AET)に
ジェフリー・ウィリアム・クルーガー氏就任
8月 1日 立科温泉「権現の湯音頭」発表会、作詞作曲:荻原邦久氏
8月29日 御泉水自然園ビジターセンター起工式
9月 1日 立科町消防団大城分団発足
9月20日 陣内森林公園、(主)諏訪白樺湖小諸線三望台、
三望台ツツジ公園、若者町営住宅(細谷町営住宅)の
4事業合同竣工式開催
10月12日 田中知事が蓼科高等学校を訪問(どこでも知事室開催)
10月21日 白樺高原を会場に、立科町観光フォトコンテスト開催
参加者300名

2002【平成14年】

2月 9日 川西四ヶ町村合併問題研究会設立
4月 生涯学習・青少年のための人材バンク設立
生きがい対応型デイサービス「ふれ愛・あした塾」開所
ビーナスライン全線無料化に伴い林道夢の平線も無料化
町道夢の平線となる
4月22日 交通死亡事故ゼロが1,000日達成
4月25日 立科町共生いきがいセンター竣工
蓼科高等学校社会教育コース「地域」授業にて
遠山順孝町長が生徒と対話
4月27日 簡易休憩施設付市民農園「クラインガルテン」竣工
蓼科農ん喜村開村
御泉水自然園ビジターセンターオープン
工費1億6,966万9千円

立科町のあゆみ

5月16日 立科小学校6年3組総合的学習より「立科ビューティフルプロジェクト」として、立科小・中学校・蓼科高校の三校
 合同で町内の清掃を行う

5月21日 全町下水道供用開始

7月 7日 長野県木と緑のふるさとフェアが女神湖周辺で開催
 県内外より2,000人の来場者
 農業委員会委員選挙執行

7月20日 農業委員会初会議、会長に羽田袈裟巳氏選出

7月24日 作家の土屋隆夫氏が立科町第一号名誉町民に選ばれる

8月1~5日 オレゴン親善大使訪問団10名が町民まつりにあわせて来町

8月 5日 住民基本台帳ネットワークシステム第1次サービススタート

8月13日 立科温泉「権現の湯」来館者100万人突破

8月21日 蓼科地区介護予防拠点整備事業健康支援センター起工式

9月 集落案内板設置、町内37ヶ所

9月11日 諏訪大社上社「式年造宮御柱大祭」御柱仮見立が
 約1,000人が見守る中、立科町の町有林で行われる

10月 第1回市町村合併アンケート実施
 合併を積極的に進めるべき・
 合併をどちらかといえば進めるべき…38.6%
 合併を進めるべきではない・
 合併をどちらかといえば進めるべきではない…34.6%
 わからない・無回答…26.8%

11月16日 商工祭が「多来福(たらふく)まつり」に名称変更して開催

12月10日 夢の平展望台竣工、工費4,956千円

2003【平成15年】

1月12日 蓼科高等学校吹奏楽部
 「スチューデント・ジャズフェスティバル2003」に出場
 映画「スウィングガールズ」のモデルの一つに

1月13日 商工会青年部主催のどんと焼き「立科どんと」が
 権現山多目的グラウンドで開催

2月 7日 蓼科ふれあい健康支援センター女神竣工
 生きがい対応型デイサービス開所

3月16日 国際交流パーティー開催
 立科町在住の外国籍の方と子供たちが交流

4月 1日 立科町町民証を希望者に有償発行開始

4月13日 長野県議会議員一般選挙執行
 立科町から寺島義幸氏(4期)、今井正子氏(初)の2名が当選

4月27日 町長・町議会(定数16)議員一般選挙執行
 町長に遠山順孝氏再選(3期目)

5月 立科町ブックスタート事業「親子ふれあい絵本プレゼント」開始

5月 6日 町議会議長に宮下典幸氏、副議長に竹花政彦氏選出

5月11日 白樺植樹祭(4,000本)

5月22日 陣内地籍三望台にてレンゲツツジの植栽と
 ヒノキの枝打ちを横浜共立学園中学2年生が体験

5月30日 蓼科牧場ゴンドラリフト山頂駅近くに展望トイレ竣工
 工費23,835千円

6月21日 御柱祭本見立「諏訪大社上社御柱祭の本見立神事」開催

8月25日 住民基本台帳ネットワークシステム第2次サービススタート

10月 第2回市町村合併アンケート実施
 自立すべき…67.5%
 合併すべき…30.3%
 無回答………2.2%

10月27日 個別排水処理施設設備事業合併浄化槽設置工事
 (中尾・美上下地区)供用開始

11月 都市農村交流施設「交流促進センター」竣工
 オレゴン市姉妹都市親善大使兼英語指導助手(AET)に
 スティーブン・トート・エドワーズ氏就任

11月14~18日 故小川傳四郎氏より絵画19点寄贈、絵画展開催

11月28日 構造改造特別区域計画
 「都市農村交流空間創造特区」認定

12月20日 蓼科牧場ゴンドラリフト搬器リニューアルオープン
 工費1億1,970万円

2004【平成16年】

1月 古町区コミュニティセンター竣工

3月 立科町畜産物キャッチフレーズが武重明広氏の
 「おいしさいっぱい愛情いっぱい立科産」に決定
 立科農畜産物認証マーク決定

3月18日 御柱上社御柱祭用材伐採

4月 3日 諏訪大社上社御柱祭本宮一の木落し

5月 2日 御柱祭上社里曳きに立科神輿之会約90名が
 立科の神輿のもとに参加

5月16・22日 中山道ウォーキング開催。2日で述べ700名参加

6月 広報たてしな特別号「自立に向けたまちづくり」発行

7月 茂田井町営住宅竣工(6戸)

7月7~14日 オレゴン市姉妹都市提携30周年、
 訪問団総勢15名がオレゴン市を訪問し記念式典に参加

7月11日 衆議院議員選挙通常選挙執行、期日前投票制度創設

7月12日 公的個人認証サービス開始

立科町のあゆみ

8月11日 立科町水辺教室開催、浄化槽を工事・設置した仲間で
発足した蓼科の水を考える会を開催
8月15日 立科町ふるさと交流館「芦田宿」オープン
オープニングイベント小川傳四郎絵画展
9月15日 教育長に相澤利朗氏再任
10月20日 台風23号土砂崩れなどの災害発生
10月28日 立科町・オレゴン市姉妹都市提携30周年記念式典開催
農ん喜村内で記念碑除幕式等を行う
12月12日 柳沢公民館竣工

2005【平成17年】

2月 1日 認知症対応型共同生活介護施設「グループホームだんらん」開所
3月26日 第4次長期振興計画策定
4月 1日 収入役を置かないこととし、収入役業務は助役が兼掌
立科町自立計画策定
4月26日 町議会議長に宮下典幸氏、副議長に倉沢修氏選出
5月16日 「立科町に野草を増やす会」が女神湖畔に減少傾向のユウスゲを植栽
5月26日 権現山運動公園マレットゴルフ場に増設9ホールが完成
(立科町マレットゴルフクラブ員による手造り)
7月 4日 蓼科第二牧場県営草地整備事業着手、工費10,210千円
7月 5日 御柱祭用材伐採地に自然散策路
「堰・清流・巨木への道」整備
7月10日 田中康夫 長野県知事が立科町を視察
農業委員会委員一般選挙
7月26日 農業委員会初会議 会長に羽田袈裟巳氏選出
8月 1日 オレゴン市姉妹都市親善大使兼英語指導助手(AET)に
ジェフリー・ウイリアム・クルーガー氏就任
10月 1日 国勢調査実施、人口8,237人 2,724戸
10月25日 立科町合併50周年記念式典開催、記念誌全戸配布
11月30日 しらかば2in1スキー場に「ポーラー カラーセル」竣工、
工費3,000千円
12月10日 白樺高原国際スキー場「フォレストコース」全長3.5kmを新設

2006【平成18年】

1月 4日 立科町出前講座開始
2月 5日 第1回いきいきネットたてしな開催
2月22日 塩沢堰が農林水産省の疏水百選に認定される

3月24日 茂田井保育園44年の歴史に幕
4月 1日 立科町「地域包括支援センター」開設
千草保育園2歳児のたんぽぽ組誕生
6月 1日 立科町行政改革大綱(第三次改訂)・集中改革プラン策定
8月 3日 立科町子育て支援センターが開所
8月 6日 長野県知事選挙執行、村井仁氏が初当選
10月 7日 立科小学校開校30周年記念式典開催
10月15日 立科町総合防災訓練
11月 4日 第1回「たてしなふれ愛むら」開催
12月 9日 白樺高原国際スキー場「フォレストコース」全長5kmに延長

2007【平成19年】

2月25日 牛鹿区外倉コミュニティセンター竣工
4月 1日 地方自治法改正により、助役を廃止し副町長を
置くこととされ、宮澤政恒氏選任
4月 8日 長野県議会議員一般選挙執行
立科町から寺島義幸氏(5期)、今井正子氏(2期)が当選
4月22日 町長・町議会議員(定数12)一般選挙執行
町長に小宮山和幸氏が無投票で初当選
5月 8日 町議会議長に佐藤巍氏、副議長に中島稲夫氏選出
5月12日 相模原市と「経済・観光に関わる交流協定」締結
5月16日 副町長に森澤光則氏選任
6月23日 姉妹都市オレゴン市長、姉妹都市会長他5名来町
6月30日 虎御前公民館竣工
7月 1日 教育長に塩澤勝巳氏就任
9月 2日 立科町総合防災訓練(南部地区)
10月 1日 電話の通話区域が「小諸エリア」から「佐久エリア」に変更
12月 1日 「消防団協力事業所表示制度」運用開始
12月25日 原油価格高騰に対する緊急支援策として
「立科町福祉灯油券」を給付

2008【平成20年】

1月13~20日 長野県信濃美術館移動展開催(ふるさと交流館「芦田宿」)
1月25日 北青木住宅団地竣工式
2月 3日 「町づくり研究会」が公募町民179名で発足
3月12日 「町づくり戦略会議」設置、20名の委員に委嘱書を交付
3月22~29日 立科中学校1年生3名、2年生3名がオレゴン市を訪問
3月29日 蓼科高校ジャズクラブがアメリカワシントンの桜まつりでコンサート

立科町のあゆみ

- 4月 1日 若草保育園で一時保育を開始
「がんばる地域応援事業交付金」制度スタート
御泉水自然園の管理を索道事業特別会計へ移行
- 6月16日 「立科町水道水源保護条例」及び
「立科町水道水源保護審議会条例」制定。9月1日施行
- 7月 6日 農業委員会委員選挙執行
- 7月27日 第50回長野県消防ポンプ操法大会・第17回長野県消防
ラッパ吹奏大会が、女神湖多目的運動場と蓼科園地野外
音楽ホールで開催される
- 7月28日 農業委員会初会議、会長に寺島秀勝氏選出
- 8月 2日 第19回町民まつり「立科えんでこ」に「よさこい立科」を
取り入れる
- 9月20日 立科中学校創立50周年記念式典開催
- 9月21日 立科町総合防災訓練(西部地区)
- 11月15日 第1回「中山道ウォーキングinたてしな」開催
- 11月28日 「朝日の丘公園」竣工、工費32,309千円
- 12月23日 新宿からのスキー場直行バス運行開始

2009【平成21年】

- 1月 5日 「ふるさと立科応援隊」を結成
- 1月15日 立科町緊急経済対策本部を設置
- 1月25日 第1回立科町学校合同コンサートを上田市丸子文化会館
セレスホールで開催
- 2月 1日 「権現の湯」の熱源をヒートポンプ方式に変え、
サウナの全面改修を行いリニューアルオープン
- 2月16日 村井仁 長野県知事が立科町を公式視察
(国道254号宇山バイパス、笠取峠のマツ並木、
蓼科農ん喜村交流促進センター)
- 3月19日 町の文化財第六集「たてしなの地名」刊行
- 4月20日 議会議長に箕輪修二氏、副議長に中島稲夫氏選出
- 4月30日 新型インフルエンザ対策本部設置
- 8月25日 「権現の湯」の入館者が250万人を達成
- 8月30日 衆議院議員総選挙、最高裁判所国民審査執行
- 9月27日 立科町総合防災訓練(東部・茂田井地区)
- 9月30日 22年間運行した「福祉バス」が終了
- 10月 1日 「たてしなスマイル交通」の実証運行が3ルートにより開始
- 11月17日 白樺高原国際スキー場に「キッズウェイ」日本最長級102m
工費16,170千円
- 12月 6日 立科小学校6年2組が「第9回ふるさとCM大賞NAGANO」
でハッスル賞を受賞

2010【平成22年】

- 2月 5日 児童館増築工事竣工
- 3月10日 第4次長期振興計画、後期基本計画策定
- 3月15日 長野県議会第84代議長に寺島義幸氏就任
信州ハム株式会社・佐久浅間農業協同組合・同組合畜産
協議会しらかば肉牛部会・立科町による「信州蓼科牛」
登録商標共有使用に関する協定書調印式
- 3月19日 県宝「旧芦田宿本陣土屋家住宅」第一期修繕工事竣工(～23年度)
- 3月20～27日 立科中学校1年生2名、2年生6名がオレゴン市を訪問
- 3月25日 子育て支援住宅「サンコーポ芦田宿」竣工、
工費1億4,851万円
- 3月26日 立科町男女共同参画長期プラン作成
- 3月29日 国道254号宇山バイパス極楽坂工区680m竣工
- 4月 1日 望月警察署が佐久警察署に再編、
川西庁舎望月警部交番となる
「たてしなスマイル交通」の実証運行ルートを4ルートに変更
- 5月 御泉水自然園内に御泉水の水汲み場設置
- 5月24日 県天然記念物「笠取峠のマツ並木」
保存管理計画策定委員会発足(～23年度)
- 7月 9日 信州大学・長野大学・立科町による地域ブランド共同研究
契約調印式
- 7月11日 参議院議員通常選挙執行
- 8月 8日 長野県知事、長野県議会議員佐久市・北佐久選挙区補欠
選挙執行、長野県知事に阿部守一氏が初当選
- 10月 1日 国勢調査実施、人口7,707人 2,672戸
- 10月17日 立科町合併55周年記念式典開催
- 11月 1日 蓼科御泉水「幸せの鐘」が恋人の聖地に認定
- 11月 7日 第1回立科の味「料理コンテスト」開催

2011【平成23年】

- 1月28日 立科町未来創造塾
地域資源を活用したブランド構築活動策発表会
- 2月 3日 上田市が中心市宣言
立科町も上田地域定住自立圏域に参加を表明
- 3月11日 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)発生
立科町震度4
- 3月12日 長野県北部地震発生
- 3月30日 地域情報通信基盤整備事業竣工、
総事業費4億1,400万円

立科町のあゆみ

- 4月 1日 立科町災害対策支援本部を設置
地域情報通信基盤整備事業により、蓼科地区・中尾・美上下地区への音声告知放送を開始。光ファイバー網を利用した行政情報のデジタルデータ放送を開始
子宮頸がんワクチン・ヒブワクチン・小児肺炎球菌ワクチンの予防接種無料化
- 4月 6日 公民館報「館報立科」50号を発行
- 4月 7日 「たてしなふれ愛園」開所
- 4月10日 長野県議会議員一般選挙執行
立科町から寺島義幸氏(6期)、今井正子氏(3期)が当選
- 4月24日 町長・町議会議員(定数12)一般選挙執行
町長に小宮山和幸氏が無投票で再選
議会議員無投票当選
- 5月 6日 町議会議長に瀧澤壽美雄氏、副議長に橋本昭氏選出
- 6月 1日 株式会社立科町農業振興公社(屋号：信州たてしな屋)設立。資本金10,000千円
- 6月24~27日 立科町社会福祉協議会が震災復興支援ボランティアを募り、岩手県大槌町へ
- 7月10日 農業委員会委員選挙執行
- 7月21日 佐久市が中心市宣言
立科町も佐久地域定住自立圏域に参加を表明
- 7月27日 上田地域定住自立圏協定書締結
- 8月15日 オレゴン市姉妹都市親善大使兼英語指導助手(AET)にアリッサ・ハナエ・コイダ氏就任
- 8月20日 震災復興支援「プレミアム付きたてしな商品券」を商工会で販売、プレミアム分10%助成
- 8月24日 ~立科町方式の道路アダプトシステム~
町道維持管理協定書締結式
- 10月17日 県道牛鹿望月線整備促進期成同盟会が設立
- 10月24日 町長・議長、岩手県大槌町を訪問し義援金を届ける
- 11月 9日 長野県・蓼科区・立科町の三者による「信州ふるさとの道ふれあい事業」の協定書調印式
- 12月16日 立科町ブランドロゴ及びキャラクター決定
【キャラクター名：しいなちゃん】

2012【平成24年】

- 1月12日 佐久地域定住自立圏協定書締結
- 1月28日 「権現の湯」の入館者が300万人を達成
- 2月27日 公共施設等の空間放射線量の定期測定開始、町ホームページで公表

- 3月15日 子育て支援住宅「サンコーポ芦田宿南」竣工、総事業費2億4,788万5千円
「細谷朝日ヶ丘団地」竣工、総事業費67,290千円
- 3月19~26日 立科中学校1年生6名、2年生2名がオレゴン市を訪問
- 4月 1日 「たてしなスマイル交通」4ルートで本格運行開始
白樺高原観光協会、
「一般社団法人蓼科白樺高原観光協会」として法人化
- 4月 2日 立科町マスコットキャラクター「しいなちゃん」に辞令交付
- 6月11日 総合保育園起工
- 6月13日 立科町地下水保全条例を制定(平成24年7月1日施行)
- 7月24日 清瀬市と「災害時相互応援に関する協定」を締結
- 8月 7日 一般財団法人中部電気保安協会長野支店と「災害時における電気の保安に関する協定」を締結
- 10月 1日 教育委員長に米澤修一氏選任
- 11月19日 統合保育園の名称を「たてしな保育園」と決定(応募者46名)
- 12月 しらかば2in1スキー場にキッズウェイ導入
- 12月16日 衆議院議員総選挙執行、日向の寺島義幸氏(民主党)が初当選(立科町で初めての国会議員誕生)

2013【平成25年】

- 1月18日 索道事業の再構築について、
「索道事業経営改善検討委員会」に諮問
- 2月 1日 上田地域定住自立圏形成協定に基づく、
上田市内の公共図書館の利用開始
- 2月20日 国道254号立科町宇山バイパス(矢原工区)起工
- 3月12~13日 立科町議会初の「予算特別委員会」を開催
- 3月15日 故遠山順孝氏に内閣総理大臣より従六位の位記が授与される
- 3月22日 千草・若草・三葉保育園、閉園
- 3月27日 たてしな保育園竣工式開催
- 3月30日 ハートフルケアたてしな、譲渡
- 4月 1日 ハートフルケアたてしな、社会福祉法人化
(徳花苑・デイサービスセンターむつみ、やすらぎ・グループホームだんらん)
立科町不妊治療費助成金交付事業開始
- 4月 3日 たてしな保育園、開園式開催
- 4月18日 索道事業経営改善検討委員会から答申
- 4月22日 町議会議長に瀧澤壽美雄氏、副議長に小池美佐江氏選出
- 5月 5月の日照時間、立科町が全国1位
(6月5日付信濃毎日新聞掲載)
- 5月 1日 立科教育、小・中・高連携授業開始

立科町のあゆみ

7月18日 故高橋雅夫氏に内閣総理大臣より従六位の位記が授与される
9月 1日 御泉水太鼓25周年記念演奏会
9月15~16日 台風18号により耕地、道路ほか被災
9月24日 清瀬市・立科町及び各社会福祉法人との
「災害時相互支援協定」を締結
10月17日 Jアラート(全国瞬時警報システム)を
有線放送と音声告知放送に接続
11月15日 索道事業の指定管理者制度導入について、
索道事業あり方研究会議に諮問
12月 7日 阿部知事と町民によるタウンミーティング開催
12月 9日 野方下宮地裏住宅団地起工
12月19日 立科町・長和町消防団隣接地域の消防応援活動について
(申し合わせ事項)調印

2014【平成26年】

1月31日 立科町・一般社団法人長野県建築士会佐久支部
災害時における応急危険度判定等の協力に関する協定を締結
2月16日 記録的大雪、14~15日降雪(役場駐車場の積雪約95cm)
2月25日 立科町・長野県LP協会佐久支部・一般社団法人長野県
LPガス協会、災害時におけるLPガスに係る協力に関する
協定を締結
3月20~27日 立科中学校1年生4名、2年生4名がオレゴン市を訪問
4月 1日 蓼科山の標高改定、2,531m
(国土地理院発表：10cmの位を四捨五入した標高)
4月 2日 たてしな保育園の園歌発表、作詞作曲：松任谷由実さん
4月29日 ふるさと交流館「芦田宿」リニューアルオープン
4月30日 野方下宮地裏住宅団地竣工
6月16日 「権現の湯」の入館者が350万人を達成
6月20日 オレゴン市・立科町姉妹都市提携40周年記念式典開催
オレゴン市からエリス姉妹都市委員長ほか総勢7名の訪問
団が来町
6月24日 故今井一成氏に天皇陛下より旭日単光章授与される
7月 8日 立科町スポーツ少年団男子バレーボール部
北信越大会出場
7月15日 「佐久市・北佐久郡環境施設組合設立に関する協定書」調印
8月 1日 蓼科ケーブルビジョン、地域情報チャンネル
(第2コミュニティチャンネル)放送開始
8月10日 長野県知事選挙及び長野県議会議員補欠選挙執行
長野県知事に阿部守一氏再選
8月15日 オレゴン市より姉妹都市親善大使兼英語指導助手(AET)に

ホランド・トレバー・ジェンセン氏就任

8月18日 オレゴン市・立科町姉妹都市提携40周年記念事業として、
森澤光則副町長・浦野健司姉妹都市委員長ほか総勢6名
オレゴン市を表敬訪問
9月 5日 長野県LP協会佐久支部青年部会から炊き出し用器具を寄贈
10月 1日 立科町・佐久市・軽井沢町・御代田町の4市町で構成される
佐久市・北佐久郡環境施設組合が設立し記念式典開催
11月21日 立科町索道事業(スキー場等)あり方研究会議
(会長：三田育雄氏)答申
12月14日 衆議院議員総選挙執行

2015【平成27年】

2月24日 立科しあわせプラン~第5次立科町振興計画~策定
3月 6日 立科町の面積改定66.87km²
(国土地理院発表：平成26年10月1日時点)
3月26日 東京都清瀬市と友好交流都市協定締結
3月29日 東京都豊島区との交流記念 ソメイヨシノ植樹式(交流促進センター)
4月12日 長野県議会議員一般選挙執行
立科町から今井正子氏(4期)が当選
4月26日 町長・町議会議員(定数12)一般選挙執行
町長に米村匡人氏が初当選
5月 7日 町議会議員に土屋春江氏、副議長に田中三江氏選出
(女性議長は立科町初、県内市町村議会でも女性正副議長
が同時選出は初)
5月16日 副町長に山浦智城氏選任
7月 1日 教育長に宮坂晃氏就任
8月15日 オレゴン市姉妹都市親善大使兼英語指導助手(AET)に
ジェフリー・ウィリアム・クルーガー氏就任
9月13日 第1回女神湖カヌー駅伝開催
10月 1日 国勢調査実施、人口7,265人 2,682戸
11月16日 合併60周年記念式典開催
11月24日 まち・ひと・しごと創生
立科町人口ビジョンおよび立科町総合戦略策定
11月27日 たてしな保育園幼年消防隊結成
12月14日 移住体験住宅竣工

立科町のあゆみ

2016【平成28年】

- 1月 1日 永井宗夫氏に天皇陛下より瑞宝双光章が授与される
- 1月27日 立科小学校子ども議会(立科町初)議場で
小学生6年生12人が質問
- 2月 1日 田中賢一氏に天皇陛下より旭日単光章が授与される
- 2月 8日 千曲川ワインバレー特区連絡協議会設立
- 3月19~26日 立科中学校1年生4名、2年生4名がオレゴン市を訪問
- 5月28日 公民館図書室開室30周年記念セレモニー
- 6月13日 宮下典幸氏に長野県知事表彰が授与される
- 9月4 日 立科町総合防災訓練開催
- 10月15日 立科小学校開校40周年記念式典開催
- 10月24日~11月1日 町議会主催「町の未来を語る会」を町内16会場で開催

2017【平成29年】

- 1月 7日 「権現の湯」の入館者が400万人を達成
- 1月10日 マイナンバーカードを使った証明書のコンビニ交付開始
- 2月 1日 ~信州カラマツの故郷~佐久森林認証協議会設立
- 2月 5日 神奈川県愛川町との友好都市提携30周年
- 2月12日 第1回立科町ふらばーるバレー大会開催
- 4月26日 町議会議長に西藤努氏、副議長に田中三江氏選出
- 4月28日 ふるさと交流館「芦田宿」リニューアルオープン
- 6月1~2日 JFAこころのプロジェクト「夢の教室」を
立科中学校と立科小学校で初開催
- 6月26日 道の駅の名称が「女神の里たてしな」に決定
- 7月16日 立科中学校男子バレーボール部が長野県中学校総合体育
大会で準優勝し北信越大会出場
- 7月20日 農業委員改選 会長に宮下芳昭氏選出
- 7月21日 立科中学校寺島大治君が北信越国体ボウリング競技
少年の部の長野県代表選手として出場
- 8月19日 立科小学校合唱部が長野県学校合唱大会で金賞受賞
- 10月22日 衆議院総選挙執行
- 10月26日 立科町移住・定住アンバサダーとして14名を認定
- 11月17日 県内45番目の道の駅として「女神の里たてしな」が登録
- 11月19日 故鈴木一考氏(芦田出身)より6千万円寄附される
- 12月 3日 立科小学校が「第17回ふるさとCM大賞NAGANO」で
感動賞を受賞
- 12月 5日 ウガンダ共和国から、ロンドンオリンピック男子マラソン
金メダリストのステイブンキプロティッチ選手が来町

2018【平成30年】

- 2月14日 立科町・日本郵便株式会社立科郵便局
地域における協力に関する協定を締結
- 2月28日 東京オリンピックに出場するウガンダ共和国の陸上競技
中長距離種目のホストタウンに登録
- 7月 1日 北佐久消防協会消防ポンプ操法・消防ラッパ吹奏大会で、
小型ポンプ操法とラッパ吹奏で準優勝
白樺湖を1周するランニングコース「白樺ぐるりん」オープン
- 7月 3日 一般社団法人信州たてしな観光協会設立、会員数115
- 7月 4日 ホストタウン事業の推進や国際交流の推進を目的とした
立科町国際交流推進協議会発足
- 7月10日 「女神のテラス1830」オープン
- 7月28日 第29回町民まつり「立科えんでこ」、台風12号の接近に伴い初の中止
- 8月 5日 長野県知事選挙執行、阿部守一氏が再選
- 8月11~18日 立科中学校2年生2名、3年生6名がオレゴン市を訪問
- 8月15日 オレゴン市姉妹都市親善大使兼外国語指導助手(ALT)に
ガラ・リカルド氏就任
- 8月20~21日 ホストタウン事業、駐日ウガンダ共和国特命全権大使が
立科町を訪問
- 9月 9日 2018町民大運動会開催
(前回は雨天中止のため8年ぶりの開催)、優勝町分館
- 9月21日 故小淵袈裟平氏に天皇陛下より旭日単光章が授与される
- 9月22日 立科中学校60周年記念式典開催
- 9月27~10月6日 ホストタウン事業
米村町長ほか総勢6名がウガンダ共和国を訪問
- 12月 2日 立科中学校が「第18回ふるさとCM大賞NAGANO」で
食育賞を受賞
- 12月12~13日 ウガンダ共和国から事前合宿受け入れ地視察に2名来町
- 12月26日 立科小学校6年2組が「第6回全国小中学校リズムダンス
ふれあいコンクール」で小学校規定曲部門第4位

2019【平成31年・令和元年】

- 1月18日 蓼科高校が「キャリア教育優良学校」として
文部科学大臣表彰を受賞
- 2月14日 立科町・生活協同組合コープながの
高齢者等地域見守り活動に関する協定を締結
- 3月 1日 立科温泉「権現の湯」 リニューアルオープン
- 4月 1日 新元号が「令和」に決定
- 4月 5日 川西清掃センター可燃ごみ焼却施設閉炉式

立科町のあゆみ

- 4月 7日 長野県議会議員一般選挙執行
4月21日 町長・町議会議員(定数12)一般選挙執行
町長に両角正芳氏が初当選
5月 1日 元号が「平成」から「令和」に改元
5月 9日 阿部知事と(一社)信州たてしな観光協会による
県政ランチミーティング開催
5月10日 町議会議長に森本信明氏、副議長に榎本真弓氏選出
5月16日 副町長に小平春幸氏選任
5月20日 在ウガンダ共和国日本大使館亀田和明特命全権大使が来町
6月12~17日 ウガンダ共和国から長距離種目の強化指定選手2名が来町
6月15日 蓼科第二牧場内に「蓼科クロスカントリーコース」を新設
7月 7日 北佐久消防協会消防ポンプ操法・消防ラッパ吹奏大会で、
ポンプ車操法とラッパ吹奏で準優勝
7月21日 参議院議員通常選挙執行
7月28日 故箕輪修二氏に天皇陛下より旭日単光章が授与される
8月2~4日 オレゴン市・立科町姉妹都市提携45周年記念。
オレゴン市からバス姉妹都市委員長ほか総勢4名の
訪問団が来町
9月 4日 立科小学校が「令和元年度長野県学校給食優良学校」
として表彰される
9月21日 国道254号宇山バイパス開通
10月 1日 教育長に塩澤勝巳氏就任
消費税・地方消費税が10%に引き上げ
立科町プレミアム付き商品券(低所得者・子育て世帯向け)
を販売
10月12日 令和元年東日本台風(台風19号)が長野県に最接近、
芦田で日降水量264m(観測史上最高)を記録

2020【令和2年】

- 2月10日 「権現の湯」の入館者が450万人を達成
2月26日 立科町新型コロナウイルス感染症対策本部を任意設置
3月 4日 立科しあわせプラン〜第5次立科町基本計画〜後期基本計画策定
4月 7日 緊急事態宣言が発令される
立科町新型コロナウイルス感染症対策本部を法定設置
5月26日 緊急事態宣言が解除される
立科町新型コロナウイルス感染症対策本部を任意設置
7月20日 農業委員改選 会長に今井巻男氏選出
7月28日 立科町索道事業の指定管理者を榎山スノーテック株式
会社に決定
9月 6日 立科町総合防災訓練、新型コロナウイルス感染症の

影響により規模を縮小して開催

- 10月 1日 国勢調査実施、人口6,617人 2,605戸
10月 7日 故伊藤馨氏に天皇陛下より旭日単光章授与される
11月13日 合併65周年記念式典開催

2021【令和3年】

- 1月 4日 町税等のキャッシュレス決済を開始
1月19日 町かどオフィスオープン
2月16日 立科郵便局との包括連携協定締結
3月10日 佐久市と新型コロナワクチン接種の共同実施協定締結
3月24日 エフエムとうみとの災害時における緊急放送に関する協定を締結
3月25日 エフエム佐久平との災害時における緊急放送に関する協定を締結
3月31日 水道中央監視システムをクラウド監視通報装置へ更新
4月20日 町議会議長に田中三江氏、副議長に今井英昭氏選出
4月25日 衆議院長野県選出議員補欠選挙執行
7月15~27日 ウガンダ共和国オリンピック選手団事前合宿
7月16日 故斉藤利夫氏に天皇陛下より旭日単光章授与される
7月23~8月8日 2020年東京オリンピック開催
9月27日 携帯電話回線を利用した水道自動検針システム導入開始

2022【令和4年】

- 2月 5日 愛川町と友好都市連携35周年
3月31日 立科町国土強靱化地域計画策定
4月 1日 過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に
基づく過疎地域に指定される
「たてしな定額タクシーチケット」運用開始
立科町デジタル推進専門官を委嘱
(~令和5年(2023)3月31日まで)
5月27日 社会福祉型テレワーク推進事業が
「総務省信越総合通信局長表彰」受賞
6月11日 長野県植樹祭が立科町(南平地籍)で開催
6月28日 故官下正一氏に天皇陛下より旭日単光章授与される
7月10日 参議院議員通常選挙執行
8月 7日 長野県知事選挙執行
8月29日 役場に電気自動車を導入
10月 1日 オレゴン市姉妹都市親善大使兼立科中学校ALTに
ジュリー・オールデン氏が就任

立科町のあゆみ

11月 1日 町内小中学校の給食費および保育園の3歳児以上の副食費を無償化

2023【令和5年】

1月20日 西塩沢三葉団地竣工
3月25日 上青木教員住宅を改修した立科町移住促進住宅が竣工
4月 1日 立科町情報配信システム「たてしなび」運用開始
4月 9日 長野県議会議員一般選挙執行
4月23日 町長・町議会議員(定数12)一般選挙執行
町長に両角正芳氏が再選
5月 8日 町議会議長に今井清氏、副議長に今井英昭氏選出
新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行
5月16日 副町長に小平春幸氏再任
6月15日 長岡義明氏に長野県知事表彰授与される
7月23日 長野県消防ポンプ操法大会の小型ポンプ操法の部に西塩沢分団が初出場する
8月 5日 4年ぶりとなる第31回町民まつり「立科えんでこ」開催
9月30日 阿部守一 長野県知事との対話集会が開催される
10月 8日 第1回白樺高原歩け歩け大会開催
11月17日 「権現の湯」来館者500万人達成
12月14日 転入・転出などの申請書や住民票の発行の記入項目を減らし、記入する手間を省く「書かせない窓口」運用開始

2024【令和6年】

1月 1日 能登半島地震発生、M7.6、最大震度7、立科町震度4
3月 1日 オレゴン市姉妹都市親善大使兼立科中学校ALTにカレブ・スタップズ氏が就任
3月28日 埼玉県川口市と「森林の里親(かわぐち・たてしなの森)協定」を締結
3月31日 立科町有線放送事業終了
4月 1日 LakeOffice女神湖オープン
こども家庭センター設置
6月12日 竹花信明氏に長野県知事表彰授与される
6月14日 教育長に塩澤勝巳氏が再任
7月 7日 長野県消防ポンプ操法大会にポンプ車操法の部で町分団、小型ポンプ操法の部で西塩沢分団が出場し、西塩沢分団は

準優勝と健闘する

9月30日 都市農村交流施設(蓼科農ん喜村)改修工事竣工
10月12~18日 オレゴン市・立科町姉妹都市提携50周年記念事業として、両角正芳町長・今井清議長・立科中学校生徒5名ほか総勢10名がオレゴン市を表敬訪問し記念式典に参加
10月27日 衆議院議員総選挙執行
11月 3日 寺島義幸氏に天皇陛下より旭日小綬章授与される
11月22日 立科町介護予防ドクター事業の産官学共同事業調印式

2025【令和7年】

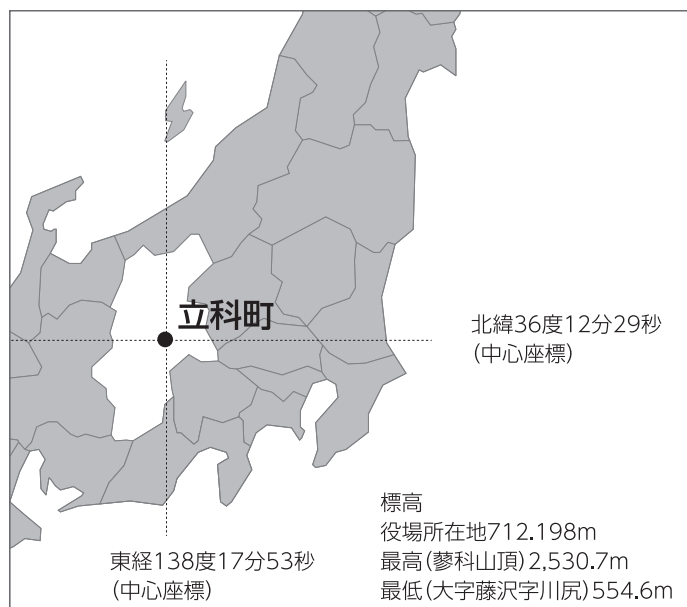
3月31日 第6次立科町総合計画策定
令和6年度ふるさと納税の受け入れ額が1億7,000万円になる
4月 1日 一般社団法人立科町振興公社設立
4月23日 町議会議長に今井英昭氏、副議長に村松浩喜氏選出
6月10日 滝澤壽美雄氏、浦野喜芳氏に長野県知事表彰授与される
6月30日 小池守一氏に天皇陛下より旭日単光章授与される
7月20日 参議院議員通常選挙執行
10月19日 合併70周年記念式典

立科町の概要

位置

立科町は、長野県の東部、八ヶ岳連峰の北麓に位置し、周囲を上田市、東御市、佐久市、茅野市、長和町に囲まれています。面積は66.87km²。東西に約9.9km、南北に約26.4kmと細長く、中央部はわずか53.3mとくびれのある特徴的な地形をしています。

町域は大きく南北に分かれ、南部は蓼科山麓に広がる高原地帯で、女神湖や白樺湖、蓼科牧場といった観光資源を有する一大リゾートエリア。北部は、役場や商業施設、学校が集積する町民の生活拠点であるとともに、周辺では米やりんご、高原野菜、畜産などの農業も盛んに営まれています。



合併の経緯

昭和30年(1955)4月1日

芦田村、横鳥村、三都和村の3つの村が合併し、「立科村」が発足

昭和31年(1956)7月1日

池ノ平地区の境界が変更され、立科村の一部(1.02km²)が隣の茅野市に編入

昭和33年(1958)10月1日

町制施行により、立科村から「立科町」となる

昭和35年(1960)4月15日

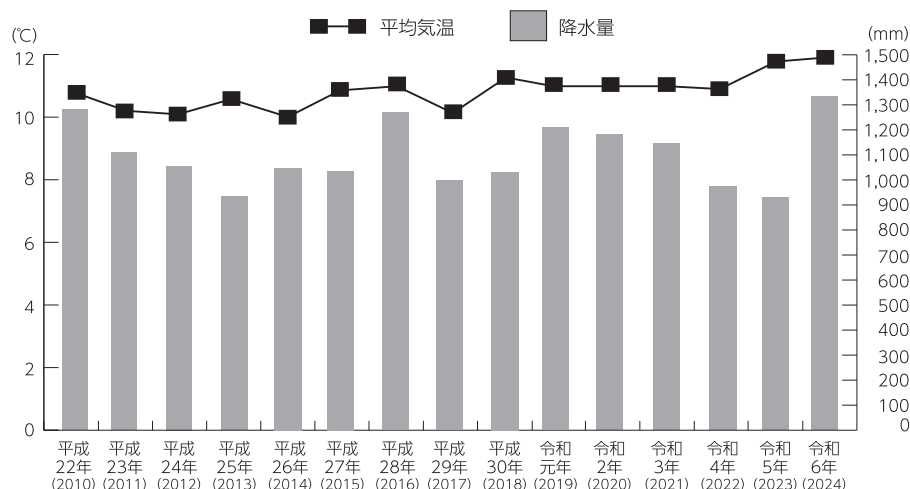
望月町(現在の佐久市)茂田井地区の大部分(3.34km²)が立科町に編入

名称の由来

立科町は、昭和30年(1955)に芦田村、横鳥村、三都和村が合併して誕生しました。町名は、地域を象徴する「蓼科山」にちなんで「蓼科村」とする案が有力でした。しかし、当時の当用漢字に「蓼」の字が含まれていなかったことや、蓼科山がかつて「立科山」とも表記されていたことから、「立科村」という名称が採用されました。その後、町制施行により「立科町」となり、現在に至ります。

気 象

四季折々の変化に富んだ内陸性気候で、昼夜や季節ごとの寒暖差が大きいのが特徴です。夏は涼しく過ごしやすい一方、冬は氷点下冷え込む日も珍しくありませんが、日照時間は国内トップレベルを誇り、年間を通して降水量が少なく湿気も少ないため、比較的可ラッとした気候に恵まれています。

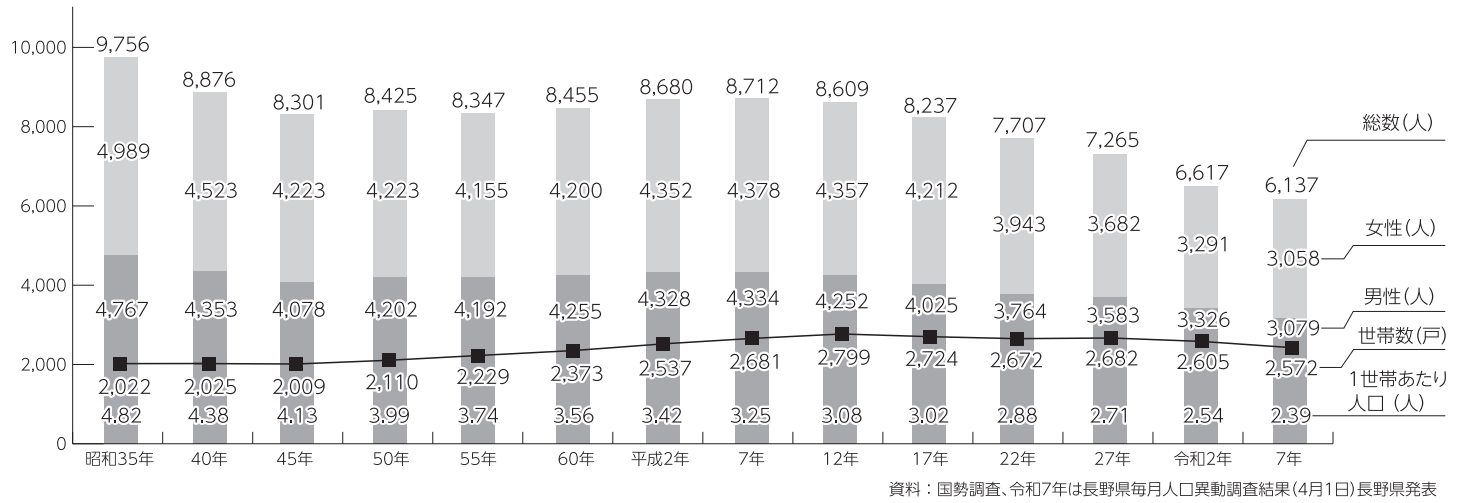


年 度	最高気温	最低気温	日照時間
平成22年	34.6	-14.6	2,077.3
平成23年	34.3	-16.5	2,192.6
平成24年	34.4	-19.5	2,165.7
平成25年	35.5	-16.9	2,366.7
平成26年	34.9	-15.8	2,214.2
平成27年	34.8	-16.5	2,115.2
平成28年	34.1	-18.1	2,126.3
平成29年	33.7	-18.0	2,227.2
平成30年	35.4	-14.6	2,369.6
令和元年	35.6	-14.9	2,146.2
令和2年	34.6	-13.7	2,125.1
令和3年	35.3	-12.6	2,281.3
令和4年	36.0	-14.7	2,234.3
令和5年	35.3	-18.6	2,503.5
令和6年	35.4	-13.4	2,146.9

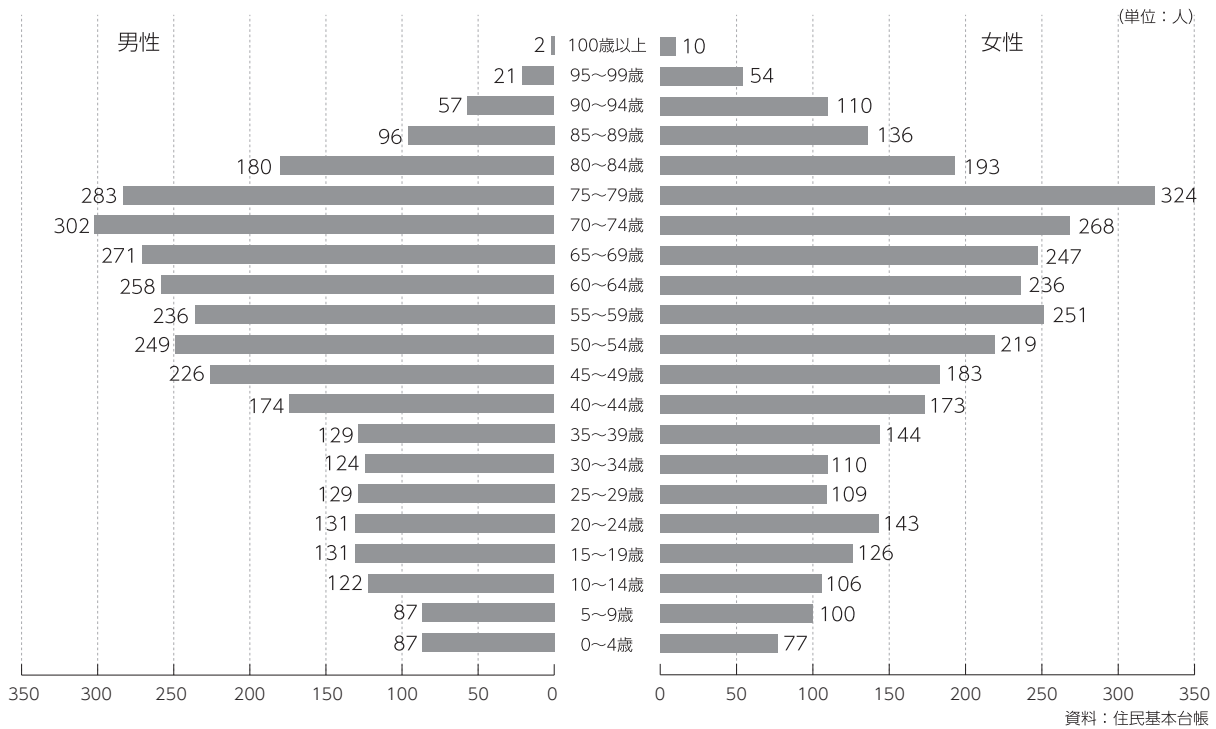
気象庁「過去の気象データ」より
※令和3年3月2日より日照時間のみ観測方法が変わり推計値となります。

人口

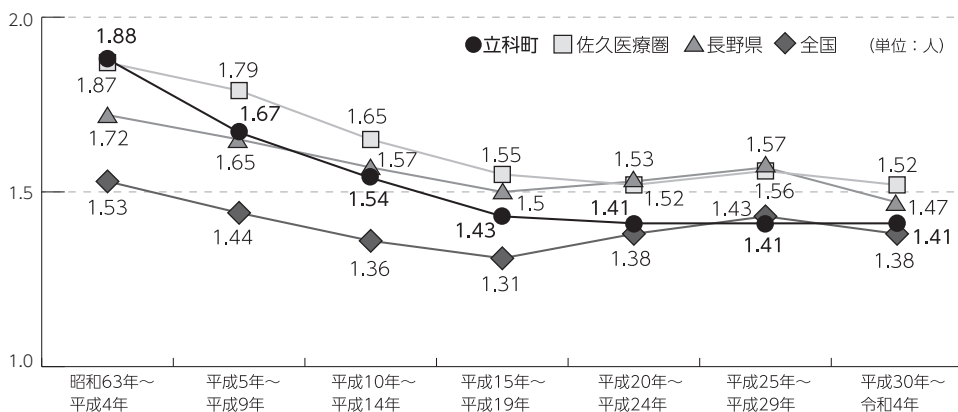
人口及び世帯数



年齢階層別人口 令和7年3月31日現在



合計特殊出生率



年	出生数(単位:人)
昭和55年	88
昭和60年	94
平成2年	68
平成7年	67
平成12年	71
平成17年	57
平成22年	40
平成27年	26
平成28年	42
平成29年	26
平成30年	33
令和元年	27
令和2年	35
令和3年	37
令和4年	32
令和5年	23
令和6年	27

資料：令和5年までは人口動態調査
令和6年は住民基本台帳年報報告数値

国民健康保険給付状況

(単位：千円)

年 度	世帯数	被保険者数	医療給付（一般＋退職）			医療給付（老人）		
			件 数	費用額	給付額	件 数	費用額	給付額
昭和60年	1,333	3,684	20,237	293,678	208,040	6,492	152,604	14,948
平成2年	1,335	3,334	20,156	328,814	233,406	9,925	334,326	323,090
平成7年	1,302	3,025	18,284	371,293	268,594	12,519	402,837	381,382
平成12年	1,477	3,201	21,123	416,473	296,021	20,258	626,057	576,456
平成17年	1,657	3,454	30,631	524,525	387,457	25,895	639,692	570,869
平成22年	1,273	2,361	32,477	610,887	446,800	-	-	-
平成27年	1,227	2,177	34,220	766,114	557,958	-	-	-
令和元年	1,138	1,885	31,547	649,351	475,098	-	-	-
令和6年	1,006	1,578	27,095	598,879	442,766	-	-	-

年 度	高額療養費		助産費		葬祭費		育児手当	
	件 数	給付額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
昭和60年	312	22,508	24	2,430	38	494	22	65
平成2年	645	26,631	18	2,430	41	595	6	18
平成7年	330	25,905	7	2,100	47	776	-	-
平成12年	362	31,318	14	4,200	48	864	-	-
平成17年	475	31,875	8	2,400	68	1,292	-	-
平成22年	1,252	41,816	5	2,100	16	360	-	-
平成27年	1,283	80,202	2	840	11	255	-	-
令和元年	1,318	65,650	2	840	13	650	-	-
令和6年	1,190	64,323	4	2,000	14	700	-	-

※平成3年度より助産費と育児手当が
一緒になり出産育児一時金となる。
※平成20年度より後期高齢者医療制度へ移行
※令和5年度で退職者医療制度は廃止

国民健康保険一人当り医療給付費

(単位：円)

年 度	一般＋退職	老 人
昭和50年	59,136	157,690
昭和60年	94,826	259,974
平成2年	125,645	466,284
平成7年	167,324	499,798

年 度	一般＋退職	老 人
平成12年	194,160	592,857
平成17年	218,643	606,324
平成22年	258,740	-
平成27年	351,913	-

年 度	一般＋退職	老 人
令和元年	344,483	-
令和6年	379,518	-

※平成20年度より後期高齢者医療制度へ移行

各種検診受診状況

(単位：人)

年 度	検 診 名						
	平成20年まで 結核(肺がん) 18歳以上(平成17年 から40歳以上)	平成21年から 肺がんCT 40歳以上	結核 65歳以上 ※平成19年まで 結核肺がん検診	胃がん 50歳以上偶数年齢 ※令和元年まで 30歳まで	大腸がん 40歳以上 ※平成23年まで 30歳以上	前立腺がん 50歳以上	成人病 30歳以上
昭和60年	2,514			758			1,134
平成2年	2,708			722	573		1,414
平成7年	2,708			653	724		1,376
平成12年	2,417			458	559		1,243
平成17年	1,678			296	473		936
平成22年		343	828	279	535	169	
平成27年		381	744	300	639	162	
令和元年		398	635	88	676	204	
令和6年		351	540	41	600	221	

年 度	検 診 名						
	特定健診			子宮がん 20歳以上偶数年齢 (平成16年までは30歳以上)	乳がん検診		
	30～39歳	40～74歳国保	後期高齢者医療		超音波 30～39歳	マンモグラフィ 40歳以上偶数年齢	乳がん 30歳以上
昭和60年				316			283
平成2年				372			381
平成7年				384			360
平成12年				297			311
平成17年				121	9	101	
平成22年	42	477	117	213	55	179	
平成27年	51	545	259	174	35	137	
令和元年	40	547	248	162	56	118	
令和6年	21	427	303	152	40	115	

※平成21年度からは、女性特有のがん検診を含んだ数値

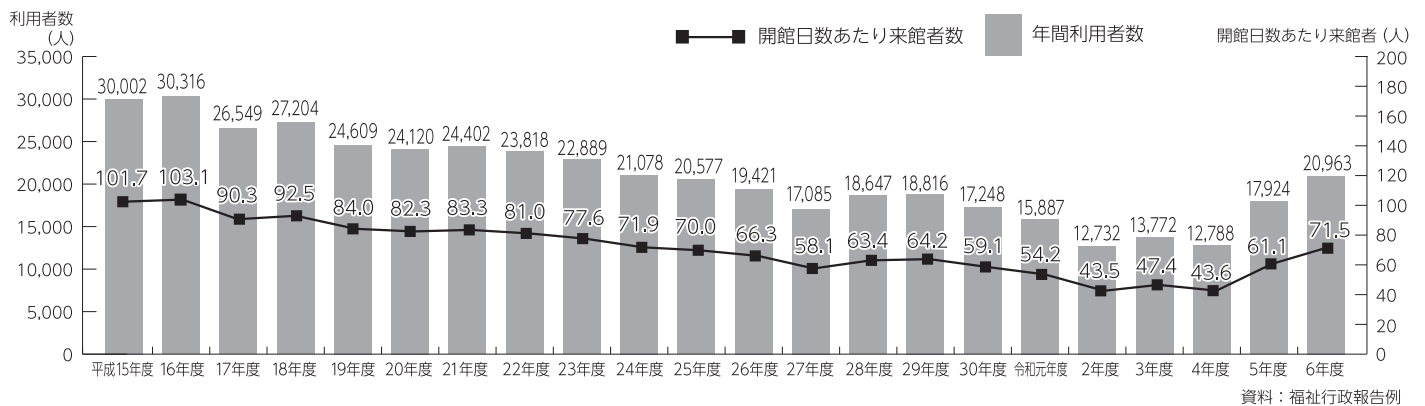
保育所入所者数

(単位：人)

年 度	千草保育園		若草保育園		三葉保育園		茂田井保育園	
	定員	入所者数	定員	入所者数	定員	入所者数	定員	入所者数
昭和60年	120	107	90	90	80	65	40	33
平成2年	115	100	90	84	80	76	40	24
平成7年	115	92	110	78	60	50	40	26
平成12年	115	96	60	61	45	35	40	33
平成17年	115	72	80	62	45	50	40	18
平成22年	95	67	55	45	55	43		
	たてしな保育園							
	定員				入所者数			
平成25年	200				162			
平成27年	200				163			
令和2年	200				161			
令和7年	200				144			

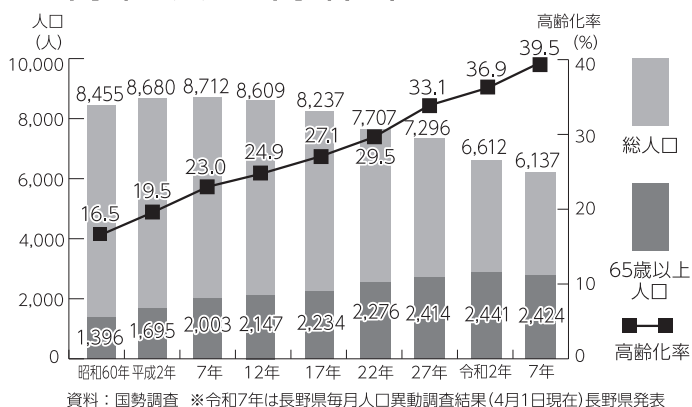
資料：福祉行政報告例
※茂田井保育園は、平成18年3月に閉園

児童館利用状況



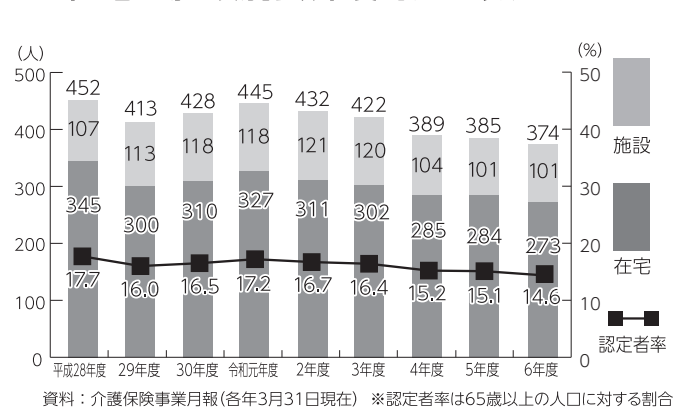
高齢者人口と高齢化率

令和7年4月1日現在

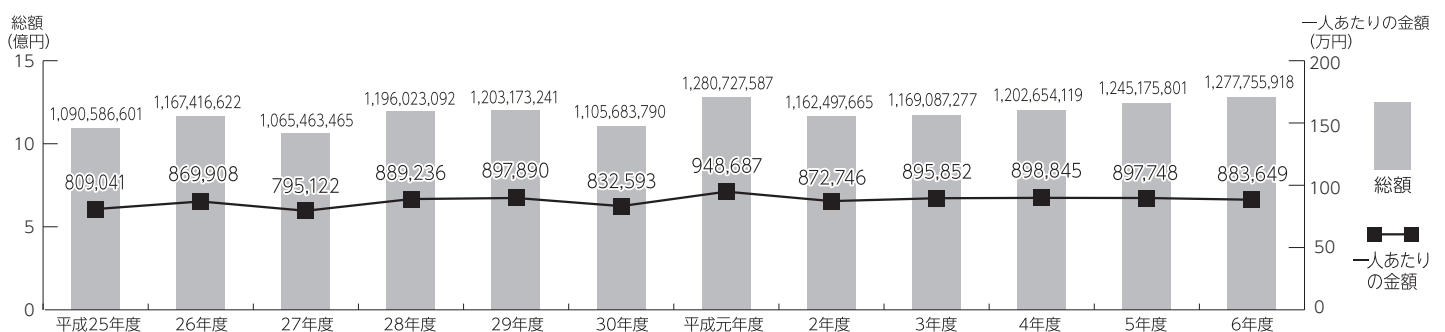


在宅・施設別要介護認定者数

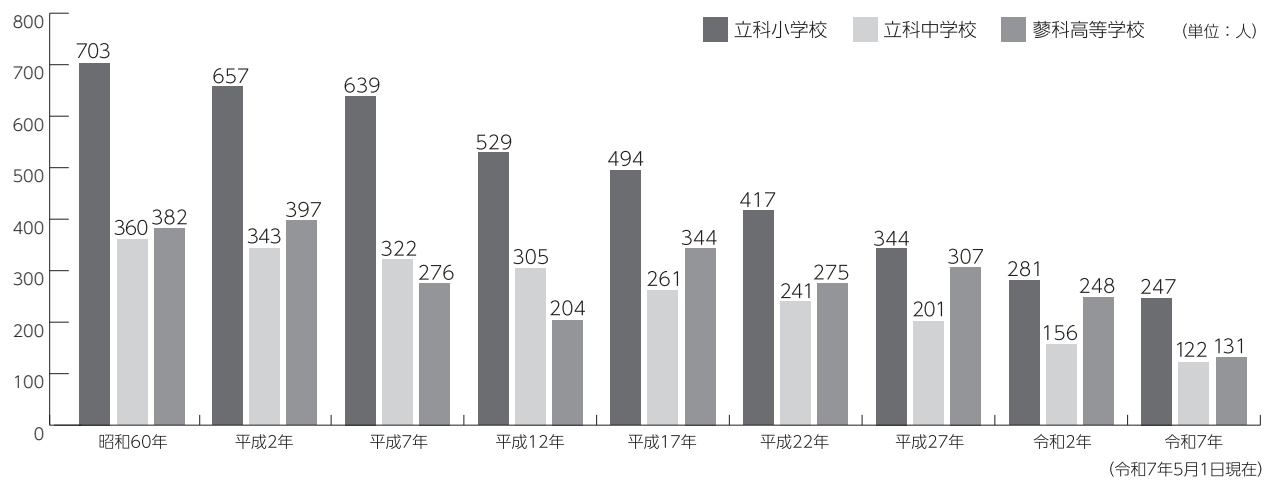
3月31日現在



後期高齢者医療制度(75歳以上) 総医療費の推移



児童・生徒数



文化財

指 定	種 別	名 称	所在地	指定年月日
長野県	天然記念物	笠取峠のマツ並木	町	昭和49年1月17日
	県宝	津金寺宝塔	上房	昭和49年3月22日
	県宝	旧芦田宿本陣土屋家住宅	町	昭和63年8月18日
立科町	天然記念物	ヒメツルコケモモ	蓼科	昭和41年7月15日
	天然記念物	神代杉	古町	昭和42年6月17日
	史跡	与惣塚	蓼科	昭和42年6月17日
	史跡	芦田城跡	古町	昭和42年6月17日
	史跡	一里塚	町	昭和42年6月17日
	史跡	鳴石	蓼科	昭和42年6月17日
	天然記念物	ミヤマシロチョウ	蓼科	昭和53年5月10日
	史跡	宇山堰石樋	蓼科	昭和58年6月1日
	民俗資料	古町区蓼科神社秋祭用奉納屋台及び雅楽一式	古町	平成2年12月10日
	有形文化財	津金寺妙見堂	上房	平成4年6月11日
	有形文化財	津金寺観音堂	上房	平成4年6月11日
	天然記念物	天狗松	中尾	平成5年12月8日

公民館図書室利用状況

(単位：人)

項目	年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
開室日数		350	354	337	355	355	303	308	323	340	339
来室数(人)	児 童	2,593	2,675	1,905	2,429	1,819	1,172	1,155	1,267	1,430	1,142
	一 般	3,805	3,519	3,211	3,342	3,313	2,342	2,572	2,540	2,470	2,487
	計	6,398	6,194	5,116	5,771	5,132	3,514	3,727	3,807	3,900	3,629
	一日平均来室者数	18	17	15	16	14	12	12	12	11	11
貸出数(冊)	児 童	5,431	4,415	3,967	4,199	2,969	2,374	2,620	2,688	2,848	2,561
	一 般	4,742	4,849	4,587	4,224	4,496	3,830	3,646	3,486	3,841	3,923
	計	10,173	9,264	8,554	8,423	7,465	6,204	6,266	6,174	6,689	6,484
	一日平均貸出数	29	26	25	24	21	20	20	19	20	20

※令和2年度49日間臨時休館(コロナ感染拡大予防)
 ※令和3年度39日間臨時休館(コロナ感染拡大予防)
 ※令和4年度24日間休館(図書システム入れ替え作業)

国・県道の概況

令和6年4月1日現在

道路区分		路線名	実延長(m)	改良済み延長(m)	改良率(%)	歩道延長(m)
国 道	一 般 国 道	142号	4,940.8	4,940.8	100.0	3,859.3
		254号	1,422.5	1,322.1	92.9	367.0
	小 計		6,363.3	6,262.9	98.4	4,226.3
県 道	主要地方道	諏訪白樺湖小諸線	31,919.7	31,274.8	98.0	14,624.1
	一 般 県 道	芦田大屋(停)線	6,745.8	6,233.1	92.4	4,330.4
		牛鹿望月線	4,689.2	2,780.7	59.3	1,585.6
		雨境望月線	132.5	126.8	95.7	0.0
		立科小諸線	2,227.7	1,739.8	78.1	0.0
		丸子北御牧東部線	1,355.3	1,061.2	78.3	0.0
		茅野(停)八子ヶ峰公園線	4,218.4	4,218.4	100.0	0.0
	小 計		51,288.6	47,434.8	92.5	20,540.1
合 計			57,651.9	53,697.7	93.1	24,766.4

資料：道路現況(長野県建設部)

町道の級別概況

令和7年3月31日現在

種 別	路線数	実延長(m)	改良済延長(m)	改良率(%)	舗装済延長(m)	舗装率(%)	歩道延長(m)
1 級	67	77,176.7	65,595.5	85.0	77,016.1	99.8	12,073
2 級	66	39,808.5	12,377.8	31.1	37,114.7	93.2	799.2
3 級	108	66,025.2	23,622.8	35.8	56,681.1	85.8	186.5
級外	393	138,755.2	19,412.8	14.0	93,149.7	67.1	327.2
計	634	321,765.6	121,008.8	37.6	263,961.6	82.0	13,385.9

橋梁の概況

国道・県道は令和6年3月31日現在、町道は令和7年3月31日現在

種 類	国 道			県 道			町 道		
	数	延長(m)	面積(m ²)	数	延長(m)	面積(m ²)	数	延長(m)	面積(m ²)
永久橋	2	38.2	496.6	14	92.0	926.3	66	509.6	2222.1

河川の現況

令和7年3月31日現在

種 類	数	延長(m)	河 川 名
一級河川	3	30,568	芦田川、番屋川、赤沢川
砂防指定河川	2	5,500	小桶沢川、西の沢川
準用河川	5	7,967	蟹原川、牛鹿川、植木沢川、赤沢川上流部分、小桶沢川
普通河川	20	14,715	宮沢川ほか

水道の現況

令和7年3月31日現在

種 別	上水道	姥・中尾・美上下簡易水道	夢の平簡易水道	白樺簡易水道	計
計画給水人口(人)	11,900	105	500	300	12,805
給水世帯数(戸)	2,573	23	174	116	2,886
現在給水人口(人)	6,126	52	278	154	6,610
配水池有効容量(m ³)	3,782	230	5,450	1,763	11,929
年間給水量(m ³)	936,539	31,967	555,733	74,200	1,598,439
年間有収水量(m ³)	670,992	8,946	159,760	59,044	898,742
日最大計画給水量(m ³ /日)	5,785	227	4,600	1,400	12,012

下水道等整備状況

令和7年4月1日現在

人 口	下水道処理人口 6,614人			
整 備 状 況	整備率 98.5% (6,514人)			
事 業 別	特定環境保全公共下水道	農業集落排水事業	コミュニティ・プラント	その他(合併浄化槽含)
人口(人)※外国人を含む	3,092	2,867	185	370
比率(%)	47.5	44.0	2.8	5.7

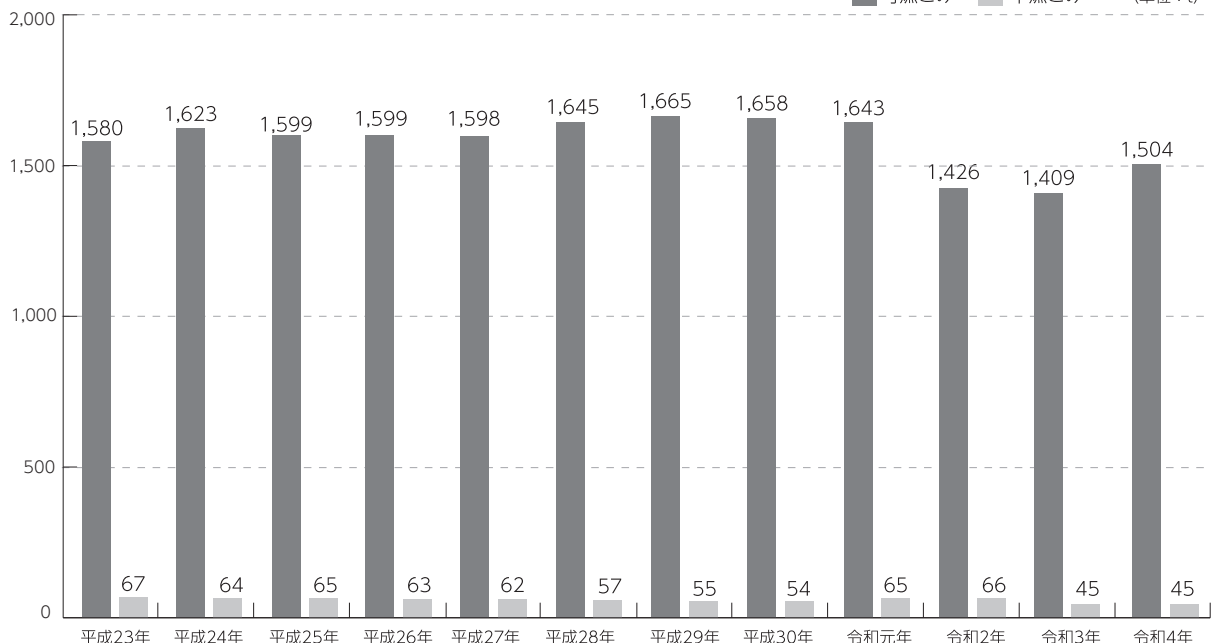
汚水人口普及率の推移

(単位：%)

平成 7 年度	27.0	平成 27 年度	98.3
平成 12 年度	91.8	令和 2 年度	98.6
平成 17 年度	96.3	令和 6 年度	98.6
平成 22 年度	97.7		

可燃ごみ・不燃ごみ搬入量

■ 可燃ごみ ■ 不燃ごみ (単位：t)



資料：一般廃棄物処理実態調査(環境省)

■ 耕地面積

(単位：ヘクタール)

年 度	総 計	田	畑					
			果樹園	桑園	たばこ	飼料畑	普通畑他	計
昭和50年	1,631	860	131	251	36	93	260	771
昭和55年	1,609	858	115	152	48	110	326	751
昭和60年	1,564	841	125	64	31	108	395	723
平成2年	1,504	828	159	17	14	112	374	676
平成7年	1,460	814	158	14	10	64	398	643
平成12年	1,360	771	149	1	5	58	366	585
平成16年	1,360	758	150	-	-	58	365	573
平成21年	1,320	742	-	-	-	-	-	574
平成25年	1,330	753	-	-	-	-	-	599
平成28年	1,310	723	-	-	-	-	-	583
令和5年	1,260	705	-	-	-	-	-	554

※長野県農林業市町村別データの数値を活用 ※平成7年以降は畦畔を含む数値

※長野農林統計協会の解散により平成21年以降は畑の内訳数値なし ※平成21年以降は長野農林水産統計年報の数値を活用

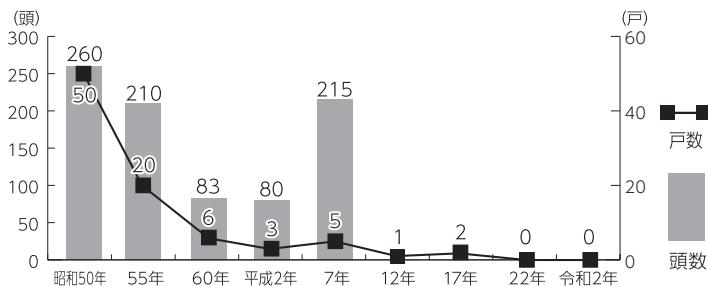
■ 森林面積

地域総面積			6,687.00ha
森林面積	国有林		485.01ha
	民有林	公有林	2,464.49ha
		私有林	908.47ha
	合 計		3,372.96ha
蓄 積	国有林		87,031m ³
	民有林		716,920m ³
	合 計		803,951m ³

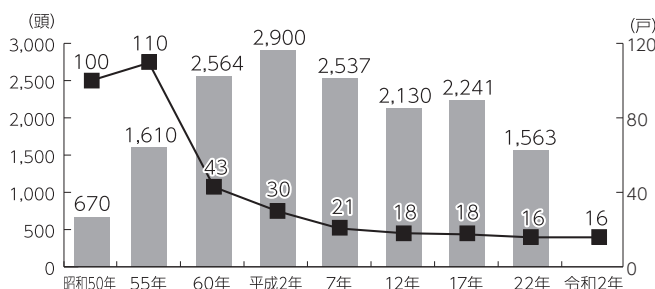
資料：令和6年長野県民有林の現況 市町村別統計(9月1日)

■ 畜産の推移

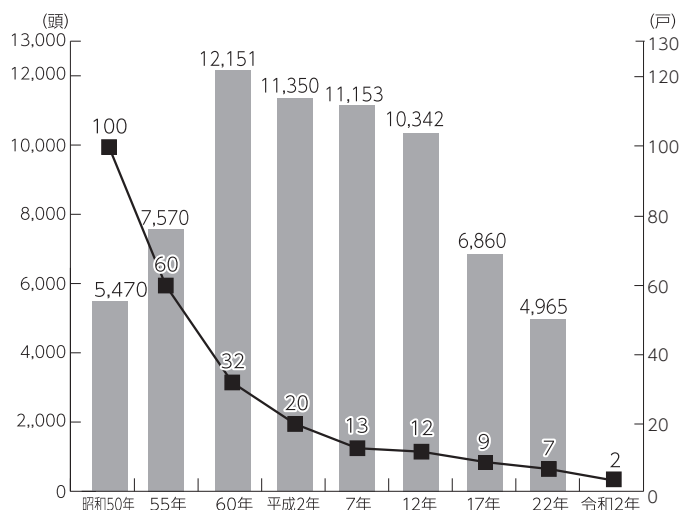
【乳用牛】



【肉用牛】



【豚】



資料：2020年農林業センサス

※頭数が表示されていない年は未公表

産 業

産業大分類別事業所数

(単位：所)

年 度	農林 漁業	鉱 業	建設業	製造業	電気ガス 熱供給・ 水道	運輸 通信業		卸売 小売業 飲食店	金融 保険業	不動 産業	サービス業						他の分類に 属さない もの
昭和53年	6	2	71	57	1	11		143	3	0	104						5
昭和56年	6	2	79	62	1	9		147	4	0	101						5
昭和61年	6	4	77	63	0	3		134	3	1	113						5
平成3年	6	1	65	52	0	6		119	1	6	166						5
平成8年	8	1	69	46	1	11		119	3	7	171						6
平成12年	9	1	83	52	2	13		145	6	7	189						10
						情報 通信	運輸	卸売 小売業			学術研究 専門・技術	飲食店 宿泊業	医療 福祉	教育 学習支援	複合 サービス	サービス 業	
平成18年	10	0	72	50	1	4	7	95	3	8	-	107	16	17	6	63	8
平成21年	14	0	70	48	0	5	6	95	4	9	-	104	12	12	6	42	18
平成24年	11	1	63	47	0	5	7	72	5	6	-	94	13	11	5	36	16
平成28年	11	0	52	44	0	3	8	67	4	5	-	87	16	10	5	21	18
令和3年	12	0	39	34	2	3	9	64	3	4	15	77	25	13	4	22	18

資料：事業所・企業統計調査(昭和50年度～平成18年度)、経済センサス(平成21年度以降)

産業別就業者数(15歳以上)

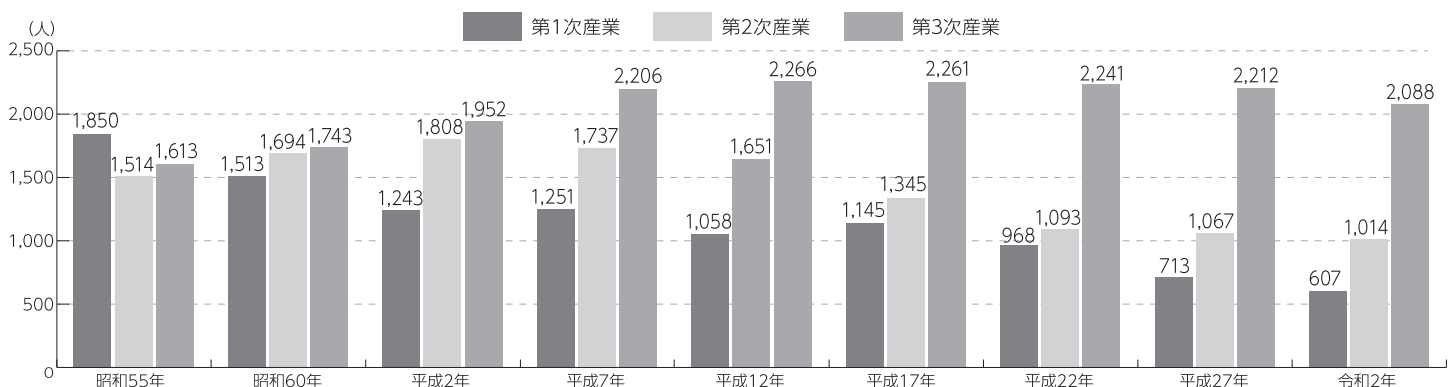
(単位：人)

年 度	第1次産業				第2次産業			
	農業	林業	漁業	計	鉱業	建設業	製造業	計
昭和55年	1,843	4	3	1,850	3	376	1,135	1,514
昭和60年	1,504	9	0	1,513	1	396	1,297	1,694
平成2年	1,226	14	3	1,243	2	464	1,342	1,808
平成7年	1,235	13	3	1,251	3	550	1,184	1,737
平成12年	1,041	16	1	1,058	3	485	1,163	1,651
平成17年	1,130	15	0	1,145	2	307	1,036	1,345
平成22年	953	15	0	968	3	261	829	1,093
平成27年	696	15	2	713	2	259	806	1,067
令和2年	616	5	2	123	0	264	566	830

(単位：人)

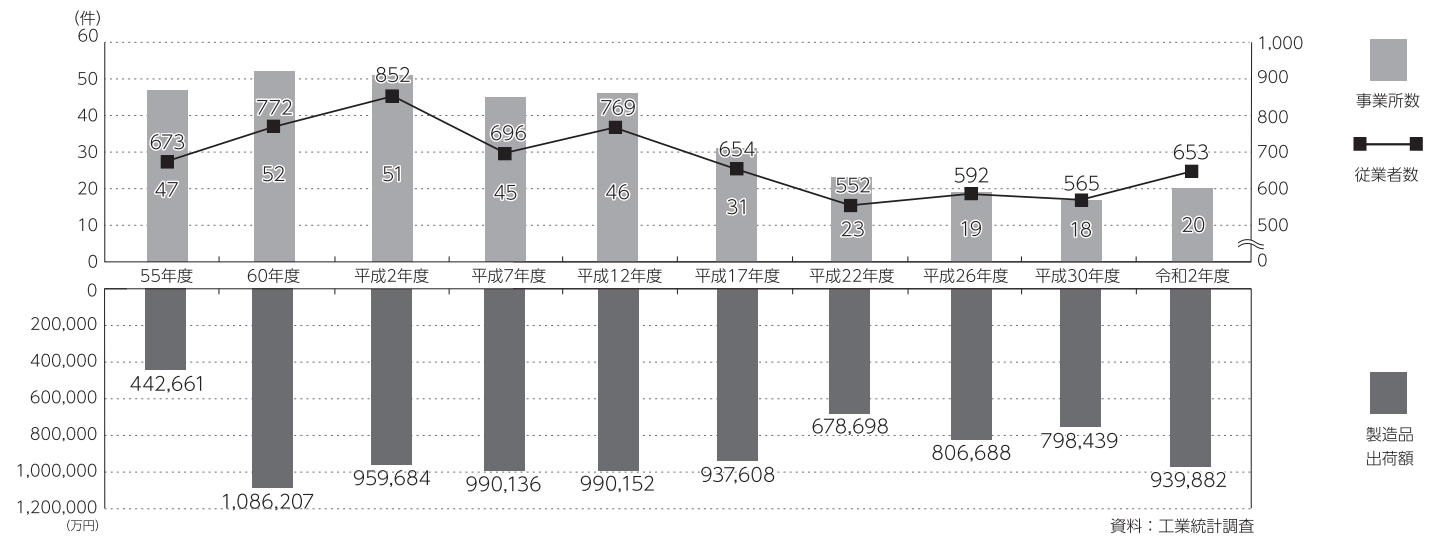
年 度	第3次産業														
	電気ガス 熱供給・水道	運輸・通信業		卸売・小売 業飲食店	金融 保険業	不動産業	サービス業							他の分類に 属さないもの	計
昭和55年	4	124		507	30	11	788							149	1,613
昭和60年	10	134		455	32	17	970							125	1,743
平成2年	10	143		444	33	18	1,179							125	1,952
平成7年	17	157		527	32	37	1,323							113	2,206
平成12年	13	165		589	42	28	1,313							116	2,266
		情報 通信	運輸	卸売 小売業			学術研究 専門・技術	飲食店 宿泊業	生活関連 サービス業 娯楽業	医療 福祉	教育 学習支援	複合 サービス	サービス 業		
平成17年	9	27	114	519	34	15	-	426	-	332	128	99	441	117	2,261
平成22年	5	28	125	490	28	41	-	460	-	373	135	85	205	266	2,241
平成27年	5	30	113	426	28	39	-	463	-	418	122	89	202	277	2,212
令和2年	7	21	92	275	14	24	57	506	91	291	119	69	127	135	1,828

資料：国勢調査



産業

工業の概況



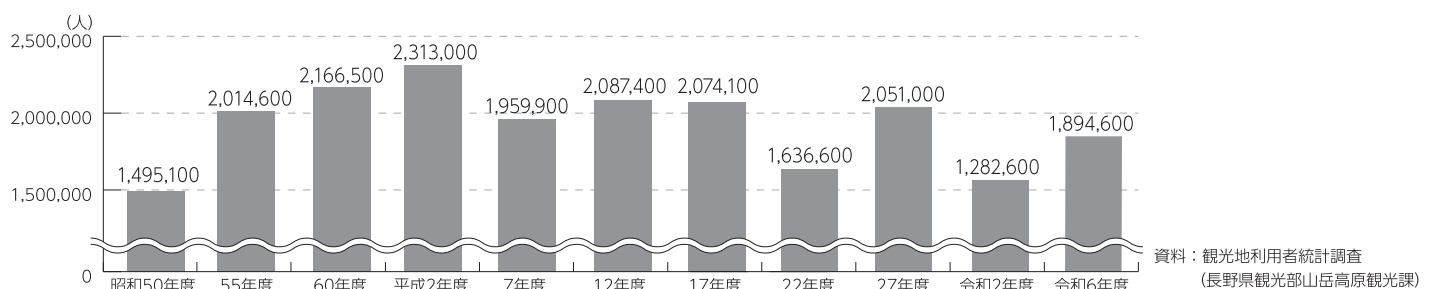
卸売業・小売業 事業所数・従業者数・年間商品販売額

(単位：店・人・万円)

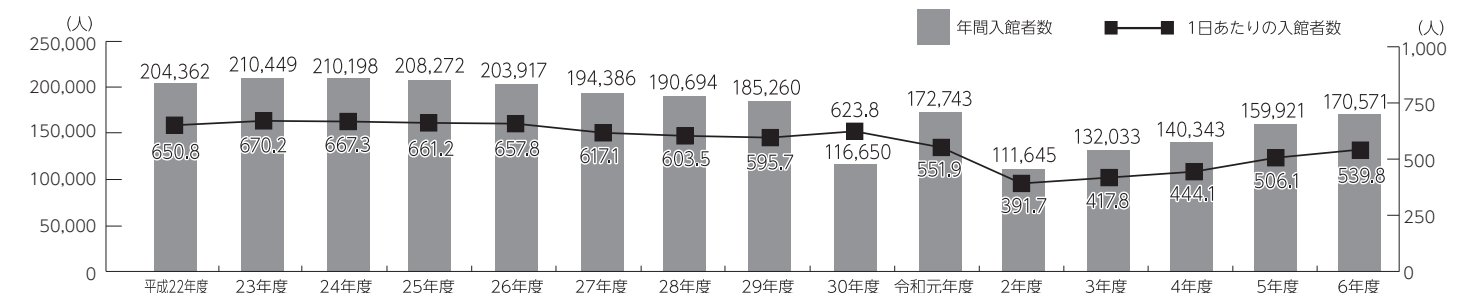
年 度	合 計			卸売業			小売業			飲食業		
	事業所数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	年間商品販売額
昭和63・平成元年	126	325	470,979	3	21	43,820	92	229	391,204	31	75	35,955
平成3・4年	121	352	748,678	3	26	232,880	90	251	465,739	28	75	50,059
平成6年	91	318	889,715	4	27	327,720	87	291	561,995	-	-	-
平成9年	82	280	735,617	3	18	239,449	79	262	496,168	-	-	-
平成11年	91	307	764,008	4	23	226,773	87	284	537,235	-	-	-
平成14年	97	350	773,160	3	18	173,676	94	332	559,484	-	-	-
平成16年	103	386	778,857	7	22	166,415	96	364	612,442	-	-	-
平成19年	92	417	713,885	10	27	119,566	82	390	594,319	-	-	-
平成24年	58	323	858,600	5	28	305,100	53	295	553,500	-	-	-
平成26年	65	317	572,900	9	57	144,100	56	260	695,700	-	-	-
平成28年	59	308	560,100	10	55	142,500	49	253	417,600	-	-	-
令和3年	56	327	564,000	9	48	92,800	47	279	471,200	-	-	-

資料：商業統計調査、経済センサス(令和3年)

観光客数の推移



権現の湯利用者の推移



税収入の移り変わり

(単位：千円)

税目年度	町民税		固定資産税		軽自動車税		たばこ税		その他		合 計		収納率 %
	調定額	収入額	調定額	収入額	調定額	収入額	調定額	収入額	調定額	収入額	調定額	収入額	
平成25年度	348,659	324,499	608,570	450,415	24,994	23,574	45,358	45,358	15,965	15,965	1,043,546	859,811	82.4%
平成26年度	350,013	325,781	622,082	455,148	25,579	24,060	45,436	45,436	28,007	28,007	1,071,117	878,432	82.0%
平成27年度	350,471	327,975	600,951	431,700	26,132	24,735	43,916	43,916	32,304	32,304	1,053,774	860,630	81.7%
平成28年度	383,246	364,153	510,153	433,873	31,596	29,959	43,383	43,383	36,064	36,064	1,004,442	907,432	90.3%
平成29年度	370,963	352,622	518,180	450,140	32,374	30,560	40,169	40,169	36,323	36,323	998,009	909,814	91.2%
平成30年度	364,518	347,003	504,738	433,843	33,164	31,790	39,501	39,501	37,314	37,314	979,235	889,451	90.8%
令和元年度	367,566	348,728	532,721	453,939	34,078	32,501	41,274	41,274	34,779	34,779	1,010,418	911,221	90.2%
令和2年	348,473	329,616	565,501	472,361	34,706	33,132	40,449	40,449	13,602	13,602	1,002,731	889,160	88.7%
令和3年	337,977	320,404	507,943	419,991	35,318	33,769	42,012	42,012	13,947	13,947	937,197	830,123	88.6%
令和4年	341,311	324,289	547,422	457,212	35,549	34,187	45,285	45,285	22,278	22,278	991,845	883,251	89.1%
令和5年	343,100	326,395	497,289	451,437	36,364	34,775	45,564	45,564	32,130	32,130	954,447	890,301	93.3%
令和6年	310,199	293,238	510,009	461,076	36,899	35,161	43,581	43,581	37,984	37,984	938,672	871,040	92.8%

(注) 固定資産税：国有資産等所在市町村交付金を除く／軽自動車税：環境性能割を除く／その他：平成22年度からは入湯税

歳入・歳出の決算状況

一般会計決算の移り変わり【歳入】

(単位：千円)

	昭和50年度	昭和60年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度	令和6年度
町税	165,916	572,386	1,043,979	933,578	865,427	851,437	861,385	891,556	874,921
地方譲与税	12,208	37,092	103,596	71,304	112,786	70,459	62,093	65,037	66,711
利子割交付金			24,069	37,804	4,664	3,351	1,162	649	305
配当割交付金					1,457	846	3,237	2,867	5,493
株式等譲渡所得割交付金					2,405	315	3,314	3,314	7,303
法人事業税交付金								4,994	17,215
地方消費税交付金				80,710	84,414	78,096	148,113	162,747	176,290
ゴルフ場利用税交付金			14,491	16,822	11,060	10,681	9,511	7,201	6,764
環境性能割交付金								4,297	6,812
特別地方消費税交付金			10,980	3,568					
自動車取得税交付金	14,953	27,432	53,520	38,169	34,193	15,560	11,500		
地方特例交付金				29,572	22,958	13,305	2,161	6,107	32,301
地方交付税	405,980	786,113	1,965,175	2,120,218	1,908,927	1,891,451	1,847,944	1,807,546	2,270,790
交通安全対策特別交付金	997	639	1,416	1,504	1,149	927	770	1,083	631
分担金・負担金	26,578	43,533	93,545	73,340	70,923	47,846	42,226	13,061	16,666
使用料・手数料	34,481	98,945	56,305	175,067	154,427	134,277	145,417	106,751	130,002
国庫支出金	122,295	112,177	285,750	94,528	102,729	661,911	305,157	1,291,012	381,305
県支出金	57,395	269,970	479,355	268,798	154,556	206,240	275,764	364,650	268,411
財産収入	341,372	220,513	286,464	206,349	161,313	150,830	164,017	145,166	146,313
寄附金	3,498	4,122	22,165	28,024	22,479	22,850	40,018	82,269	202,858
繰入金		99,000	814,613	155,373	14,851	10,588	20,480	22,866	122,060
繰越金	51,878	81,221	101,955	72,059	136,214	352,052	896,914	670,182	732,094
諸収入	24,365	65,062	92,030	68,312	41,959	129,195	143,909	172,829	186,005
町債	71,300	156,600	748,100	569,300	192,900	286,900	529,600	256,326	608,500
合計	1,333,216	2,574,805	6,197,508	5,044,399	4,101,791	4,939,117	5,514,692	6,082,510	6,259,750

一般会計の移り変わり【歳出】

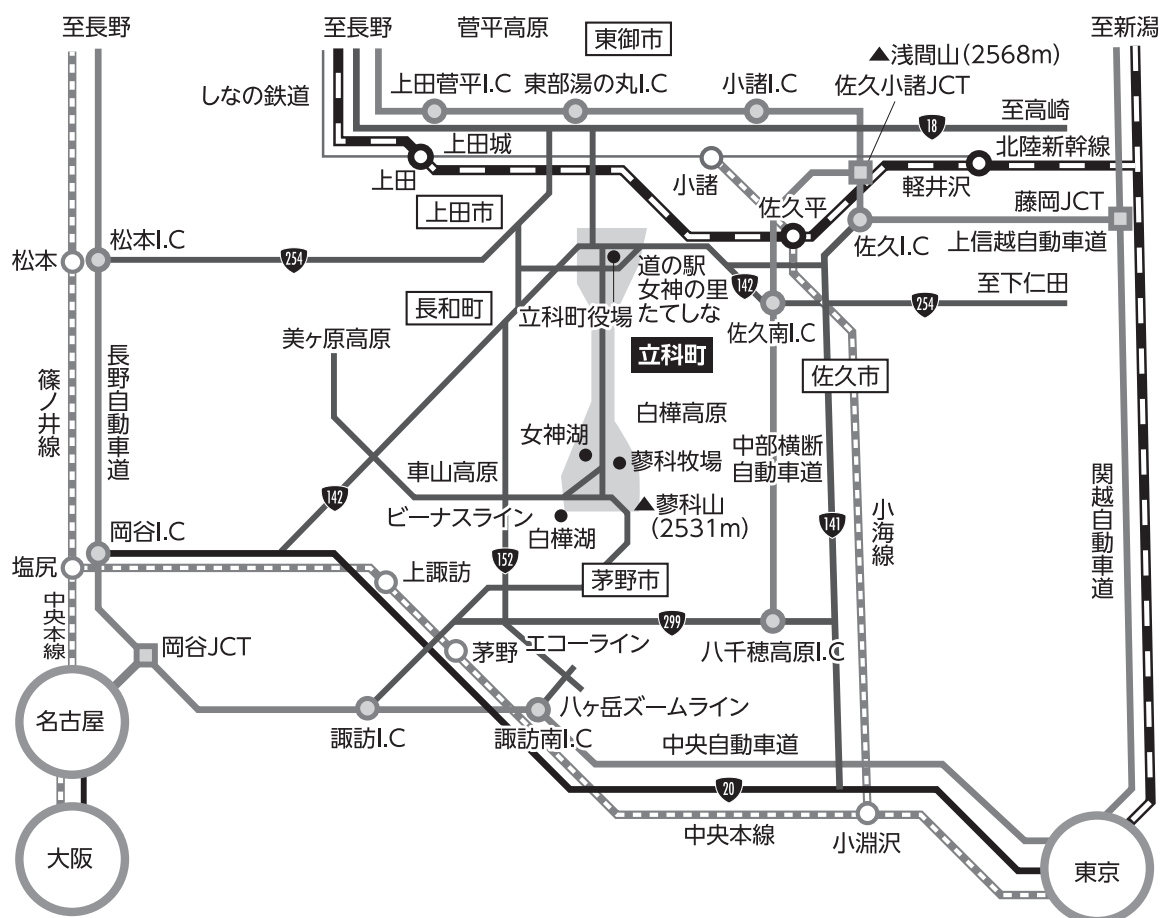
(単位：千円)

	昭和50年度	昭和60年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度	令和6年度
議会費	18,625	44,941	91,051	80,896	75,005	59,284	71,608	68,631	66,861
総務費	253,142	534,694	1,181,897	905,510	684,483	1,347,875	1,111,204	1,727,617	1,421,280
民生費	176,015	277,062	1,032,017	731,472	718,299	803,912	864,564	969,966	1,099,755
衛生費	24,342	102,946	196,353	228,486	297,324	298,466	384,848	319,621	337,096
農林水産業費	117,228	506,462	662,295	370,370	161,379	180,361	218,199	282,022	367,205
商工費	74,828	104,000	433,725	331,608	200,843	188,986	295,905	457,157	437,009
土木費	68,254	249,156	1,378,827	984,691	629,548	649,111	560,109	513,489	915,377
消防費	34,297	100,289	186,653	145,579	141,220	171,938	559,323	163,483	165,957
教育費	440,524	277,277	491,225	454,348	309,406	292,967	418,419	446,822	477,348
災害復旧費	18,923	40,897	8,319	2,819	705	19,897	29,049	253,622	15,662
公債費	38,143	224,538	437,958	757,693	678,889	381,211	326,966	301,426	319,945
諸支出金									
合計	1,264,321	2,462,262	6,100,320	4,993,472	3,897,101	4,394,008	4,840,194	5,503,856	5,623,495

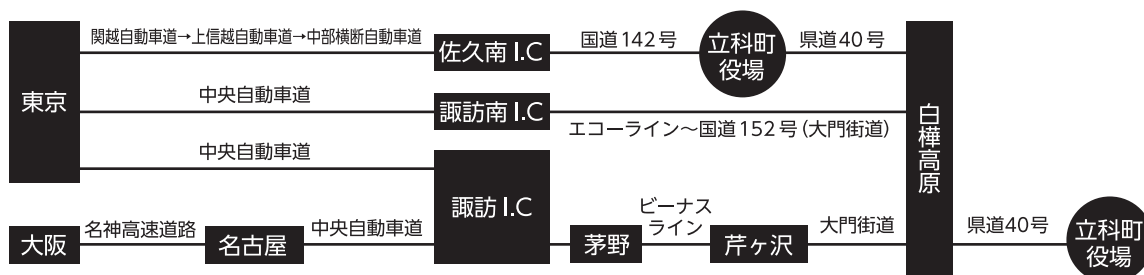
施設一覧

施設名	所在地（立科町）	電話(0267)
立科町役場	芦田2532	56-2311
立科町中央公民館	芦田2523	88-8417
立科町老人福祉センター・保健センター	芦田2523	56-1825
高齢者生きがいセンター	芦田2529-1	56-1825
たてしな人権センター	芦田2529-15	56-0059
共生いきがいセンター	芦田2525-1	56-3721
立科温泉権現の湯	山部363-2	56-0606
立科町こども未来館（児童館）	芦田3752-9	56-0248
心かよう館（太鼓道場）	芦田3752-1	
権現山運動公園（クラブハウス）	山部353-1	
権現山屋内運動場	山部353-12	
体育センター	芦田3752-1	56-3373
立科町青少年交流センター（スカウトハウス）	芦田2529-15	
立科町ふるさと交流館「芦田宿」・移住サポートセンター	芦田2602-1	78-5645
立科町テレワークセンター（一般社団法人立科町振興公社）	芦田2602-1	77-7975
立科土地改良区	芦田2532（立科町役場内）	56-1133
交流促進センター「耕福館」	茂田井2471-1	51-4151
クラインガルテン	茂田井2484-1 問合せ：産業振興課 農林係	88-8408
道の駅女神の里たてしな	茂田井2477	51-4100
農産物加工・直売・食材供給施設	茂田井2480 問合せ：蓼科農ん喜村	51-4100
たてしな保育園	芦田2991-6	56-0022
立科小学校	芦田3700	56-3131
立科中学校	芦田3265-1	56-1076
陣内森林公園	芦田5352-1 問合せ：有限会社マスセンター	56-1085
白樺高原総合観光センター	芦田ハケ野745 問合せ：しらかば高原株式会社	55-6000
白樺高原国際スキー場	問合せ：しらかば高原株式会社	55-6000
しらかば2in1スキー場	問合せ：しらかば高原株式会社	55-6000
女神湖センター	芦田ハケ野982	55-6210
女神湖体育館（立科町役場 蓼科出張所）	芦田ハケ野1001 問合せ：産業振興課 観光商工係	55-6201
女神湖スポーツ広場1530	芦田ハケ野991-1 問合せ：産業振興課 観光商工係	55-6201
夢の平キャンプ場（5～10月）	芦田ハケ野446-1 問合せ：産業振興課 観光商工係	55-6201
蓼科野外音楽ホール	芦田ハケ野1047-1 問合せ：産業振興課 観光商工係	55-6201
御泉水自然園ビジターセンター（4～11月）	芦田ハケ野709 問合せ：しらかば高原株式会社	55-6000
蓼科牧場ゴンドラリフト	問合せ：しらかば高原株式会社	55-6000
蓼科第二牧場	問合せ：産業振興課 観光商工係	55-6201
蓼科クロスカントリーコース	問合せ：産業振興課 観光商工係	55-6201
蓼科ふれあい健康支援センター女神	芦田ハケ野1000-1	55-6151
Lake Office 女神湖	芦田ハケ野982 問合せ：産業振興課 観光商工係	55-6201

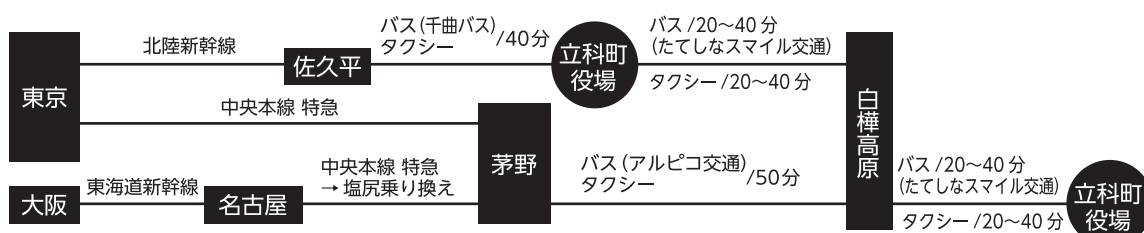
アクセス



自動車で



電車・バス・タクシーで





【町章】

雄大な山々をまるく治め、美しい自然に囲まれ、
未来に向かって雄々しく立つ立科町の姿を
「立」の字に託して図案化したものである。

昭和38年(1963年)5月8日制定

【町民憲章】

わたくしたちは、躍進する立科町の町民です。すすんで力を
あわせ、愛する郷土の未来をひらきます。

躍進と発展が立科町の最大の特徴であることを自覚し、
誇りをもつ町民となります。そして、すすんでまちづくりに参加
し、和協一致の精神で、総意を結集して、愛する郷土立科町
の輝かしい未来をひらくことを、一人ひとりの胸に誓います。



立科町マスコットキャラクター
しいなちゃん
【しいなちゃん】

しいなちゃんは、立科に住む
元気いっぱいの子。
町章入りの帽子は木々の黄緑、
帽子のボンボンはずずらんの花。
真っ赤でツヤツヤピカピカの耳あてはりんご。
水色の髪の毛は清らかな川などの流れ・しずく。
ワンピースは白樺の木。
ポケットから蓼科牛が顔を出しています。
緑の靴は大地の恵を表現しました。
立科町の食べ物が大好きで、みんなに
立科町の良さを知って欲しいと思っています。



【ロゴマーク】

立科町の「た」の文字をデザイン化。
四季折々楽しめる、
高原のリゾート気分いっぱいの
さわやかなイメージを「た」の文字を使い、
立科町の豊かな自然の風景を
デザイン的に表現。
また、「た」の文字の中心に顔を入れることで、
さわやかなブランドマークとなるよう
デザインされました。



合併70周年記念事業の一環として、
この記念すべき節目を広く皆様に
知っていただくことを目的に
記念ロゴマークを作成しました。
70周年の「70」をベースに、
りんごの輪郭、町民の笑顔、
女神湖・白樺湖などの水の恵を組み入れ、
「人と自然が輝く町」をイメージし、
可愛いらしいスズランが花を添えています。



町木【シラカバ】



町鳥【キジ】



町花【スズラン】

◆ 美しいまちをつくりましょう。

自然を愛します。
まわりをきれいにします。
公共物を大切にします。

◆ 明るいまちをつくりましょう。

スポーツに親しみます。
公衆衛生を重んじます。
安全にらせるようにします。

◆ あたたかいまちをつくりましょう。

生涯教育をすすめ、教養を高めます。
伝統を育て、文化財を大切にします。
なごやかな家庭をつくり、あたたかく人に接します。

◆ 豊かなまちをつくりましょう。

仕事に生きがい求めます。
よく考え希望をもって働きます。
たがいに仕事を理解しあいます。

◆ 住みよいまちをつくりましょう。

すすんでまちづくりに参加します。
きまりを正しく守ります。
たがいに助けあい仲間づくりをすすめます。



立科町

町勢要覧 2025



発行
長野県北佐久郡立科町

【立科町役場】
長野県北佐久郡立科町大字芦田 2532
電話 0267-56-2311(代)

【発行日】 令和7年(2025)9月
【編集】 立科町勢要覧編集委員会